大学の世界展開力強化事業（令和３年度採択）
令和６年度フォローアップ調査票

大学名 （〇が代表大学）	〇千葉大学、芝浦工業大学			
タイプ	タイプA①	※プルダウンから、タイプを選択してください。		
事業名	【和文】	ソーシャル・デザイン・イニシアティブ		
	【英文】	SDI-A：Social Design Initiative in Asia		
事業責任者 ※交替年月日は変更があった場合のみ記入	（氏　名）	植田　憲	（所属・職名）	デザイン・リサーチ・インスティテュート長
	（交替年月日）			

海外相手大学追加調書分 相手大学名 ※追加調書を提出した大学のみ記入		大学名		国名
		（日本語表記）	（英語表記）	
	1	※追加大学無し		
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL ※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用
https://socialdesigninitiative.studio.site/

１．取組内容の進捗状況 【（１）と（２）で１ページ以内、（３）～（５）で２ページ以内】

本事業における2023年度の取組内容について記入してください。

（１）取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望

①交流プログラムの内容

オンラインを含めるともちろんであるが、実際の渡航を伴う学生に限っても、派遣・受入ともに計画を上回る人数（派遣179%、受入116%）を実施することができた。また、Intensive SDIを海外６回、国内４回、合計10回実施し、合計114人（派遣59人、受入55人）、またOnlineジョイントクラスについては、２クラス開講し、合計154人が参加した。

【特に優れた取組】

昨年度と比較して、コロナ禍がようやく終息してきたため、Onlineジョイントクラスの参加人数は微減であるが、Long-term SDI、Intensive SDIともに着実に伸びており（Longterm SDI 5 →9人 180%増、Intensive SDI 59→114 193%増）、今後さらに加速していきたい。

②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成

モード２において、すでに千葉大学－浙江大学で３つのダブル・ディグリー・プログラム、千葉大学－延世大学で１つのダブル・ディグリー・プログラムの設置が完了しており、昨年度に引き続き、ＫＭＵＴＴ、バンドン工科大学とダブル・ディグリー・プログラム設置に向けて、協議を進めている。またダブル・ディグリー・プログラムの仕組みが２大学間の提携を前提に作られているため、今後、多大学間、コンソーシアムとして学位を授与するジョイント・ディグリー・プログラムも視野に入れながら進めていきたい。

【特に優れた取組】

2024年２月３日～７日に千葉大学墨田サテライトキャンパスで実施したIntensive SDIの最終日２月７日に、SDI General Assemblyを開催し、各連携機関のプログラムコミッティメンバー（浙江大学１名、延世大学２名、KMUTT１名）、及びIntensive SDIの参加学生４７人が参加し、ソーシャルデザイン研究について、またＳＤＩプログラムの質の保証、管理・運営について、ディスカッションを行った。

③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

これまで旧日中韓、キャンパス・アジア（モード２）を実施しており、多数の外国人学生の受入及び日本人学生の派遣における、制度、環境についてはある程度は整っていると言える。2023年度以降は、本取組の中心的な活動であるLong-term SDIの学生のリクルートに注力していきたい。

【特に優れた取組】

リクルートのタイミングを、冬・春期生（２～７月）、夏・秋期生（８～１月）の年２回に設定し、応募については、学生が気軽に応募しやすいよう研究プランを説明する２分程度の動画をYouTubeにアップしてもらうなど、煩雑になりがちな手続きをできるだけワンストップでできるよう環境の構築に努めている。

④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

2020年度より“ENGINE（Enhanced Network for Global Innovative Education）”が始動され、学部・大学院生の全員留学を実施しており、ENGINEと連携しながら本事業を推進する。2022年９月にＫＭＵＴＴで開催されたIntensive SDIにて、英語・日本語・中国語・韓国語の４カ国語対応のウェブサイトを完成させ、常時タイムリーな情報発信に努めている。

【特に優れた取組】

運営サイドからの情報提供よりも、参加学生からの生の情報発信の方が学生の心に刺さると考え、Instagramなどを使った学生主体の情報発信を進めている。

（2）特記すべき成果

ソーシャルな課題を解決できる人材を育成するためには、現場での活動が必須であり、実際のフィールドで調査し、自らの考えを実際に問題を抱えている人々に提案し、リアルなフィードバックを得る、それらを繰り返すことが重要となる。2023年度に実施したIntensive SDI 6つのうち5つについて、Alibaba（中国）、POSCO E&C（韓国）、トロピカルストリーム（日本）、キラキラ橘商店街（日本）、ＳＤＩプロジェクト（タイ）に、課題スポンサーとして実際の課題、フィールドの提供を頂いた。

（3）オンラインを活用した工夫・改善点

学生各自が考えたデザイン案、ソリューション案を投稿し、参加学生が自由にフィードバックを行えるデザイン案投稿プラットフォーム「Throw」が完成し、2024年1～3月をかけβ版のテストを実施した。2024年度はThrowプラットフォーム上で様々なプロジェクトを始動する。

２．交流学生数の実績等 【（１）で６ページ以内、（２）（３）で１ページ】

（１）交流する学生数について

①プログラム全体の派遣・受入交流学生数(計画)

●申請時の計画調書記載人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	12	12	12	24	24	36	36	48	48	48	132	168
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	0	0	0	12	6	18	12	24	18	24	36	78
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	12	12	12	12	18	18	24	24	30	24	96	90

●海外相手大学追加調書分

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

●合計人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	12	12	12	24	24	36	36	48	48	48	132	168
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	0	0	0	12	6	18	12	24	18	24	36	78
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	12	12	12	12	18	18	24	24	30	24	96	90

②プログラム全体の派遣・受入交流学生数（実績）

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	48	27	123	151	163	115	0	0	0	0
実際に渡航した学生（以下「実渡航」）	0	0	31	28	59	55				
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講した学生（以下「オンライン」）	A 0 / B 47	A 0 / B 27	A 9 / B 80	A 40 / B 81	A 0 / B 97	A 0 / B 57	A / B	A / B	A / B	A / B
実渡航とオンライン受講を行った学生（以下「ハイブリッド」）	1	0	3	2	7	3				
達成目標に対する実績の割合	400%	225%	1025%	629%	679%	319%	0%	0%	0%	0%

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

③：【三カ国共通の財政支援の有無及び交流相手国・地域別　内訳】（計画）

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
三カ国共通の財政支援対象となる交流学生数		12	12	12	24	18	30	30	42	42	42	114	150
交流相手国 中国	実渡航											0	0
	オンライン											0	0
	ハイブリッド											0	0
交流相手国 韓国	実渡航											0	0
	オンライン											0	0
	ハイブリッド											0	0
交流相手国 ASEAN	実渡航											0	0
	オンライン											0	0
	ハイブリッド											0	0
交流相手国 中国及び韓国	実渡航											0	0
	オンライン				12		12		12		12	0	48
	ハイブリッド	12	12	12	12	6	6	6	6	6	6	42	42
交流相手国 中国及びASEAN	実渡航											0	0
	オンライン					2	2	4	4	6	4	12	10
	ハイブリッド					2	2	4	4	6	4	12	10
交流相手国 韓国及びASEAN	実渡航											0	0
	オンライン					2	2	4	4	6	4	12	10
	ハイブリッド					2	2	4	4	6	4	12	10
交流相手国 中国、韓国及びASEAN	実渡航											0	0
	オンライン					2	2	4	4	6	4	12	10
	ハイブリッド					2	2	4	4	6	4	12	10
自己負担又は大学負担等による交流学生数		0	0	0	0	6	6	6	6	6	6	18	18
	実渡航											0	0
	オンライン											0	0
	ハイブリッド					6	6	6	6	6	6	18	18

④：【三カ国共通の財政支援の有無及び交流相手国・地域別　内訳】（実績）

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
三カ国共通の財政支援対象となる交流学生数		48	27	120	148	157	113	0	0	0	0	325	288
交流相手国 中国	実渡航					11	16					11	16
	オンライン	A	A	A	A 33	A	A	A	A	A	A	0	33
		B	B	B	B 24	B	B	B	B	B	B	0	24
	ハイブリッド											0	0
交流相手国 韓国	実渡航			8	14	19	22					27	36
	オンライン	A	A	A	A 7	A	A	A	A	A	A	0	7
		B 47	B 27	B 50	B 57	B 97	B 57	B	B	B	B	194	141
	ハイブリッド	1			2	1	2					2	4
交流相手国 ASEAN	実渡航			20	11	24	15					44	26
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	0	0
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	0	0
	ハイブリッド			2		1	1					3	1
交流相手国 中国及び韓国	実渡航											0	0
	オンライン	A	A	A 9	A	A	A	A	A	A	A	9	0
		B	B	B 30	B	B	B	B	B	B	B	30	0
	ハイブリッド											0	0
交流相手国 中国及びASEAN	実渡航											0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	0	0
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	0	0
	ハイブリッド					3						3	0
交流相手国 韓国及びASEAN	実渡航											0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	0	0
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	0	0
	ハイブリッド			1		1						2	0
交流相手国 中国、韓国及びASEAN	実渡航											0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	0	0
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	0	0
	ハイブリッド											0	0
自己負担又は大学負担等による交流学生数		0	0	3	3	6	2	0	0	0	0	9	5
	実渡航			3	3	5	2					8	5
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	0	0
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	0	0
	ハイブリッド					1						1	0

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑤：【交流形態別　内訳】（計画）

●申請時の計画調書記載人数

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数		12	12	12	24	24	36	36	48	48	48
	実渡航										
	オンライン				12	6	18	12	24	18	24
	ハイブリッド	12	12	12	12	18	18	24	24	30	24
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										
⑤単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										

●海外相手大学追加調書分

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										
⑤単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										

●合計

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数		12	12	12	24	24	36	36	48	48	48
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	12	6	18	12	24	18	24
	ハイブリッド	12	12	12	12	18	18	24	24	30	24
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

⑥：【交流形態別　内訳】（実績）

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数		0	0	40	68	59	55	0	0	0	0
	実渡航			31	28	59	55				
	オンライン	A	A	A 9	A 40	A	A	A	A	A	A
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド										
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		48	27	83	83	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		B 47	B 27	B 80	B 81	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド	1		3	2						
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	2	2	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド					2	2				
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド										
⑤単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	102	58	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		B	B	B	B	B 97	B 57	B	B	B	B
	ハイブリッド					5	1				
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド										

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑦：宿舎の提供について（実績）

宿舎（大学所有の宿舎、大学借り上げによる宿舎等）を提供した学生数	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	1	0	10	0	41	0					52	0

⑧ 同窓会ネットワークへの参加者数について（実績）　※タイプA①・タイプA②のみ

第２モードまでの間に準備を進めてきた同窓会ネットワークへの参加者数について	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	合計
	24	57	69			150

⑨：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

オンラインを含めない実渡航した学生に限っても計画よりも多い66人（Long-term SDI 7人、Intensive SDI 59人 ）の派遣を実施し、オンラインについては、97人の派遣を行い、合計163人の学生を派遣することができた。さらに昨年度と比較すると34人→66人（Long-term SDI 3人→7人、Intensive SDI 31人→59人 ）と194％増であり、コロナ禍が終息し着実に伸びており、今後も引き続き増加に努めたい。

【特に優れた取組】
Intensive SDIの派遣について、2023年度は計６回（６月＠ソウル科学技術大学校、７月＠浙江大学、８月延世大学、２月＠Sebelas Maret University、３月＠KMUTT、３月＠バンドン工科大学）実施することができ、昨年度４回から２回増やすことができた。また昨年度は実施できなかったインドネシアで２回実施することができ、着実に連携地域、連携機関の拡大につながる活動が行えた。

⑩：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

オンラインを含めない実渡航した学生に限っても、計画よりも多い58名（ Long-term SDI 3人、Intensive SDI 55人 ）の学生を受け入れた。さらに2つのOnlineジョイントクラスを実施することにより、合計で57人の学生をオンラインで受け入れることができ、合計115人の学生を受け入れることができた。さらに昨年度と比較すると30人→58人（Long-term SDI 2人→3人、Intensive SDI 28人→55人 ）と193％増であり、コロナ禍が終息し着実に伸びており、今後も引き続き増加に努めたい。

【特に優れた取組】
Intensive SDIの受入について、2023年度は計４回（11月（バンドン工科大学、中国美術学院）、11月（ソウル科学技術大学校）、２月（浙江大学、延世大学、KMUTT）、２月（ソウル大学校））実施することができ、昨年度２回から２回増やすことができた。また連携機関についても、バンドン工科大学を新たに追加することができ、着実に連携地域、連携機関の拡大につながる活動が行えた。

（２） その他（上記（１）に該当するもの以外）

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
		人
		人
		人
		人

（３） 任意指標 ※タイプA②・タイプB②のみ

① 本事業で設定している任意指標

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
（指標1）					
（指標2）					
（指標3）					
（指標4）					
（指標5）					

② **2023年度末における目標の達成状況**

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
（指標1）					
（指標2）					
（指標3）					
（指標4）					
（指標5）					

③ **進捗状況のコメント**

【特に優れた取組】

（4）本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

（ⅰ）単位互換を実施する海外相手大学数【計画】　（単位：校）

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
単位互換を実施する海外相手大学数	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	2	2	2	2	6	6	8	8	12	12

（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【計画】　（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学　【大学名：千葉大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
浙江大学	認定者数	8	8	8	8	8
	認定単位数	1	2	2	2	2
延世大学	認定者数	8	8	8	8	8
	認定単位数	1	2	2	2	2
マヒドン大学　他	認定者数			4	6	12
	認定単位数			2	2	4
年度別認定者数合計		16	16	20	22	28
年度別認定単位合計		2	4	6	6	8

2. 国内連携大学　【大学名：芝浦工業大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
浙江大学	認定者数	4	4	4	4	4
	認定単位数	1	2	2	2	2
延世大学	認定者数	4	4	4	4	4
	認定単位数	1	2	2	2	2
マヒドン大学　他	認定者数			2	6	6
	認定単位数			2	2	4
年度別認定者数合計		8	8	10	14	14
年度別認定単位合計		2	4	6	6	8

【2023年度末における目標の達成状況】

（ⅰ）単位互換を実施した海外相手大学数【実績】　（単位：校）

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
単位互換を実施した海外相手大学数	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	1	0	2	3	3	2				

（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【実績】　（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学　【大学名：千葉大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
延世大学（大学院）	認定者数	1	4	2		
	認定単位数	10	10	10		
延世大学（学部）	認定者数	6	6	0		
	認定単位数	12	12	0		
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		7	10	2	0	0
年度別認定単位合計		22	22	10	0	0

2. 国内連携大学　【大学名：芝浦工業大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
KMUTT	認定者数	0	11	5		
	認定単位数	0	22	10		
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	11	5	0	0
年度別認定単位合計		0	22	10	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和３年度採択）
令和６年度フォローアップ調査票

大学名 （○が代表大学）	東京大学			
タイプ	タイプA①	※プルダウンから、タイプを選択してください。		
事業名	【和文】	アジアの国際関係・公共政策：DD、交換留学、オンライン教育のためのBESETO＋NUS共同教育基盤形成		
	【英文】	BESETO＋NUS Platform for the Double Degree, Exchange and Online Learning Programs on International and Public Policy Studies in Asia		
事業責任者 ※交替年月日は変更があった場合のみ記入	（氏　名）	川口　大司	（所属・職名）	大学院公共政策学教育部長
	（交替年月日）	令和6年4月1日		

海外相手大学追加調書分 相手大学名 ※追加調書を提出した大学のみ記入		大学名		国名
		（日本語表記）	（英語表記）	
	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL ※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用
https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/intl-activities/global/d03_01_04.html

１．取組内容の進捗状況 【（1）と（2）で１ページ以内、（3）～（5）で２ページ以内】

本事業における2023年度の取組内容について記入してください。

（1）取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望

①交流プログラムの内容

●東京大学公共政策大学院、北京大学国際関係学院、ソウル大学校国際大学院、シンガポール国立大学リー・クァンユー公共政策大学院によるダブルディグリーと交換留学の学生交流プログラム。学生は、ダブルディグリーと交換留学によって2校に留学することを基本パターンとしている。プログラムはすべて英語で行われる。

●課題と展望：課題は、ダブルディグリー＋交換留学で1年半の留学期間が、標準修業年限が2年の大学院生にとって負担となり、就職との兼ね合いで2年で修了したい学生にとって参加のハードルが高い点である。展望としては、今後1学期のみの交換留学や1年のダブルディグリーのみというような、柔軟なプログラム参加の在り方について検討して行きたい。

【特に優れた取組】

アジアトップクラスの４大学でのダブルディグリーと交換留学を実施し、国際的なネットワークのスケールメリットを利用して、一大学では提供しえない多様で高度な教育機会を提供し、学生が国際経験を積むことにより、語学力の向上と異文化理解の向上に寄与している。

②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成

学生交流と学生支援の枠組みに関する覚書を本学が取りまとめ、4校連名で締結した。単にダブルディグリー、交換留学を行うだけでなく、本学においては、プログラムの特色であるCAMPUS Asia Joint Courseを提供し、協定校の教員を招聘した講義やグループワーク、省庁訪問やフィールドトリップによってアジアおよび日本の公共政策・国際関係について学ばせている。今後交換留学のみ、ダブルディグリーのみの参加も認める場合、これまで通りの質を担保できるように留意する必要がある。

【特に優れた取組】

CAMPUS Asia Joint Courseの提供により、国籍を超えたキャンパスアジア学生同士のネットワークとアイデンティティ形成につながっている。省庁訪問やフィールドトリップにより、日本の公共政策について直接学べる機会を提供している。総務省職員がフィールドトリップに同行して留学生や日本人学生と英語で議論するなど、官学双方に有益な交流の場を提供している。

③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

令和5年度においてはコロナ禍が終息し、全員実渡航での交流をおこなった。受入学生には寮の提供を行った。派遣学生・受入学生とも、派遣/受入前から留学生活を円滑に進めるための情報提供などのサポートを継続して実施した。派遣学生については、プログラム参加生全員が加入する付帯海学を導入した。特に課題はない。

【特に優れた取組】

受入学生については、学期の初めに日本人学生と留学生がグループワークによりチームビルディングを行うという「M1セミナー」というイベントを開催している。

④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

令和５年１０月に、文部科学省と共に「キャンパス・アジアと国際教育政策」をテーマにセミナーをハイブリッド形式で実施し、全国の採択校などから約70名の参加があった。https://www.pp.u-tokyo.ac.jp/news/2023-11-14-44711/

ウェブサイトについては、説明会や募集の告知、財務省、経済産業省、富士山へのOne-dayトリップ、福島フィールドトリップなどのアクティビティの報告や参加学生の体験談など、頻度を上げて更新した。入学ガイダンス、入試説明会、留学説明会でのプログラムの紹介の他、ウェビナー「GraSPP公共政策トーク」でのアジア特集や対面での相談会を行い、プログラムの周知に貢献した。今後も継続して周知活動を行う。

【特に優れた取組】

10月に行ったハイブリッド形式のセミナー「キャンパス・アジアと国際教育政策」では文部科学省からこれまでの文部科学省の取り組みに加え、キャンパス・アジアを含めた大学の国際展開力強化事業プログラムの概要について詳細な情報を共有していただいた。

（2）特記すべき成果

●下記のようにグローバルに活躍する修了生たちを輩出している。

(1)キャンパスアジア修了生が、世界経済フォーラムが組織するGlobal Shapers Communityにて北東アジア地域の代表を務め、ダボス会議に世界の若者の50人（Davos 50）として参加する機会を得た。(2)キャンパスアジア修了生が、経済産業省のエネルギートランジション専門官としてCOP28に参加した。(3)キャンパスアジア修了生が、三国協力事務所が組織したTrilateral Youth Exchange Network (TYEN)の日本・韓国の青年代表として活動した。

●シンガポールからの留学生による発信：キャンパスアジアで福島へのフィールドトリップに参加したシンガポールからの留学生が寄稿したエッセイ『Reclaiming time, place and belonging: Fukushima 12 years on』がKomaba Timesに掲載された。https://www.pp.u-tokyo.ac.jp/news/2024-04-26-47017/

（3）オンラインを活用した工夫・改善点

令和5年度においてはコロナ禍が終息し、原則として授業は対面で行った。一部の授業につき教育効果において必須と認められる場合はオンライン・ハイブリッドでの授業を認めた。

大学間の協議においては、Zoomによるオンライン会議を開催することにより、出張して教職員が一堂に集まるコストと時間を省略した。

２．交流学生数の実績等 【（１）で６ページ以内、（２）（３）で１ページ】

（１）交流する学生数について

①プログラム全体の派遣・受入交流学生数(計画)

●申請時の計画調書記載人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	13	12	10	12	10	11	12	12	12	12	57	59
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	0	0	0	0	7	10	9	11	9	11	25	32
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	6	11	6	0	3	1	3	1	3	1	21	14
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	7	1	4	12	0	0	0	0	0	0	11	13

●海外相手大学追加調書分

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）											0	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）											0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）											0	0

●合計人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	13	12	10	12	10	11	12	12	12	12	57	59
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	0	0	0	0	7	10	9	11	9	11	25	32
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	6	11	6	0	3	1	3	1	3	1	21	14
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	7	1	4	12	0	0	0	0	0	0	11	13

②プログラム全体の派遣・受入交流学生数（実績）

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	12	11	14	12	11	14	0	0	0	0
実際に渡航した学生（以下「実渡航」）	0	0	9	0	11	14				
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講した学生（以下「オンライン」）	A 6	A 8	A 2	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B
実渡航とオンライン受講を行った学生（以下「ハイブリッド」）	6	3	3	12	0	0				
達成目標に対する実績の割合	92%	92%	140%	100%	110%	127%	0%	0%	0%	0%

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

③：【三カ国共通の財政支援の有無及び交流相手国・地域別　内訳】（計画）

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
三カ国共通の財政支援対象となる交流学生数		12	12	10	12	10	11	12	12	12	12	56	59
交流相手国 中国	実渡航	0	0	0	0	3	5	4	5	4	5	11	15
	オンライン	6	6	5	0	1	0	1	0	1	0	14	6
	ハイブリッド	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	6
交流相手国 韓国	実渡航	0	0	0	0	3	5	4	5	4	5	11	15
	オンライン	0	5	0	0	1	0	1	0	1	0	3	5
	ハイブリッド	6	0	4	5	0	0	0	0	0	0	10	5
交流相手国 ASEAN	実渡航	0	0	0	0	1	0	1	1	1	1	3	2
	オンライン	0	0	1	0	1	1	1	1	1	1	4	3
	ハイブリッド	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2
交流相手国 中国及び韓国	実渡航											0	0
	オンライン											0	0
	ハイブリッド											0	0
交流相手国 中国及びASEAN	実渡航											0	0
	オンライン											0	0
	ハイブリッド											0	0
交流相手国 韓国及びASEAN	実渡航											0	0
	オンライン											0	0
	ハイブリッド											0	0
交流相手国 中国、韓国及びASEAN	実渡航											0	0
	オンライン											0	0
	ハイブリッド											0	0
自己負担又は大学負担等による交流学生数		1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0

④：【三カ国共通の財政支援の有無及び交流相手国・地域別　内訳】（実績）

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
三カ国共通の財政支援対象となる交流学生数		11	11	12	12	11	14	0	0	0	0	34	37
交流相手国 中国	実渡航	0	0	0	0	2	7					2	7
	オンライン	A 6	A 6	A 1	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A	7	6
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B	0	0
	ハイブリッド	0	0	3	7	0	0					3	7
交流相手国 韓国	実渡航	0	0	8	0	7	5					15	5
	オンライン	A 0	A 2	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A	0	2
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B	0	0
	ハイブリッド	4	3	0	4	0	0					4	7
交流相手国 ASEAN	実渡航	0	0	0	0	2	2					2	2
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A	0	0
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B	0	0
	ハイブリッド	1	0	0	1	0	0					1	1
交流相手国 中国及び韓国	実渡航											0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	0	0
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	0	0
	ハイブリッド											0	0
交流相手国 中国及びASEAN	実渡航											0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	0	0
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	0	0
	ハイブリッド											0	0
交流相手国 韓国及びASEAN	実渡航											0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	0	0
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	0	0
	ハイブリッド											0	0
交流相手国 中国、韓国及びASEAN	実渡航											0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	0	0
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	0	0
	ハイブリッド											0	0
自己負担又は大学負担等による交流学生数		1	0	2	0	3	0	0	0	0	0	6	0
	実渡航	0	0	1	0	3	0					4	0
	オンライン	A 0	A 0	A 1	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A	1	0
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B	0	0
	ハイブリッド	1	0	0	0	0	0					1	0

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑤：【交流形態別　内訳】（計画）

●申請時の計画調書記載人数

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数		13	12	10	12	10	11	12	12	12	12
	実渡航	0	0	0	0	7	10	9	11	9	11
	オンライン	6	11	6	0	3	1	3	1	3	1
	ハイブリッド	7	1	4	12	0	0	0	0	0	0
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										
⑤単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										

●海外相手大学追加調書分

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										
⑤単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										

●合計

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数		13	12	10	12	10	11	12	12	12	12
	実渡航	0	0	0	0	7	10	9	11	9	11
	オンライン	6	11	6	0	3	1	3	1	3	1
	ハイブリッド	7	1	4	12	0	0	0	0	0	0
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

⑥：【交流形態別　内訳】（実績）

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド										
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド										
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数		12	11	14	12	11	14	0	0	0	0
	実渡航	0	0	9	0	11	14				
	オンライン	A 6	A 8	A 2	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B
	ハイブリッド	6	3	3	12	0	0				
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド										
⑤単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド										
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド										

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑦：宿舎の提供について（実績）

宿舎（大学所有の宿舎、大学借り上げによる宿舎等）を提供した学生数	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	6	3	12	11	11	14					29	28

⑧ 同窓会ネットワークへの参加者数について(実績)　※タイプA①・タイプA②のみ

第２モードまでの間に準備を進めてきた同窓会ネットワークへの参加者数について	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	合計
	5	7	11			23

⑨：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

2023年度（令和5年度）の学生派遣は、すべて実渡航により行った。派遣人数は11名で、申請時の計画を上回った。内訳は、北京大学へ2名（ダブルディグリー1名、交換留学1名）、ソウル大学校へ7名（ダブルディグリー2名、交換留学5名）、シンガポール国立大学へ2名（ダブルディグリー2名）であった。

【特に優れた取組】

日本人学生が多く在籍するコース入学予定者をメインターゲットとできるよう、参加学生のリクルートの方法について検討し、募集するたびにこまめに説明会や相談会を開催し、進学予定の学生が平均して１０人前後参加した。
主に4月の入学者をターゲットとして入学ガイダンスや入試説明会、留学説明会での呼びかけを行い、秋以降は4月入学予定者向けに説明・相談会を開催して参加者募集を行い、令和6年度以降の派遣学生を選抜した。ダブルディグリーによる令和5年度の本学修了者は13名（東京大学5名、北京大学2名、ソウル大学校5名、シンガポール国立大学1名）に上り、質の保証を伴った学位プログラムとしての実績に貢献した。

⑩：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

2023年度（令和5年度）の学生受入は、すべて実渡航により行った。受入人数は14名で、申請時の計画を上回った。内訳は、北京大学から7名（ダブルディグリー5名、交換留学2名）、ソウル大学校5名（ダブルディグリー4名、交換留学1名）、シンガポール国立大学2名（交換留学2名）であった。

【特に優れた取組】
本大学院では教職員がほぼ全員英語対応可能であることから、渡日にかかるサポートをはじめ、単位認定、履修相談などのサポートも英語で効果的に行われた。本学における取組はダブルディグリーと交換留学による学生交流を基本としているが、プログラムの特徴的な取組であるキャンパスアジア・ジョイントコースという授業では、プログラム生以外から特にASEAN出身の学生の参加を呼び掛けている。

2023年度は福島県浪江町・双葉町へのフィールドトリップを行ったが、中国人・韓国人の受入学生の中には不安を訴える学生も複数いたため、事前に経済産業省を訪問し、福島復興推進グループ室長補佐とのディスカッションを行うなどして事実に基づいた理解を促す努力を行った。また、フィールドトリップでの経験を書いたシンガポール人学生のエッセイが東京大学の「Komaba Times」に掲載された。https://www.pp.u-tokyo.ac.jp/news/2024-04-26-47017/

（2）　その他（上記（1）に該当するもの以外）

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
	該当なし	人
		人
		人
		人

（3）　任意指標　※タイプA②・タイプB②のみ

①　本事業で設定している任意指標

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
（指標1）					
（指標2）					
（指標3）					
（指標4）					
（指標5）					

②　2023年度末における目標の達成状況

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
（指標1）					
（指標2）					
（指標3）					
（指標4）					
（指標5）					

③　進捗状況のコメント

【特に優れた取組】

（4）本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

（ｉ）単位互換を実施する海外相手大学数【計画】　（単位：校）

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
単位互換を実施する海外相手大学数	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3

（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【計画】　（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学　【大学名：　東京大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
北京大学	認定者数	6	5	4	5	5
	認定単位数	69	77	59	51	51
ソウル大学校	認定者数	6	4	4	5	5
	認定単位数	43	33	33	51	51
シンガポール国立大学	認定者数	1	1	2	2	2
	認定単位数	18	18	36	36	36
年度別認定者数合計		13	10	10	12	12
年度別認定単位合計		130	128	128	138	138

2. 国内連携大学　【大学名：　　大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位合計		0	0	0	0	0

【2023年度末における目標の達成状況】

（ｉ）単位互換を実施した海外相手大学数【実績】　（単位：校）

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
単位互換を実施した海外相手大学数	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	3	3	2	3	3	3				

（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【実績】　（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学　【大学名：　東京大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
北京大学	認定者数	6	2	3		
	認定単位数	65	19	36		
ソウル大学校	認定者数	4	6	2		
	認定単位数	43	39	17		
シンガポール国立大学	認定者数	1	0	0		
	認定単位数	15	0	0		
年度別認定者数合計		11	8	5	0	0
年度別認定単位合計		123	58	53	0	0

2. 国内連携大学　【大学名：　　大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位合計		0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和３年度採択）
令和６年度フォローアップ調査票

大学名 （○が代表大学）	東京藝術大学			
タイプ	タイプA①	※プルダウンから、タイプを選択してください。		
事業名	【和文】	日中韓＋ASEANの文化・経済圏発展に向けた、アニメーション教育・研究のための共創プラットフォーム構築		
	【英文】	Asian Animation Education Network: Establishment and Management		
事業責任者 ※交替年月日は変更があった場合のみ記入	（氏　名）	岡本　美津子	（所属・職名）	映像研究科・教授
	（交替年月日）			

海外相手大学追加調書分
相手大学名

※追加調書を提出した大学のみ記入

	大学名		国名
	（日本語表記）	（英語表記）	
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL ※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用
https://animation.geidai.ac.jp/ https://ca.geidai.ac.jp/

１．取組内容の進捗状況 【（1）と（2）で1ページ以内、（3）～（5）で2ページ以内】

本事業における2023年度の取組内容について記入してください。

（1）取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望

①交流プログラムの内容

2023年7月に短編アニメーション国際共同制作プログラム「Co-work」を修士課程学生向けに実施し、連携大学である本学と韓国芸術綜合学校(KARTS)および中国伝媒大学(CUC)の学生からなる混成チームにより6篇の作品が完成した。コロナ禍が明けたことにより、4年ぶりに３国の学生と教員が本学映像研究科（横浜市）において対面形式で実施した。

2024年1月にアジアアニメーション教育ネットワーク(AAEN)の2023年度総会を、シラパコーン大学で実施した。総会では、日本、韓国、中国、タイ、ラオスの教員、学生、映像制作の専門家等が一堂に会し、上映会と研究発表会を実施した。上映会ではCo-workの完成作品や、各国の学生作品を上映した。研究発表会ではアジアでのアニメーション教育に関する取り組みの紹介がなされ、アニメーション高等教育の共同プログラムをさらに発展させる方法を議論した。

学部生向けプログラムとして、2023年6月に、タイ・キングモンクット工科大学主催で、モーションコミック制作ワークショップを実施した。韓国芸術綜合学校、中国伝媒大学、シラパコーン大学、キングモンクット工科大学から学生チームが参加した。また、期間中には、教員と学生向けにセミナーが開かれ、本学教員を含む日中韓タイの４カ国の教員が各大学のカリキュラムや各国の映像文化の最新状況を発表した。

また、同じく学部生向けプログラムとして、2024年1月に、本学主催のゲーム企画開発ワークショップをタイ・シラパコーン大学で行った。本学の学生およびシラパコーン大学、キングモンクット大学、ランシット大学、カンタナ・インスティチュートの学生が参加した。講師として大手ゲームスタジオのスクウェア・エニックス社よりゲーム開発のプロデューサーを招き、産業界の視点からゲームやアニメーション制作に求められるマインドや技術を示した。上記２つの学部向けプログラムに参加した学生には履修認定書が授与され、在籍機関による単位の読み替えを可能とした。

【特に優れた取組】

・主に対面式で行われた今年度のCo-workだったが、中国伝媒大学でアニメーションを学ぶ学部生がオンラインで参加し、制作のアシスタントとして貢献した。この試みにより、プロジェクトの進行をリードする大学院生チームのマネージメントやコラボレーション能力も上がった。

・Co-workプログラムをを CUC学生として履修した学生が、その後本校修士課程に入学するなど良い人的循環が起こっている。

②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成

Co-workに参加して作品を完成させた大学院生とアシスタントとして加わった学部生は、それぞれ在籍する大学から該当科目の成績と単位が付与される。また、学部生向けに開催されたワークショップでは、主催大学が中心となって履修認定書を準備し、参加学生が在籍機関で単位に読み替えられるように整備している。本学においては、グローバル戦略推進委員会における協議、外部有識者により構成されるグローバル戦略評価・検証委員会における第三者評価を実施し、事業の評価を行った。

【特に優れた取組】

本学では2021年度入学者までは2単位科目だったCo-work（国際共同制作演習）だが、2022年入学者以降は3単位になった。これは、Co-workの学習時間の長さと優れた内容が質保証された大学院プログラムと認められ、実態に見合った単位数に修正されたためである。

③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

プロジェクト専任教職員3名を配置し、学生受入及び派遣の支援体制を整備した。また、オンラインで共同制作に参加する学生にも配慮し、各国の事情に対応した通信環境とツールを用意した。加えて、日本人学生には、演習と渡航の前には語学力強化を目的とした勉強会を実施した。

【特に優れた取組】

2023年度Co-workは開催地が横浜であったために本学学生の渡航はなかったが、2024年1月にタイで行ったゲーム企画開発ワークショップおよびAAEN総会に派遣し、ワークショップ参加や作品発表を行った。その際、Co-workのメンバーと再会したり現地の学生と交流することで、アジアのアイデンティティを肌で感じる機会を得た。同じタイでもバンコクだけではなく地方の大学にも訪問して自己作品をプレゼンテーションし、同じ志を持つ若手クリエーターと意見交換することで、さらに視野を広げることができた。

④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

2010年から始まったCo-workの作品は全84本に上り、実施内容や成果をインターネット上で発信している。

・Tokyo Geidai Campus Asia Plus　https://ca.geidai.ac.jp/（日本国内用）

・Campus Asia　http://caica.online/（英語版、全作品視聴可能））

【特に優れた取組】

年に１回AAEN総会を開催し、Co-workの成果発表や学生の作品上映、教員や専門家による研究発表等を実施している。2021年度はオンライン（本校主催）、2022年度は韓国芸術綜合学校にて、2023年度はタイ・シラパコーン大学にて開催。この総会の事業報告も上記ウェブサイトに載せている。

（２）特記すべき成果

過去のCo-workに参加した本学映像研究科アニメーション専攻修了生による2023年度受賞例：

・2022年度修了生、Co-work 2021参加生のハルマンダル・チャール修了作品「Vision」第10回新千歳空港国際アニメーション映画祭日本グランプリ

・2022年度修了生、Co-work 2020参加生の王俊捷修了作品「よだか」ISCA2023国内映像コンテンツ部門優秀作

・2020年度修了生、Co-work 2018参加生の岡田詩歌作品「恋脳Experiment」第45回ぴあフィルムフェスティバルPFFスカラシップ

・2015年度修了生、Co-work 2014参加生の小川育参加作品「ポケモンコンシェルジュ」第51回アニー賞TV／メディア 最優秀監督カテゴリー最終ノミネート

（３）オンラインを活用した工夫・改善点

Co-Workプログラム「プリ・企画ステージ」として、対面式共同制作に入る前に４回、インターネットを利用した事前ワークショップを英語で実施した。6月1日：各学生によるストーリーボード案の発表6月13日：グループ分けをメールで公表。6月15日：各グループによる企画案の発表、ストーリーボードの作業をグループ毎に進める。7月11日：ストーリーボードの発表

対面とオンライン両方を使用した共同企画と共同制作の実施を可能にするため、各国の事情にも対応した通信環境とツールの整備を行った。具体的には、ファイルの共有に「Microsoft OneDrive」、ミーティング/レクチャー/プレゼンテーションに「Zoom」、プロジェクト管理/全体および各グループ内のメッセージングに「Slack」、映像ストリーミングに「YouTube」や「Youku」を利用した。

２．交流学生数の実績等 【（１）で６ページ以内、（２）（３）で１ページ】

（１）交流する学生数について

①プログラム全体の派遣・受入交流学生数(計画)

●申請時の計画調書記載人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	1	2	8	15	10	19	10	19	10	19	39	74
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	0	0	2	2	3	3	3	3	3	3	11	11
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	1	2	1	3	2	6	2	6	2	6	8	23
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	5	10	5	10	5	10	5	10	20	40

●海外相手大学追加調書分

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

●合計人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	1	2	8	15	10	19	10	19	10	19	39	74
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	0	0	2	2	3	3	3	3	3	3	11	11
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	1	2	1	3	2	6	2	6	2	6	8	23
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	5	10	5	10	5	10	5	10	20	40

②プログラム全体の派遣・受入交流学生数（実績）

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	15	12	19	46	11	57	0	0	0	0
実際に渡航した学生（以下「実渡航」）	0	0	12	19	5	27				
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講した学生（以下「オンライン」）	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A	A
	B 15	B 12	B 7	B 27	B 0	B 14	B	B	B	B
実渡航とオンライン受講を行った学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	0	0	6	16				
達成目標に対する実績の割合	1500%	600%	238%	307%	110%	300%	0%	0%	0%	0%

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

③：【三カ国共通の財政支援の有無及び交流相手国・地域別　内訳】（計画）

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
三カ国共通の財政支援対象となる交流学生数		1	2	8	15	10	19	10	19	10	19	39	74
交流相手国 中国	実渡航	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	4	4
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	5	0	5	0	5	0	5	0	20
交流相手国 韓国	実渡航	0	0	1	1	2	2	2	2	2	2	7	7
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	5	0	5	0	5	0	5	0	20
交流相手国 ASEAN	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
交流相手国 中国及び韓国	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	5	0	5	0	5	0	5	0	20	0
交流相手国 中国及びASEAN	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
交流相手国 韓国及びASEAN	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
交流相手国 中国、韓国及びASEAN	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	1	2	1	3	2	6	2	6	2	6	8	23
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自己負担又は大学負担等による交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

④：【三カ国共通の財政支援の有無及び交流相手国・地域別　内訳】（実績）

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
三カ国共通の財政支援対象となる交流学生数		15	12	19	46	11	57	0	0	0	0	45	115
交流相手国 中国	実渡航	0	0	0	0	0	1					0	1
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A	0	0
		B 0	B 0	B 0	B 21	B 0	B 0	B	B	B	B	0	21
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0					0	0
交流相手国 韓国	実渡航	0	0	0	0	0	0					0	0
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A	0	0
		B 0	B 0	B 0	B 6	B 0	B 0	B	B	B	B	0	6
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0					0	0
交流相手国 ASEAN	実渡航	0	0	0	16	0	26					0	42
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A	0	0
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0					0	0
交流相手国 中国及び韓国	実渡航	0	0	0	0	0	0					0	0
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A	0	0
		B 0	B 0	B 7	B 0	B 0	B 14	B	B	B	B	7	14
	ハイブリッド	0	0	0	0	6	16					6	16
交流相手国 中国及びASEAN	実渡航	0	0	0	0	0	0					0	0
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A	0	0
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0					0	0
交流相手国 韓国及びASEAN	実渡航	0	0	0	0	0	0					0	0
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A	0	0
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0					0	0
交流相手国 中国、韓国及びASEAN	実渡航	0	0	12	3	5	0					17	3
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A	0	0
		B 15	B 12	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B	15	12
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0					0	0
自己負担又は大学負担等による交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0					0	0
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A	0	0
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0					0	0

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑤：【交流形態別　内訳】（計画）

●申請時の計画調書記載人数

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	7	12	8	13	8	13	8	13
	実渡航	0	0	2	2	3	3	3	3	3	3
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	5	10	5	10	5	10	5	10
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数		1	2	1	3	2	6	2	6	2	6
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	1	2	1	3	2	6	2	6	2	6
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

●海外相手大学追加調書分

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

●合計

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	7	12	8	13	8	13	8	13
	実渡航	0	0	2	2	3	3	3	3	3	3
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	5	10	5	10	5	10	5	10
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数		1	2	1	3	2	6	2	6	2	6
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	1	2	1	3	2	6	2	6	2	6
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

⑥：【交流形態別　内訳】（実績）

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	16	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	16	0	0				
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0				
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0				
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0				
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	7	11	6	30	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0				
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
		B 0	B 0	B 7	B 11	B 0	B 14	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0	0	0	6	16				
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数		15	12	12	3	5	26	0	0	0	0
	実渡航	0	0	12	3	5	26				
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
		B 15	B 12	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0				
⑤単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	1				
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0				
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	16	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0				
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
		B 0	B 0	B 0	B 16	B 0	B 0	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0				

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑦：宿舎の提供について（実績）

宿舎（大学所有の宿舎、大学借り上げによる宿舎等）を提供した学生数	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0					0	0

⑧ 同窓会ネットワークへの参加者数について（実績）　※タイプA①・タイプA②のみ

第２モードまでの間に準備を進めてきた同窓会ネットワークへの参加者数について	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	合計
	15	19	11			45

⑨：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

Co-Workプログラム「プリ・企画ステージ」として、対面式共同制作に入る前に４回、インターネットを利用した事前ワークショップを英語で実施し、学生はオンラインで参加した。（6月1日：各学生によるストーリーボード案の発表6月13日：グループ分けをメールで公表。6月15日：各グループによる企画案の発表、ストーリーボードの作業をグループ毎に進める。7月11日：ストーリーボードの発表）7月24日から8月5日にかけて行われたCo-work「企画ステージ」「制作ステージ」は、本学横浜校地で実施され、その間、本学学生の海外派遣はなかったが、グループワークによって6作品が完成した。
2024年1月には、本学学生を、タイ・シラパコーン大学でのAAEN総会に派遣し、Co-Work作品の上映とプレゼンテーション、および自身の修士1年次作品の上映とプレゼンテーションを行った。
その上映とプレゼンテーション、また、本学とシラパコーン大学が共催した、主にタイの学部生を対象としたゲーム企画開発ワークショップにも参加し、見事なチームワークで大学院生にふさわしい企画の立案とプレゼンテーションを行った。また、バンコク郊外のランシット大学やチェンマイ大学にも訪問し、相互の学生作品を鑑賞したのち、本学での学習内容や日本のアニメーション文化の現状などについて挙げられた多くの質問にそれぞれの意見を語った。
短期交換留学については、韓国芸術綜合学校と中国伝媒大学と締結している協定を基に実施再開を試みたが、コロナ後に受入を再開をしているのが本学のみだったため、学生の派遣は実現しなかった。

【特に優れた取組】
2023年度Co-workは開催地が横浜であったために本学学生の渡航はなかったが、2024年1月にタイで行ったゲーム企画開発ワークショップおよびAAEN総会に派遣し、ワークショップ参加や作品発表を行った。その際、Co-workのメンバーと再会したり現地の学生と交流することで、アジアのアイデンティティを肌で感じる機会を得た。同じタイでもバンコクだけではなく地方の大学にも訪問して自己作品をプレゼンテーションし、同じ志を持つ若手クリエーターと意見交換することで、さらに視野を広げることができた。

⑩：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

本学で開催したCo-workには、韓国芸術綜合学校と中国伝媒大学から合計16名の学生が来日した。そのほかに、オンラインで参加した制作アシスタントが14名おり、膨大な作業量となるアニメーション作りに貢献した。来日メンバーとアシスタントの30名は、制作前のプレ企画ステージからオンラインでの打ち合わせにも参加した。
短期交換留学の受入再開に伴い、中国伝媒大学から博士課程の学生を1名迎えた。日本の物価上昇と、短期の宿泊先の確保が困難なため、韓国芸術綜合学校からの受入はかなわなかった。

【特に優れた取組】
2024年1月に本学がシラパコーン大学の協力を得てAAEN総会をタイで実施した際、コロナ禍中につきオンラインでしか交流ができなかった2022年度の韓国・中国のCo-work参加学生の有志も参加し、2023年度のCo-work作品だけでなく2022年度の作品も上映し、生身の観客によるリアクションを体感することができた。

（2）　その他（上記（1）に該当するもの以外）

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
		人
		人
		人
		人

（3）　任意指標　※タイプA②・タイプB②のみ

①　本事業で設定している任意指標

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
（指標1）					
（指標2）					
（指標3）					
（指標4）					
（指標5）					

②　2023年度末における目標の達成状況

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
（指標1）					
（指標2）					
（指標3）					
（指標4）					
（指標5）					

③　進捗状況のコメント

【特に優れた取組】

（4）本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

（ｉ）単位互換を実施する海外相手大学数【計画】　（単位：校）

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
単位互換を実施する海外相手大学数	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1

（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【計画】　（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学　【大学名：東京藝術大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
中国伝媒大学	認定者数	0	0	0	0	0
	認定単位数	0	0	0	0	0
韓国芸術総合学校	認定者数	0	0	1	1	1
	認定単位数	0	0	10	10	10
シラパコーン大学	認定者数	0	0	0	0	0
	認定単位数	0	0	0	0	0
	認定者数	0	0	0	0	0
	認定単位数	0	0	0	0	0
年度別認定者数合計		0	0	1	1	1
年度別認定単位合計		0	0	10	10	10

2. 国内連携大学　【大学名：　　大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位合計		0	0	0	0	0

【2023年度末における目標の達成状況】

（ｉ）単位互換を実施した海外相手大学数【実績】　（単位：校）

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
単位互換を実施した海外相手大学数	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	2	2	2	2				

（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【実績】　（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

（ｉ）代表申請大学　【大学名：東京藝術大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
中国伝媒大学	認定者数	0	0	0		
	認定単位数	0	0	0		
韓国芸術総合学校	認定者数	0	0	0		
	認定単位数	0	0	0		
シラパコーン大学	認定者数	0	0	0		
	認定単位数	0	0	0		
中国伝媒大学・韓国芸術総合学校	認定者数	0	7	6		
	認定単位数	0	21	18		
年度別認定者数合計		0	7	6	0	0
年度別認定単位合計		0	21	18	0	0

2. 国内連携大学　【大学名：　　大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位合計		0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和３年度採択）
令和６年度フォローアップ調査票

大学名 （〇が代表大学）	東京工業大学			
タイプ	タイプA①	※プルダウンから、タイプを選択してください。		
事業名	【和文】	日中韓新先進科学技術4大学 (T²KN) 共同教育プログラム		
	【英文】	Joint Education and Research Programs of Top Asian Science and Engineering Universities (T²KN Consortium)		
事業責任者 ※交替年月日は変更があった場合のみ記入	（氏　名）	調　麻佐志	（所属・職名）	リベラルアーツ研究教育院・教授
	（交替年月日）			

海外相手大学追加調書分 相手大学名 ※追加調書を提出した大学のみ記入	大学名		国名
	（日本語表記）	（英語表記）	
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL ※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用
http://www.ipo.titech.ac.jp/campusasia/japanese/

１．取組内容の進捗状況 【（１）と（２）で１ページ以内、（３）～（５）で２ページ以内】

本事業における2023年度の取組内容について記入してください。

（１）取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望

①交流プログラムの内容

2023年度は、実渡航による全ての連携大学への学生派遣および受入プログラムが再開し、清華大学へは3年ぶりの派遣が実現した。本学より、清華大学へ1名、KAISTへ6名、南洋理工大学へ3名の学生を派遣し、清華大学から4名、KAISTから5名、南洋理工大学から3名の学生の受入れを行い、計画人数を上回る学生交流プログラムを実施することができた。

また、2023年3月に開催したシンガポール超短期派遣では、南洋理工大学の研究室訪問やシンガポールの文化に触れる機会を通して、将来南洋理工大学への留学を希望する学生に、より具体的に留学生活をイメージできる機会を提供したことから、参加学生のうち1名が2024年度の南洋理工大学セメスター留学に派遣することが決定した。

KAISTへの秋派遣学生1名ついては、本学及びKAISTのプログラム事業推進責任者の連名の署名による、受入・派遣両国のプログラム代表の認定をうけた修了書を提供した。今後、連携大学との合同発表会の開催や責任者の連盟署名による修了書を発行する第一歩を踏み出すことができた。

【特に優れた取組】

2023年6月に、南洋理工大学のCN Yang Scholarsの学生が本学を3日間訪問し、3日間のうち1日を本プログラムが担当し、シンガポール超短期派遣の参加学生や2023年度に南洋理工大学に留学予定の学生が午前中のアクティビティの企画運営を行った。本学ものづくりセンターの紹介や日本の文化や伝統的な遊びの紹介等を行い、本学と南洋理工大学の学生が一緒に楽しみながら親交を深めることのできる学生主体の交流活動を行うことができた。

また午後は、川崎市立日本民家園を訪問し、文化財建造物の見学を通して日本の歴史や文化を体験し、両大学の学生同士のコミュニケーションを促進する機会を提供することができた。

②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成

2022年後学期から2023年前学期に研究交流プロジェクトの科目を新設し、受入学生が研究活動を行うことで単位を取得することができるようにした。各受入指導教員により評価され、成績通知書が発行されることから、受入学生が所属大学で単位互換を行うことが可能となった。

【特に優れた取組】

プログラムの最終週に開催しているハイブリッド形式での研究論文発表会では、異なる専門分野を持つ教員や学生と国や文化の枠組みを超えた議論が行われた。また発表会の後に、プログラム事業推進責任者から受入学生に直接修了証の授与を行うセレモニーの機会を提供することができた。

③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

受入留学生が参加したサマースクールでは、鎌倉一泊研修旅行や成果発表会後のFarewell Partyを通して、留学生同士や本学学生との交流を深める機会を提供した。またサマースクール以外のプログラムに参加した留学生にも本プログラムの派遣・受入学生間の交流会の開催や、海外交流学生との持ち寄りランチ会開催の周知を行い、連携大学間の学生の交流の機会を提供することができた。

また、本学の派遣学生には、留学前に対面やオンラインでの事前英語学習を実施し、学内外の講師による指導を通して、口頭表現能力を高めるためのスピーキング演習を行い、現地の生活に必要な英語を学び、安心して留学先に出発をすることのできる準備を行った。

【特に優れた取組】

2023年7月にサマースクールにて開催した鎌倉研修一泊旅行を通して、受入学生と連携大学に留学を経験した本学派遣学生が、所属大学、専門、学年、国籍を超えたメンバーと共に、「鎌倉仏像の技法」をテーマにグループワークに取り組むことで、参加学生が所属大学、専門、学年、国籍を超えたメンバーと共にグループワークに取り組むことで、計画調書内で目標としている下記のうち、①③④の経験を積むことにつながった。

①自らの専門性に基づきながらも異なる分野の専門家と協働する

②時空を超えてリアル・バーチャルの両空間で並行して協働作業をする

③国や文化の違いを多様性として活かして知的成果を生み出す

④国境を超えて世界に貢献する

④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

2023年5月と10月に全学開催した対面とオンラインの留学フェアでは、2023年度に帰国した直後の学生にプロモーション活動に参加してもらい、今後留学を計画している本学学生に体験談を話す機会を提供した。2023年度に留学を経験した学生がコロナ禍後の最新情報を共有したことにより、留学を検討している学生が本プログラムについてより深く知ることができるようになった。

【特に優れた取組】

実渡航による派遣プログラムが本格的に再開したことから、コロナ禍以降、更新頻度が減少していた毎月の参加学生のブログ記事および留学体験談、フォトギャラリー、Testimonials等のページを迅速に掲載し、応募を検討している学生にリアルタイムな現地の情報を発信し、応募学生に最新情報を届けることができた。

（2）特記すべき成果

令和4（2022）年度に実施したシンガポール超短期派遣に参加した本プログラム学生１名が、令和6（2024）年度の南洋理工大学にセメスター留学（実渡航）の派遣推薦学生となり、短期留学の経験が長期留学につながる好事例となった。また、同超短期派遣の合同プログラムに参加した学生1名からも、令和6年（2024）年度のKAISTの研究留学（実渡航）に応募があり、その後派遣推薦が決定した。

（3）オンラインを活用した工夫・改善点

〇2023年4月の対面での留学フェアに加えて、10月にはオンラインの留学フェアを全学開催し、NTUやKAISTに留学をした学生の体験談や質疑応答の時間を含む、より詳細な本プログラムの紹介を行うことができた。

〇本学学生がオンラインで留学手続きを行えるよう全学的な準備が進み、以前よりも手続きの負担が軽減され、留学を目指す学生の利便性が向上した。

２．交流学生数の実績等 【（１）で６ページ以内、（２）（３）で１ページ】

（１）交流する学生数について

①プログラム全体の派遣・受入交流学生数(計画)

●申請時の計画調書記載人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	8	10	18	22	18	28	18	22	18	28	80	110
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	4	6	8	12	8	18	8	12	8	18	36	66
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）			10	10	10	10	10	10	10	10	40	40

●海外相手大学追加調書分

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）											0	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）											0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）											0	0

●合計人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	8	10	18	22	18	28	18	22	18	28	80	110
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	4	6	8	12	8	18	8	12	8	18	36	66
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	10	10	10	10	10	10	10	10	40	40

②プログラム全体の派遣・受入交流学生数（実績）

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	5	27	23	15	10	12	0	0	0	0
実際に渡航した学生（以下「実渡航」）	0	0	15	0	10	12				
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講した学生（以下「オンライン」）	A 0 B 5	A 0 B 27	A 0 B 4	A 0 B 7	A 0 B 0	A 0 B 0	A B	A B	A B	A B
実渡航とオンライン受講を行った学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	4	8	0	0				
達成目標に対する実績の割合	63%	270%	128%	68%	56%	43%	0%	0%	0%	0%

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

③：【三カ国共通の財政支援の有無及び交流相手国・地域別　内訳】（計画）

			2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
三カ国共通の財政支援対象となる交流学生数			8	10	18	22	18	28	18	22	18	28	80	110
	交流相手国 中国	実渡航	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
		オンライン	1	2	0	4	0	6	4	4	0	6	5	22
		ハイブリッド	0	0	2	3	2	3	3	3	2	3	9	12
	交流相手国 韓国	実渡航	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
		オンライン	2	2	8	4	0	6	4	4	0	6	14	22
		ハイブリッド	0	0	4	4	3	4	3	4	3	4	13	16
	交流相手国 ASEAN	実渡航	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
		オンライン	1	2	0	4	8	6	0	4	8	6	17	22
		ハイブリッド	0	0	2	3	3	3	2	3	3	3	10	12
	交流相手国 中国及び韓国	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		ハイブリッド	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	2	0
	交流相手国 中国及びASEAN	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		ハイブリッド	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	2	0
	交流相手国 韓国及びASEAN	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		ハイブリッド	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	3	0
	交流相手国 中国、韓国及びASEAN	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0
自己負担又は大学負担等による交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

④：【三カ国共通の財政支援の有無及び交流相手国・地域別　内訳】（実績）

			2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
三カ国共通の財政支援対象となる交流学生数			5	27	23	15	10	12	0	0	0	0	38	54
	交流相手国 中国	実渡航	0	0	0	0	1	4					1	4
		オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A	0	0
			B 0	B 10	B 1	B 5	B 0	B 0	B	B	B	B	1	15
		ハイブリッド	0	0	0	2	0	0					0	2
	交流相手国 韓国	実渡航	0	0	12	0	6	5					18	5
		オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A	0	0
			B 0	B 10	B 0	B 2	B 0	B 0	B	B	B	B	0	12
		ハイブリッド	0	0	0	4	0	0					0	4
	交流相手国 ASEAN	実渡航	0	0	3	0	3	3					6	3
		オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A	0	0
			B 0	B 7	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B	0	7
		ハイブリッド	0	0	4	2	0	0					4	2
	交流相手国 中国及び韓国	実渡航	0	0	0	0	0	0					0	0
		オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A	0	0
			B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B	0	0
		ハイブリッド	0	0	0	0	0	0					0	0
	交流相手国 中国及びASEAN	実渡航	0	0	0	0	0	0					0	0
		オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A	0	0
			B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B	0	0
		ハイブリッド	0	0	0	0	0	0					0	0
	交流相手国 韓国及びASEAN	実渡航	0	0	0	0	0	0					0	0
		オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A	0	0
			B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B	0	0
		ハイブリッド	0	0	0	0	0	0					0	0
	交流相手国 中国、韓国及びASEAN	実渡航	0	0	0	0	0	0					0	0
		オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A	0	0
			B 5	B 0	B 3	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B	8	0
		ハイブリッド	0	0	0	0	0	0					0	0
自己負担又は大学負担等による交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		実渡航	0	0	0	0	0	0					0	0
		オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A	0	0
			B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B	0	0
		ハイブリッド	0	0	0	0	0	0					0	0

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑤：【交流形態別　内訳】（計画）

●申請時の計画調書記載人数

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	4	0	4	0	4	0	4
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	4	0	4	0	4	0	4
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	3	3	3	3	3	3	3	3
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	3	3	3	3	3	3	3	3
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数		8	6	11	15	11	21	11	15	11	21
	実渡航	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	4	6	8	12	8	18	8	12	8	18
	ハイブリッド	0	0	3	3	3	3	3	3	3	3
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	4	4	0	4	0	4	0	4	0
	実渡航	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	4	0	4	0	4	0	4	0
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

●海外相手大学追加調書分

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										

●合計

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	4	0	4	0	4	0	4
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	4	0	4	0	4	0	4
		0	0	3	3	3	3	3	3	3	3
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	3	3	3	3	3	3	3	3
		8	6	11	15	11	21	11	15	11	21
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	4	6	8	12	8	18	8	12	8	18
	ハイブリッド	0	0	3	3	3	3	3	3	3	3
		0	4	4	0	4	0	4	0	4	0
⑤単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数	実渡航	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	4	0	4	0	4	0	4	0
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

⑥：【交流形態別　内訳】（実績）

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数		3	0	9	0	2	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	4	0	2	0				
	オンライン	A 0 / B 3	A 0 / B 0	A 0 / B 1	A 0 / B 0	A 0 / B 0	A 0 / B 0	A / B	A / B	A / B	A / B
	ハイブリッド	0	0	4	0	0	0				
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	1	0	0	8	0	0	0	0
	実渡航	0	0	1	0	0	8				
	オンライン	A 0 / B 0	A 0 / B 0	A 0 / B 0	A 0 / B 0	A 0 / B 0	A 0 / B 0	A / B	A / B	A / B	A / B
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0				
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	1	8	0	4	0	0	0	0
	実渡航	0	0	1	0	0	4				
	オンライン	A 0 / B 0	A 0 / B 0	A 0 / B 0	A 0 / B 0	A 0 / B 0	A 0 / B 0	A / B	A / B	A / B	A / B
	ハイブリッド	0	0	0	8	0	0				
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数		2	27	8	7	3	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	5	0	3	0				
	オンライン	A 0 / B 2	A 0 / B 27	A 0 / B 3	A 0 / B 7	A 0 / B 0	A 0 / B 0	A / B	A / B	A / B	A / B
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0				
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	2	0	1	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	2	0	1	0				
	オンライン	A 0 / B 0	A 0 / B 0	A 0 / B 0	A 0 / B 0	A 0 / B 0	A 0 / B 0	A / B	A / B	A / B	A / B
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0				
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	2	0	4	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	2	0	4	0				
	オンライン	A 0 / B 0	A 0 / B 0	A 0 / B 0	A 0 / B 0	A 0 / B 0	A 0 / B 0	A / B	A / B	A / B	A / B
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0				

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑦：宿舎の提供について（実績）

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
宿舎（大学所有の宿舎、大学借り上げによる宿舎等）を提供した学生数	0	0	15	8	10	11					25	19

⑧ 同窓会ネットワークへの参加者数について(実績)　**※タイプA①・タイプA②のみ**

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	合計
第２モードまでの間に準備を進めてきた同窓会ネットワークへの参加者数について	32	38	20			90

⑨：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

令和5（2023）年度は、実渡航による連携大学への派遣プログラムが本格的に再開し、計画を上回る本学学生に、「研究体験型教育」と「研究中心型教育」のプログラムを提供することができた。また、コロナ禍の2021年度にオンライン開催を行ったされた4大学合同のウィンターキャンプ（T2KN CAMPUS Asia Plus Online Winter Camp）に参加した学生2名が、2022年度にNTUのセメスター派遣、2023年度にはKAISTのサマースクールへの派遣を行った。2022年度にオンライン開催を行ったサマースクール（Tokyo Tech CAMPUS Asia Summer School）に参加した学生2名は、同年度に実渡航によるKAIST派遣を実現した。その後も2022年度に実渡航で開催したシンガポール超短期派遣に参加した本プログラム学生が、2024年度に南洋理工大学へセメスター派遣を実現するなど、オンラインプログラムでの経験や超短期派遣の経験が長期留学につながる好事例が増えている。

【特に優れた取組】
KAISTの秋派遣学生1名ついては、本学及びKAISTの合同成果発表会に参加し、プログラム事業推進責任者の連名の署名による、受入・派遣両国のプログラム代表の認定をうけた修了書を提供し、今後の合同発表会の開催や連携大学責任者の連名署名による修了証の発行につながる第一歩となった。

⑩：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

令和5（2023）年度は、実渡航による連携大学からの受入プログラムが再開し、計画を上回る留学生に、「研究体験型教育」と「研究中心型教育」のプログラムを提供することができた。また、コロナ禍の2021年度にオンライン開催を行った4大学合同のウィンターキャンプ（T2KN CAMPUS Asia Plus Online Winter Camp）に参加した南洋理工大学の留学生2名が2022年から2023年に実渡航による本学の学生交流プログラムへの受入が実現し、2022年度に新しくコンソーシアムに加わった南洋理工大学からの学生受入を初めて実施することができ、今後のスムーズな学生交流につながる第一歩となった。
2022年後学期から2023年前学期には研究交流プロジェクトの科目を新設し、受入学生が研究活動を行うことで単位を取得することができるようにし、各受入指導教員の評価による成績通知書が発行され、受入学生が所属大学で単位互換を行うことが可能となった。
プログラム終了後に参加学生に行ったアンケート調査では、ほぼ全員が日本での生活に満足し、母校の学生に勧めたいと回答しており、今後も優秀な学生の学生交流プログラムへの受入れが期待される。
【特に優れた取組】
2023年7月にサマースクールにて開催した鎌倉研修一泊旅行を通して、受入学生と連携大学に留学を経験した本学派遣学生が、所属大学、専門、学年、国籍を超えたメンバーと共に、「鎌倉仏像の技法」をテーマにグループワークに取り組むことで、参加学生が所属大学、専門、学年、国籍を超えたメンバーと共にグループワークに取り組むことで、計画調書内で目標としている下記のうち、①③④の経験を積むことにつながった。
①自らの専門性に基づきながらも異なる分野の専門家と協働する
②時空を超えてリアル・バーチャルの両空間で並行して協働作業をする
③国や文化の違いを多様性として活かして知的成果を生み出す
④国境を超えて世界に貢献する

（2） その他（上記（1）に該当するもの以外）

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
		人
		人
		人
		人

（3） 任意指標 ※タイプA②・タイプB②のみ

① 本事業で設定している任意指標

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
（指標1）					
（指標2）					
（指標3）					
（指標4）					
（指標5）					

② 2023年度末における目標の達成状況

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
（指標1）					
（指標2）					
（指標3）					
（指標4）					
（指標5）					

③ 進捗状況のコメント

【特に優れた取組】

（4）本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

（ⅰ）単位互換を実施する海外相手大学数【計画】　（単位：校）

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
単位互換を実施する海外相手大学数	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3

（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【計画】　（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学　【大学名：　東京工業大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
清華大学	認定者数	0	1	1	1	1
	認定単位数	0	3	3	3	3
KAIST	認定者数	0	1	1	1	1
	認定単位数	0	3	3	3	3
南洋理工大学	認定者数	0	1	1	1	1
	認定単位数	0	3	3	3	3
年度別認定者数合計		0	3	3	3	3
年度別認定単位合計		0	9	9	9	9

2. 国内連携大学　【大学名：　　大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位合計		0	0	0	0	0

【2023年度末における目標の達成状況】

（ⅰ）単位互換を実施した海外相手大学数【実績】　（単位：校）

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
単位互換を実施した海外相手大学数	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	1	0	3				

（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【実績】　（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

（ⅰ）代表申請大学　【大学名：　東京工業大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
	認定者数	0	0	0		
	認定単位数	0	0	0		
	認定者数	0	0	0		
	認定単位数	0	0	0		
	認定者数	0	0	0		
	認定単位数	0	0	0		
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位合計		0	0	0	0	0

2. 国内連携大学　【大学名：　　大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位合計		0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和３年度採択）
令和６年度フォローアップ調査票

<table>
<tr><td>大学名
（〇が代表大学）</td><td colspan="4">東京海洋大学</td></tr>
<tr><td>タイプ</td><td>タイプA①</td><td colspan="3">※プルダウンから、タイプを選択してください。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">事業名</td><td>【和文】</td><td colspan="3">持続可能な海洋開発・利用を実現する高度専門職業人養成プログラム－オケアヌスプラス－</td></tr>
<tr><td>【英文】</td><td colspan="3">OQEANOUS Plus: Education program fostering advanced professionals who can create technology and its application in the strategic development for sustainable utilization of the ocean</td></tr>
<tr><td rowspan="2">事業責任者
※交替年月日は変更があった場合のみ記入</td><td>（氏　名）</td><td>舞田　正志</td><td>（所属・職名）</td><td>国立大学法人東京海洋大学　理事・副学長(教育・国際担当)</td></tr>
<tr><td>（交替年月日）</td><td colspan="3"></td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="12">海外相手大学追加調書分
相手大学名

※追加調書を提出した大学のみ記入</td><td colspan="2">大学名</td><td rowspan="2">国名</td></tr>
<tr><td></td><td>（日本語表記）</td><td>（英語表記）</td></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>6</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>7</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>8</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>9</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>10</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL ※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用
https://www.g2.kaiyodai.ac.jp/oqeanous/

１．取組内容の進捗状況【（１）と（２）で１ページ以内、（３）～（５）で２ページ以内】

本事業における2023年度の取組内容について記入してください。

（１）取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望

①交流プログラムの内容

前年度にコンソーシアム全7大学による単位互換ガイドラインの構築等、プログラムの運営基盤を確立した後は、IJP（単位互換）及びDDP（共同学位)の派遣・受入れを推進するとともに、さらに交流の幅を広げるために、2023年5月に上海海洋大学との博士後期課程のDDP協定を、タイのカセサート大学と博士前期課程のDDP協定をそれぞれ締結した。STPについては、本学の主催により、日本においてコロナ禍後初めて各大学の学生が一堂に会してフィールドトリップを実施することができた。

【特に優れた取組】

STPについて、オンライン講義で参加大学の様々な分野の教員の講義に参加できることが好評を博しており、オンラインのみ・オンライン＋実渡航で合計77名が参加した。また、当初想定していなかったASEANからの学生もフィールドトリップに参加があり、コロナ禍後初めて、ASEANも含めた各大学の学生が一堂に会し、学生間交流を図ることができた。

②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成

2022年に構築した単位互換ガイドライン（CTSEAA：Credit Transfer System in East Asia and ASEAN）をもとに各種プログラムを実施しているが、2023年5月には新たに上海海洋大学と博士後期課程のDDP協定を、またカセサート大学(KU)と博士前期課程のDDP協定をそれぞれ締結した。さらにプログラムの運営に関してはコンソーシアム全7大学が参画する「オケアヌスプラス協議会」を引き続き定期的に開催し、本プログラムが進めている各種交流プログラムの企画・実施・検証を行うとともに、必要に応じて日中韓3大学のサブミーティングをオンラインで実施し方向性の調整を行いながらプログラムが円滑に進められている。

【特に優れた取組】

カセサート大学との共同学位に関する協定を2023年5月に締結し、その直後の10月より、カセサート大学からのDDP学生の受入を行っている。また、同協定の締結に向けての協議等で交流が密になったことによりカセサート大学からの受入が増加し、2023年度中にIJP・DDPを併せて5名の学生を受け入れた。また、8月に「オケアヌスプラス協議会」を日本において初めて対面で開催し、改めてプログラムの進捗や今後の方針について全コンソーシアム大学間で密に認識の共有を図ることができた。

③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

前年度に引き続き、日中韓トリリンガルのコーディネーター及び英語に堪能なコーディネーターを配置し、メッセンジャーアプリ等を活用し、相手先大学と緊密な調整を実施した。また、受入学生には在籍期間中の生活サポートとしてチューター学生を配置し、派遣学生には、留学中の安全対策への意識向上のため、外部機関の協力を得て海外渡航に関する危機管理セミナーを開催し、参加を義務付けた。

【特に優れた取組】

コーディネーター2名が相手先大学と信頼関係を築き、密なる調整を実施しているため、過去の交流実績が少ない派遣先であっても、派遣後のアンケートにおいてプログラム参加学生の満足度を高い水準で得ていることが確認されている。

④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

帰国した学生に、説明会等での体験談発表や相談対応、また、周囲の学生も引き込んで留学生の受入対応に協力してもらう等、様々な場面で参画してもらうことで、次の参加学生のリクルートとともに、学生間交流の広がりも見せている。さらに、2024年2月に本プログラムのパンフレット及びInstagramといった広報媒体を充実化し、プログラムのさらなる学内外への普及を目指し、大学全体のSNS等との連携も進めている。

【特に優れた取組】

説明会での体験談のプレゼンや留学希望学生への相談対応など、リクルート活動に帰国学生を巻き込むことで、継続的に派遣希望者を輩出することができている。

（2）特記すべき成果

短期の導入プログラム(OEP・STP)から中・長期のプログラム(IJP・DDP)へと繋がるケースが増えており、計画的・段階的に留学の機会を提供するプログラム構成の成果が着実に表れてきている。また、ASEANの大学とのコミットメントが高まるよう、マラヤ大学(UM)・ボゴール農科大学(IPB)においてプロモーション活動を実施したことにより、2024年10月からIPBから初めてIJP学生2名を受け入れることとなった。

（3）オンラインを活用した工夫・改善点

オケアヌスプラス協議会の開催について、オンラインを原則とすることで月1回程度の定期的かつ頻繁な開催を実現し、コーディネーター間で密な連絡調整が可能となった。学生派遣・受入にあたっての面接もオンラインとすることで開催を容易にし、研究室マッチングの不備などを未然に防ぐことができている。

また、学生向けの説明会やOEPでは、オンラインでの実施を原則とし、7大学合同で行うなど、オンラインを活用して学生の交流を増やす対応を行っている。

２．交流学生数の実績等 【（１）で６ページ以内、（２）（３）で１ページ】

（１）交流する学生数について

①プログラム全体の派遣・受入交流学生数(計画)

●申請時の計画調書記載人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	6	0	13	40	15	43	16	43	16	43	66	169
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	1	0	8	8	10	11	11	11	11	11	41	41
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	5	0	0	22	0	22	0	22	0	22	5	88
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	5	10	5	10	5	10	5	10	20	40

●海外相手大学追加調書分

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

●合計人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	6	0	13	40	15	43	16	43	16	43	66	169
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	1	0	8	8	10	11	11	11	11	11	41	41
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	5	0	0	22	0	22	0	22	0	22	5	88
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	5	10	5	10	5	10	5	10	20	40

②プログラム全体の派遣・受入交流学生数（実績）

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	22	61	9	63	8	136	0	0	0	0
実際に渡航した学生（以下「実渡航」）	2	0	5	4	3	11				
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講した学生（以下「オンライン」）	A 0 B 20	A 0 B 61	A 0 B 0	A 21 B 31	A 0 B 0	A 0 B 108	A B	A B	A B	A B
実渡航とオンライン受講を行った学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	4	7	5	17				
達成目標に対する実績の割合	367%	#DIV/0!	69%	158%	53%	316%	0%	0%	0%	0%

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

③：【三カ国共通の財政支援の有無及び交流相手国・地域別　内訳】（計画）

			2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
三カ国共通の財政支援対象となる交流学生数			0	0	13	30	15	33	16	33	16	33	60	129
	交流相手国 中国	実渡航	0	0	3	3	3	3	3	3	3	3	12	12
		オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	交流相手国 韓国	実渡航	0	0	3	3	3	3	3	3	3	3	12	12
		オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	交流相手国 ASEAN	実渡航	0	0	2	2	4	5	5	5	5	5	16	17
		オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	交流相手国 中国及び韓国	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	交流相手国 中国及びASEAN	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	交流相手国 韓国及びASEAN	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	交流相手国 中国、韓国及びASEAN	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		オンライン	0	0	0	12	0	12	0	12	0	12	0	48
		ハイブリッド	0	0	5	10	5	10	5	10	5	10	20	40
自己負担又は大学負担等による交流学生数			6	0	0	10	0	10	0	10	0	10	6	40
		実渡航	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
		オンライン	5	0	0	10	0	10	0	10	0	10	5	40
		ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

④：【三カ国共通の財政支援の有無及び交流相手国・地域別　内訳】（実績）

			2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
三カ国共通の財政支援対象となる交流学生数			22	61	9	63	8	136	0	0	0	0	39	260
	交流相手国 中国	実渡航	0	0	1	1	0	3					1	4
		オンライン	A 0	A 0	A 0	A 5	A 0	A 0	A	A	A	A	0	5
			B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 36	B	B	B	B	0	36
		ハイブリッド	0	0	0	0	0	5					0	5
	交流相手国 韓国	実渡航	2	0	1	3	2	3					5	6
		オンライン	A 0	A 0	A 0	A 2	A 0	A 0	A	A	A	A	0	2
			B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B	0	0
		ハイブリッド	0	0	0	3	5	6					5	9
	交流相手国 ASEAN	実渡航	0	0	3	0	1	5					4	5
		オンライン	A 0	A 0	A 0	A 14	A 0	A 0	A	A	A	A	0	14
			B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 19	B	B	B	B	0	19
		ハイブリッド	0	0	4	4	0	6					4	10
	交流相手国 中国及び韓国	実渡航	0	0	0	0	0	0					0	0
		オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A	0	0
			B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B	0	0
		ハイブリッド	0	0	0	0	0	0					0	0
	交流相手国 中国及びASEAN	実渡航	0	0	0	0	0	0					0	0
		オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A	0	0
			B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B	0	0
		ハイブリッド	0	0	0	0	0	0					0	0
	交流相手国 韓国及びASEAN	実渡航	0	0	0	0	0	0					0	0
		オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A	0	0
			B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B	0	0
		ハイブリッド	0	0	0	0	0	0					0	0
	交流相手国 中国、韓国及びASEAN	実渡航	0	0	0	0	0	0					0	0
		オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A	0	0
			B 20	B 61	B 0	B 31	B 0	B 53	B	B	B	B	20	145
		ハイブリッド	0	0	0	0	0	0					0	0
自己負担又は大学負担等による交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		実渡航	0	0	0	0	0	0					0	0
		オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A	0	0
			B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B	0	0
		ハイブリッド	0	0	0	0	0	0					0	0

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑤：【交流形態別　内訳】（計画）

●申請時の計画調書記載人数

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数		5	0	5	10	5	10	5	10	5	10
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	5	10	5	10	5	10	5	10
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数		1	0	8	8	10	11	11	11	11	11
	実渡航	1	0	8	8	10	11	11	11	11	11
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	22	0	22	0	22	0	22
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	12	0	12	0	12	0	12
	ハイブリッド	0	0	0	10	0	10	0	10	0	10
⑤単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

●海外相手大学追加調書分

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

●合計

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数		5	0	5	10	5	10	5	10	5	10
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	5	10	5	10	5	10	5	10
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数		1	0	8	8	10	11	11	11	11	11
	実渡航	1	0	8	8	10	11	11	11	11	11
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	22	0	22	0	22	0	22
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	12	0	12	0	12	0	12
	ハイブリッド	0	0	0	10	0	10	0	10	0	10
⑤単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

⑥：【交流形態別　内訳】（実績）

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数		0	0	4	10	5	47	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0				
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 7	A 0	A 0	A	A	A	A
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 36	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0	4	3	5	11				
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0				
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0				
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数		2	0	5	4	3	11	0	0	0	0
	実渡航	2	0	5	4	3	11				
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0				
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数		20	61	0	49	0	78	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0				
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 14	A 0	A 0	A	A	A	A
		B 20	B 61	B 0	B 31	B 0	B 72	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0	0	4	0	6				
⑤単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0				
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0				
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0				
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0				

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑦：宿舎の提供について（実績）

宿舎（大学所有の宿舎、大学借り上げによる宿舎等）を提供した学生数	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	2	0	5	4	3	11					10	15

⑧ 同窓会ネットワークへの参加者数について(実績)　※タイプA①・タイプA②のみ

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	合計
第２モードまでの間に準備を進めてきた同窓会ネットワークへの参加者数について	3	20	36			59

⑨：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

単位互換を伴う1セメスターの相互派遣プログラムである国際協働教育プログラム（IJP）において、韓国海洋大学校（KMOU）へ1名、マラヤ大学（UM）へ1名派遣した。また、ダブルディグリー取得を目的とする共同学位プログラム（DDP）において、KMOUへ1名派遣した。（実渡航：3名）
オンライン講義と実渡航のハイブリッド形式によるショートタームプログラム（STP）において、本学学生5名がハイブリッドで参加し、韓国および日本でフィールドトリップを行った。（ハイブリッド：5名）
オンライン学生交流会（OEP）が韓国海洋大学校主催で開催され、本学から5名の学生が参加した。

【特に優れた取組】
これまで派遣実績のなかったマラヤ大学について、交流強化のための教員交流会開催のために連絡調整を行っていたところ、ちょうど同時期に留学希望者が現れたため、派遣につなげることができた。
また、STPについて、2022年度もオンライン講義・実渡航のハイブリッド形式で行っていたものの、2023年度においてはコロナ禍後初めて日本で各大学の学生が一堂に会する形で開催することができた。

⑩：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

単位互換を伴う1セメスターの相互派遣プログラムである国際協働教育プログラム（IJP）において、韓国海洋大学校（KMOU）から2名、上海海洋大学（SHOU）から2名、カセサート大学（KU）から4名の受け入れを行った。また、ダブルディグリー取得を目的とする共同学位プログラム（DDP）において、KMOU・SHOU・KUから各1名の受け入れを行った。（実渡航：11名）
オンライン講義と実渡航のハイブリッド形式によるショートタームプログラム（STP）において、KMOUから6名、SHOUから5名、KUから3名、マラヤ大学（UM）から3名がハイブリッド形式で参加し、韓国（KMOU学生のみ）及び日本でフィールドトリップを行った。（ハイブリッド：17名）また上記とは別に、SHOUから36名、KUから4名、UMから15名がオンライン講義のみに参加した。（オンラインB：55名）
オンライン学生交流会（OEP）が韓国海洋大学校主催で開催され、KMOU、SHOU、チュラロンコン大学（CU）、KU、UM、ボゴール農科大学（IPB）から計53名が参加した。（オンラインB：53名）

【特に優れた取組】
2023年5月にカセサート大学（KU）とのダブルディグリー協定の締結を行った。その準備段階よりKUとの交流が増えたため、まずは2023年4月にIJP学生が2名、また、協定の締結後の10月にはIJP学生2名及びDDP学生1名を受け入れることとなった。
また、STPについて、2023年度には合計17名の学生を日本へ受け入れ、コロナ禍後初めて、各大学からの学生が一堂に会する形で開催することができた。

（2） その他（上記（1）に該当するもの以外）

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
		人
		人
		人
		人

（3） 任意指標 ※タイプA②・タイプB②のみ

① 本事業で設定している任意指標

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
（指標1）					
（指標2）					
（指標3）					
（指標4）					
（指標5）					

② 2023年度末における目標の達成状況

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
（指標1）					
（指標2）					
（指標3）					
（指標4）					
（指標5）					

③ 進捗状況のコメント

【特に優れた取組】

（4）本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

（ⅰ）単位互換を実施する海外相手大学数【計画】　（単位：校）

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
単位互換を実施する海外相手大学数	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	1	0	4	4	6	6	6	6	6	6

（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【計画】　（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学　【大学名：東京海洋大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
上海海洋大学	認定者数	0	2	2	2	2
	認定単位数	0	20	20	20	20
韓国海洋大学校	認定者数	1	2	2	2	2
	認定単位数	10	20	20	20	20
チュラロンコン大学	認定者数	0	1	1	1	1
	認定単位数	0	10	10	10	10
カセサート大学	認定者数	0	1	1	1	1
	認定単位数	0	10	10	10	10
マラヤ大学	認定者数	0	0	1	1	1
	認定単位数	0	0	10	10	10
ボゴール農科大学	認定者数	0	0	1	1	1
	認定単位数	0	0	10	10	10
年度別認定者数合計		1	6	8	8	8
年度別認定単位合計		10	60	80	80	80

2. 国内連携大学　【大学名：　　大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位合計		0	0	0	0	0

【2023年度末における目標の達成状況】

（ⅰ）単位互換を実施した海外相手大学数【実績】　（単位：校）

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
単位互換を実施した海外相手大学数	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	1	0	4	2	3	3				

（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【実績】　（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

（ⅰ）代表申請大学　【大学名：東京海洋大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
上海海洋大学	認定者数	0	0	0		
	認定単位数	0	0	0		
韓国海洋大学校	認定者数	2	1	0		
	認定単位数	18	6	0		
チュラロンコン大学	認定者数	0	0	0		
	認定単位数	0	0	0		
カセサート大学	認定者数	0	2	0		
	認定単位数	0	18	0		
マラヤ大学	認定者数	0	0	0		
	認定単位数	0	0	0		
ボゴール農科大学	認定者数	0	1	0		
	認定単位数	0	6	0		
年度別認定者数合計		2	4	0	0	0
年度別認定単位合計		18	30	0	0	0

2. 国内連携大学　【大学名：　　大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位合計		0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和３年度採択）
令和６年度フォローアップ調査票

大学名 （〇が代表大学）	名古屋大学				
タイプ	タイプA①	※プルダウンから、タイプを選択してください。			
事業名	【和文】	東アジア共通法の深化と世界への発信にむけた法的・政策的プラットフォームを支える人材育成			
	【英文】	Human resource development to support legal and policy platforms for deepening "jus commune" in East Asia and disseminating it to ASEAN and the World			
事業責任者 ※交替年月日は変更があった場合のみ記入	（氏　名）	中東　正文	（所属・職名）	大学院法学研究科・研究科長	
	（交替年月日）	令和6年4月1日			

海外相手大学追加調書分 相手大学名 ※追加調書を提出した大学のみ記入		大学名		国名
		（日本語表記）	（英語表記）	
	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL ※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用
https://www.law.nagoya-u.ac.jp/~campusasia/

１．取組内容の進捗状況 【（１）と（２）で１ページ以内、（３）～（５）で２ページ以内】

本事業における2023年度の取組内容について記入してください。

（１）取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望

①交流プログラムの内容

2023年度は本学から中国の大学へ7名、韓国の大学へ6名の計13名（いずれも学部学生）を長期留学生として派遣し、中国から6名（うち、学部学生1名、大学院生5名）、韓国から7名（学部学生）、シンガポールから3名（学部学生）の計16名を長期留学生として受け入れた。また、短期派遣では、14名の学生を、韓国と中国の両国に派遣した。

【特に優れた取組】

短期派遣で韓国と中国の両国に行くことにより、学生の視野を広げることができた。さらに長期受入生も2名参加したことにより、日本以外のもう一カ国を体験することができた。出発前までのグループワークなどで日本人学生と一緒に準備をし、不足している語学力は互いに補い合いながら研修に参加することができた。

②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成

プログラムの質の保証を目的としてQuality Assurance協議会を開催した。派遣・受入学生の選抜・確定、共通科目の教育内容、成績評価、単位認定およびこれらに関するガイドラインの作成・改訂等、質の保証された教育の共同実施を可能にするために必要な制度についての検討を行った。コロナ禍を経て、学生間の繋がりの薄化という現実をどのようにして解消していくか等、今後の課題と展望に関して協議した。

【特に優れた取組】

Quality Assurance協議会は名古屋大学において対面・オンラインのハイブリッド方式で実施し、現地に赴かなくてもなるべく多くの関係者が参加できるように工夫した。

③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

事前教育として開講していた英語の授業を見直し、「特殊講義（社会科学のための英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ）」を開設し、単位化することで、学生の負担を軽減した。また、派遣された学生が中心となって、受入学生、派遣予定学生のコミュニティを作り、語学サークルを開催したり、行事の運営、派遣学生募集のための広報活動に当たっている。これらのことは派遣・受入学生共に参加しやすい体制づくりに貢献している。

【特に優れた取組】

留学に興味を持つ学生に自らの留学体験を語り、学生同士による相談会を設け、留学を検討している学生に広く公開したことでプログラムに興味を持つ学生が増加している。

④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

同窓会ネットワークを利用し、派遣を終えた第１２期生が主体となって同窓会報を作成した。短期研修やインターンシップの体験談も掲載し、本年度の活動記録もまとめ、ここ数年交流の機会が減った卒業生、在学生、未来のキャンパス・アジア生もより意識したものとなっている。関係各所に配布し、広報活動にも役立っている。プログラムのインスタグラムのアカウントも作成し、学生が運営している。

【特に優れた取組】

名古屋大学法学部キャンパス・アジアのインスタグラムのアカウントを作成し、現在派遣中の学生の様子、受入れている留学生の様子、イベント関係の告知や様子などを学生が主体となって幅広く公開している。インスタ担当グループが月に一回集まり、よりよい物にするために議論しながら運営している。

（2）特記すべき成果

・本プログラム本研究科の卒業生の実務家や研究者、国内外の中国や韓国の専門家による特別講演や授業を事前学習「東アジア法・政治入門」の一環として実施した。本研究科の大学院留学生による授業も実施し、参加学生に刺激を与えた。長期派遣を経験した卒業生は、在学生の就職や進学の相談にも乗り、在学生と卒業生の交流も促進された。

・モード1の際に本プログラムで受入れていた韓国人留学生が所属する韓国の法律事務所にて、短期研修の際に講義を実施した。さらに本プログラムの長期留学を経験した法科大学院生が、同法律事務所にて2週間のインターンシップに参加した。

（3）オンラインを活用した工夫・改善点

本学および中韓参加校で本プログラムを修了した実務家や研究者をはじめ、国内外の専門家による特別講演や講義を、事前学習「東アジア法・政治入門」の一環として実施した。同世代の目から見たリアルな中国・韓国を伝える目的で、本研究科留学生による講義も実施した。特別講演や講義をオンラインで実施することにより、海外在住の実務家・専門家による講義が可能となり、また、中国や韓国と接続することで、リアルタイムで現地の状況を理解することもでき、また本プログラム修了生による講義は卒業後の進路を実感できることとなり、学生にとっては大きな刺激となった。講演・講義担当者の同意を得た上で講演・講義を全て録画し、当日参加できなかった学生のために一定期間オンデマンドで公開した。

２．交流学生数の実績等 【（１）で６ページ以内、（２）（３）で１ページ】

（１）交流する学生数について

①プログラム全体の派遣・受入交流学生数(計画)

●申請時の計画調書記載人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	30	26	30	26	30	26	30	26	30	26	150	130
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	0	0	10	0	10	0	10	0	10	0	40	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	29	18	10	13	10	13	10	13	10	13	69	70
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	1	8	10	13	10	13	10	13	10	13	41	60

●海外相手大学追加調書分

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）											0	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）											0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）											0	0

●合計人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	30	26	30	26	30	26	30	26	30	26	150	130
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	0	0	10	0	10	0	10	0	10	0	40	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	29	18	10	13	10	13	10	13	10	13	69	70
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	1	8	10	13	10	13	10	13	10	13	41	60

②プログラム全体の派遣・受入交流学生数（実績）

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	5	8	41	13	39	25	0	0	0	0
実際に渡航した学生（以下「実渡航」）	0	0	16	9	14	16				
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講した学生（以下「オンライン」）	A 0	A 8	A 11	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
	B 4	B 0	B 14	B 0	B 11	B 0	B	B	B	B
実渡航とオンライン受講を行った学生（以下「ハイブリッド」）	1	0	0	4	14	9				
達成目標に対する実績の割合	17%	31%	137%	50%	130%	96%	0%	0%	0%	0%

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

③：【三カ国共通の財政支援の有無及び交流相手国・地域別　内訳】（計画）

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
三カ国共通の財政支援対象となる交流学生数		30	26	30	26	30	26	30	26	30	26	150	130
交流相手国 中国	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	0
	ハイブリッド	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
交流相手国 韓国	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14	0
	ハイブリッド	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3
交流相手国 ASEAN	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
交流相手国 中国及び韓国	実渡航	0	0	10	0	10	0	10	0	10	0	40	0
	オンライン	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
交流相手国 中国及びASEAN	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
交流相手国 韓国及びASEAN	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
交流相手国 中国、韓国及びASEAN	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	10	13	10	13	10	13	10	13	40	52
	ハイブリッド	0	0	10	13	10	13	10	13	10	13	40	52
自己負担又は大学負担等による交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

④：【三カ国共通の財政支援の有無及び交流相手国・地域別　内訳】（実績）

			2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
三カ国共通の財政支援対象となる交流学生数			5	8	41	13	39	25	0	0	0	0	85	46
交流相手国 中国	実渡航		0	0	0	0	7	6					7	6
	オンライン	A	0	0	11	0	0	0					11	0
		B	0	0	0	0	0	0					0	0
	ハイブリッド		0	0	0	3	0	0					0	3
交流相手国 韓国	実渡航		0	0	16	7	7	7					23	14
	オンライン	A	0	0	0	0	0	0					0	0
		B	4	0	14	0	11	9					29	9
	ハイブリッド		1	0	0	1	0	0					1	1
交流相手国 ASEAN	実渡航		0	0	0	2	0	3					0	5
	オンライン	A	0	0	0	0	0	0					0	0
		B	0	0	0	0	0	0					0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0					0	0
交流相手国 中国及び韓国	実渡航		0	0	0	0	0	0					0	0
	オンライン	A	0	8	0	0	0	0					0	8
		B	0	0	0	0	0	0					0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	14	0					14	0
交流相手国 中国及びASEAN	実渡航		0	0	0	0	0	0					0	0
	オンライン	A	0	0	0	0	0	0					0	0
		B	0	0	0	0	0	0					0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0					0	0
交流相手国 韓国及びASEAN	実渡航		0	0	0	0	0	0					0	0
	オンライン	A	0	0	0	0	0	0					0	0
		B	0	0	0	0	0	0					0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0					0	0
交流相手国 中国、韓国及びASEAN	実渡航		0	0	0	0	0	0					0	0
	オンライン	A	0	0	0	0	0	0					0	0
		B	0	0	0	0	0	0					0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0					0	0
自己負担又は大学負担等による交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0					0	0
	オンライン	A	0	0	0	0	0	0					0	0
		B	0	0	0	0	0	0					0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0					0	0

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑤：【交流形態別　内訳】（計画）

●申請時の計画調書記載人数

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数		30	26	20	26	20	26	20	26	20	26
	実渡航	1	8	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	29	18	10	13	10	13	10	13	10	13
	ハイブリッド	0	0	10	13	10	13	10	13	10	13
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数		0	0	10	0	10	0	10	0	10	0
	実渡航	0	0	10	0	10	0	10	0	10	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

●海外相手大学追加調書分

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										
⑤単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										

●合計

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数		30	26	20	26	20	26	20	26	20	26
	実渡航	1	8	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	29	18	10	13	10	13	10	13	10	13
	ハイブリッド	0	0	10	13	10	13	10	13	10	13
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数		0	0	10	0	10	0	10	0	10	0
	実渡航	0	0	10	0	10	0	10	0	10	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

⑥：【交流形態別　内訳】（実績）

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0				
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0				
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	1	0	0	0				
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0				
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数		1	8	8	8	13	16	0	0	0	0
	実渡航	1	0	7	4	13	16				
	オンライン	A 0	A 8	A 1	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0	0	4	0	0				
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数		4	0	32	5	26	9	0	0	0	0
	実渡航	0	0	8	5	1	0				
	オンライン	A 4	A 0	A 10	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
		B 0	B 0	B 14	B 0	B 11	B 9	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0	0	0	14	0				
⑤単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0				
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0				
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0				
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0				

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑦：宿舎の提供について（実績）

宿舎（大学所有の宿舎、大学借り上げによる宿舎等）を提供した学生数	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	1	0	16	8	27	16					44	24

⑧ 同窓会ネットワークへの参加者数について(実績)　※タイプA①・タイプA②のみ

第２モードまでの間に準備を進めてきた同窓会ネットワークへの参加者数について	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	合計
	66	54	64			184

⑨：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

コロナに関連した制限が撤廃されたことにより、派遣者数が全体的に安定し、ほぼ計画通りの数字となっている。オンラインによる短期の語学のプログラムに関しても人気があり、インターンシップを含め、多様な参加可能性を提供することにより、本プログラムに興味を持つ学生が増加している。2023年度の短期研修は、初めて同じ学生が二カ国を体験することができた。

【特に優れた取組】
短期研修の出発までの秋学期中に全員が「東アジア法政治入門」を受講し、オンラインと対面で実施した。国内外の専門家の授業や卒業生、大学院留学生による授業も実施し、参加学生に刺激を与えた。合計14名の学生が韓国と中国の両国に行き、視野を広げることができた。

⑩：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

派遣と同じく、コロナによる制限がなくなったことにより、特に長期受入数（③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数）が増加している。１月の日韓学生交流会では、これまでで一番多い９名の学生が来日し、これから派遣する学生や帰国した学生と意見交換をすることができた。

【特に優れた取組】
長期で受入れている２名の学生が名古屋大学の短期研修に参加したことにより、日本以外のもう一カ国を体験することができた。出発前までのグループワークなどで日本人学生と一緒に準備をし、不足している語学力は互いに補い合いながら研修に参加することができた。

（２）　その他（上記（１）に該当するもの以外）

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
		人
		人
		人
		人

（３）　任意指標　※タイプA②・タイプB②のみ

①　本事業で設定している任意指標

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
（指標1）					
（指標2）					
（指標3）					
（指標4）					
（指標5）					

②　2023年度末における目標の達成状況

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
（指標1）					
（指標2）					
（指標3）					
（指標4）					
（指標5）					

③　進捗状況のコメント

【特に優れた取組】

（4）本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

（ⅰ）単位互換を実施する海外相手大学数【計画】　（単位：校）

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
単位互換を実施する海外相手大学数	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6

（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【計画】　（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学　【大学名：名古屋大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
中国人民大学	認定者数	0	5	5	5	5
	認定単位数	0	100	100	100	100
成均館大学	認定者数	1	5	5	5	5
	認定単位数	20	100	100	100	100
シンガポール国立大学	認定者数	0	3	3	3	3
	認定単位数	0	60	60	60	60
年度別認定者数合計		1	13	13	13	13
年度別認定単位合計		20	260	260	260	260

2. 国内連携大学　【大学名：　　大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位合計		0	0	0	0	0

【2023年度末における目標の達成状況】

（ⅰ）単位互換を実施した海外相手大学数【実績】　（単位：校）

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
単位互換を実施した海外相手大学数	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	1	2	2	3	2	3				

（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【実績】　（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

（ⅰ）代表申請大学　【大学名：名古屋大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
中国人民大学	認定者数	0	1	2		
	認定単位数	0	0	32		
成均館大学	認定者数	1	5	6		
	認定単位数	15	68	156		
シンガポール国立大学	認定者数	0	0	0		
	認定単位数	0	0	0		
年度別認定者数合計		1	6	8	0	0
年度別認定単位合計		15	68	188	0	0

2. 国内連携大学　【大学名：　　大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位合計		0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和３年度採択）
令和６年度フォローアップ調査票

大学名 （〇が代表大学）	大阪大学			
タイプ	タイプA①	※プルダウンから、タイプを選択してください。		
事業名	【和文】	グローバル社会における健康問題解決を担う医学・公衆衛生学研究リーダーの育成		
	【英文】	Nurturing of medical and public health research leaders to solve health problems in global societies		
事業責任者 ※交替年月日は変更があった場合のみ記入	（氏　名）	川崎 良	（所属・職名）	大学院医学系研究科・教授
	（交替年月日）	令和5年6月1日		

海外相手大学追加調書分
相手大学名

※追加調書を提出した大学のみ記入

	大学名		国名
	（日本語表記）	（英語表記）	
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL
※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用

・大阪大学 世界的健康問題の解決に向けた医学研究グローバルリーダー育成プログラムホームページ：
http://www.pbhel.med.osaka-u.ac.jp/campusasia/

１．取組内容の進捗状況 【（1）と（2）で１ページ以内、（3）～（5）で２ページ以内】

本事業における2023年度の取組内容について記入してください。

（1）取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望

①交流プログラムの内容

世界的な健康課題である感染症対策、生活習慣病、認知症などの老化関連疾患に関する病態の予防・治療に取り組み、その解決に貢献する国際的なリーダー育成を目的として、中国の北京大学、清華大学、上海交通大学、天津中医薬大学、広東薬科大学、韓国の延世大学校、タイ王国のマヒドン大学と学術交流協定を締結し、コンソーシアムを組み、学生交流・教育プログラムの展開と若手研究者の交流を実施している。2023年度には、ダブルディグリー学生７名が在籍。新たに加わった大阪大学微生物病研究所と医学系研究科保健学専攻からタイ王国のマヒドン大学へ計3名の短期実渡航派遣、広東薬科大学の学生1名の3ヶ月間の中期実渡航受入、2024年１月には延世大学校より15名の短期実渡航受入（9教室へ配属）実績もあった。４カ国の参加校で国際シンポジウムおよび国際教員会議で開催し、対面・オンライン併せて54名が参加した。

【特に優れた取組】

ダブルディグリー取得を目指した学生の受入・派遣を行っており、現在、日中韓大学間で計７名の博士課程大学院生がダブルディグリー学位取得候補者として在籍している。2024年には2名が取得予定である。

②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成

本プログラムでは、キャンパス・アジアのコンソーシアム校教員から成る「キャンパス・アジア国際教員協議会」を組織している。成績評価に参加大学間共通の基準と様式を用いることを定め、受入・派遣ともにプログラム終了後のアンケートを実施し、学生からのフィードバックに常に耳を傾けるなど質保証の体制整備に努めてきた。毎年、各校がホストとなり持ち回りで国際シンポジウムと国際教員会議を開催している。2023年度には延世大学校がホスト校となり、国際シンポジウム及び国際教員会議をハイブリットで開催し、対面・オンライン併せて54名が参加した。新規コンソーシアム校や国内の新規連携機関と具体的な派遣・受入のための議論を行い、引き続きの本格的な学生の派遣・受入に向けて実質的な調整が進んだ。

【特に優れた取組】

医学分野で難しいとされているダブルディグリーに取り組み、着実に取得者の教育実績を上げている。４カ国で国際コンソーシアム校シンポジウムやワークショップを定期的に開催し、国際共同研究ネットワークを形成。2023年度は延世大学校でキャンパスアジア国際シンポジウムをハイブリッド開催し、本プログラムの今後の更なる活性化につながるようプログラムや派遣・受け入れの課題抽出や新たな枠組みの醸成、魅力あるダブルディグリープログラムに向けた意見交換、学位取得のための学生の研究支援、生活支援について教員間の交流に精力を注いだ。

③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

受入学生については、個々の希望とスキルに合わせ一人ずつ送り出し側の大学の担当者と連携を密にとり、受入プログラムを作成している。その際、受入学生の研究や学習関心の希望、要配慮情報等を送り出し大学の教員と共有し、学生と受入担当教員とのウェブ面談や日程調整等を経て受入研究室を決定するマッチング手法が定着している。派遣学生には事前の現地情報の提供や定期面談、滞在期間中のウェブ面談等を通じた相談を必要に応じて実施中。現地大学の担当者とも密に連携を取り、学生の危機管理、履修相談、生活・言語のサポート等を個別に実施している。

【特に優れた取組】

英語、中国語でコミュニケーションが十分とれる教職員が留学生の履修計画支援・学習支援・生活面の細かい支援やカウンセリングを行っている。派遣学生には、渡航前から情報の提供やインターネット等を通じた相談を必要に応じて行い、渡航中にも現地大学の担当者とも密に連携を取り、学生の危機管理、履修相談、生活・言語のサポート等を個別に実施している。

④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

本事業のウェブサイトを開設し、交流プログラムの詳細、交流の実施状況、国際シンポジウムやセミナー等の関連イベントの周知・報告を掲載し国内外への情報発信として活用している。海外学生への広報活動に力を入れるため、本学海外拠点である東アジア拠点及びASEAN拠点と連携していくことが今後の課題。

【特に優れた取組】

一般向けの広報、コンソーシアム校でのオンラインシンポジウムやグループワーク開催を通じて、より多くの優秀な学生に本プログラムが認知されるよう努めた。また、学生の確保や個別の事例に対応し、プログラムの質確保と活性化のために国際教員会議を組織し定期的に開催している。加えて、提携校内の新たな連携窓口の獲得、更なる学生確保に向けた意見交換として、プログラム派遣・受入実績が少ない学部・学科（清華大学医学部やマヒドン大学医学部、公衆衛生学部）の学生、教員と対面での緊密な意見交換を行なった。同窓会のネットワークを活用した情報発信と交流などは今後も継続する予定である。

（2）特記すべき成果

2021年のコロナ禍に協定を締結したマヒドン大学、広東薬科大学との交流が順調に進んでいる。締結直後は感染症対策の余波を受け実渡航の実現が厳しい状況が続いたが、2023年度にはマヒドン大学へ2名の短期派遣と広東薬科大学から1名の短期受入が実現した。

（3）オンラインを活用した工夫・改善点

オンラインによる交流では、実渡航による交流に比べ多くの学生の参加が可能になることから、より多くの学生が国際的な研究活動に興味を持つきっかけとなるように積極的に活用している。2月に開催したオンラインでのシンポジウムでは、コンソーシアム校の教員による講演と学生同士のグループワークを組み合わせることにより、国際的な学生交流の機会を確保した。また、国際的な研究活動・交流に参加するインセンティブとなるよう、履修条件を満たした本学学生には国際交流科目の「グローバル人材研修科目」の枠組みを活用しての単位取得を可能とした。

２．交流学生数の実績等 【（１）で６ページ以内、（２）（３）で１ページ】

（１）交流する学生数について

①プログラム全体の派遣・受入交流学生数(計画)

●申請時の計画調書記載人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	72	92	83	103	84	105	86	108	88	108	413	516
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	9	9	16	16	17	18	19	21	21	21	82	85
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	60	80	60	80	60	80	60	80	60	80	300	400
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	3	3	7	7	7	7	7	7	7	7	31	31

●海外相手大学追加調書分

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）											0	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）											0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）											0	0

●合計人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	72	92	83	103	84	105	86	108	88	108	413	516
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	9	9	16	16	17	18	19	21	21	21	82	85
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	60	80	60	80	60	80	60	80	60	80	300	400
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	3	3	7	7	7	7	7	7	7	7	31	31

②プログラム全体の派遣・受入交流学生数（実績）

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	46	58	105	158	16	133	0	0	0	0
実際に渡航した学生（以下「実渡航」）	2	1	5	19	9	29				
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講した学生（以下「オンライン」）	A 0 B 44	A 0 B 56	A 0 B 100	A 0 B 137	A 0 B 7	A 0 B 104	A B	A B	A B	A B
実渡航とオンライン受講を行った学生（以下「ハイブリッド」）	0	1	0	2	0	0				
達成目標に対する実績の割合	64%	63%	127%	153%	19%	127%	0%	0%	0%	0%

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

③：【三カ国共通の財政支援の有無及び交流相手国・地域別　内訳】（計画）

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
三カ国共通の財政支援対象となる交流学生数		72	92	83	103	84	105	86	108	88	108	413	516
交流相手国 中国	実渡航	6	7	12	12	10	11	11	13	15	14	54	57
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	2	2	5	5	5	5	5	5	5	5	22	22
交流相手国 韓国	実渡航	3	2	4	4	4	4	4	4	4	5	19	19
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	5	5
交流相手国 ASEAN	実渡航	0	0	0	0	2	2	3	3	2	2	7	7
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	4	4
交流相手国 中国及び韓国	実渡航	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
交流相手国 中国及びASEAN	実渡航	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
交流相手国 韓国及びASEAN	実渡航	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
交流相手国 中国、韓国及びASEAN	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	オンライン	60	80	60	80	60	80	60	80	60	80	300	400
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自己負担又は大学負担等による交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

④：【三カ国共通の財政支援の有無及び交流相手国・地域別　内訳】（実績）

			2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
三カ国共通の財政支援対象となる交流学生数			46	58	105	158	16	133	0	0	0	0	167	349
交流相手国 中国		実渡航	0	0	0	1	1	4					1	5
		オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A	0	0
			B 0	B 41	B 0	B 114	B 0	B 0	B	B	B	B	0	155
		ハイブリッド	0	1	0	2	0	0					0	3
交流相手国 韓国		実渡航	2	1	2	16	3	15					7	32
		オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A	0	0
			B 0	B 1	B 0	B 2	B 0	B 9	B	B	B	B	0	12
		ハイブリッド	0	0	0	0	0	0					0	0
交流相手国 ASEAN		実渡航	0	0	3	2	0	0					3	2
		オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A	0	0
			B 5	B 14	B 8	B 21	B 0	B 0	B	B	B	B	13	35
		ハイブリッド	0	0	0	0	0	0					0	0
交流相手国 中国及び韓国		実渡航	0	0	0	0	0	0					0	0
		オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A	0	0
			B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B	0	0
		ハイブリッド	0	0	0	0	0	0					0	0
交流相手国 中国及びASEAN		実渡航	0	0	0	0	0	0					0	0
		オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A	0	0
			B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B	0	0
		ハイブリッド	0	0	0	0	0	0					0	0
交流相手国 韓国及びASEAN		実渡航	0	0	0	0	0	0					0	0
		オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A	0	0
			B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B	0	0
		ハイブリッド	0	0	0	0	0	0					0	0
交流相手国 中国、韓国及びASEAN		実渡航	0	0	0	0	5	1					5	1
		オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A	0	0
			B 39	B 0	B 92	B 0	B 7	B 104	B	B	B	B	138	104
		ハイブリッド	0	0	0	0	0	0					0	0
自己負担又は大学負担等による交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		実渡航	0	0	0	0	0	0					0	0
		オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A	0	0
			B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B	0	0
		ハイブリッド	0	0	0	0	0	0					0	0

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑤：【交流形態別　内訳】（計画）

●申請時の計画調書記載人数

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数		28	38	37	47	37	47	37	47	37	47
	実渡航	5	5	10	10	10	10	10	10	10	10
	オンライン	20	30	20	30	20	30	20	30	20	30
	ハイブリッド	3	3	7	7	7	7	7	7	7	7
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		1	1	1	1	2	2	1	2	2	1
	実渡航	1	1	1	1	2	2	1	2	2	1
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数		3	3	5	5	5	6	8	9	9	10
	実渡航	3	3	5	5	5	6	8	9	9	10
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数		40	50	40	50	40	50	40	50	40	50
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	40	50	40	50	40	50	40	50	40	50
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

●海外相手大学追加調書分

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										
⑤単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										

●合計

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数		28	38	37	47	37	47	37	47	37	47
	実渡航	5	5	10	10	10	10	10	10	10	10
	オンライン	20	30	20	30	20	30	20	30	20	30
	ハイブリッド	3	3	7	7	7	7	7	7	7	7
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		1	1	1	1	2	2	1	2	2	1
	実渡航	1	1	1	1	2	2	1	2	2	1
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数		3	3	5	5	5	6	8	9	9	10
	実渡航	3	3	5	5	5	6	8	9	9	10
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数		40	50	40	50	40	50	40	50	40	50
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	40	50	40	50	40	50	40	50	40	50
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

⑥：【交流形態別　内訳】（実績）

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数		3	0	3	15	0	15	0	0	0	0
	実渡航	1	0	3	15	0	15				
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
		B 2	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0				
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	1	0	2	0	1	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	2	0	1				
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
		B 0	B 1	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0				
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数		1	2	2	3	2	1	0	0	0	0
	実渡航	1	1	2	1	2	1				
	オンライン	A 0	A 1	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0	0	2	0	0				
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数		42	55	100	138	14	116	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	1	7	12				
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
		B 42	B 55	B 100	B 137	B 7	B 104	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0				
⑤単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0				
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0				
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0				
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0				

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑦：宿舎の提供について（実績）

宿舎（大学所有の宿舎、大学借り上げによる宿舎等）を提供した学生数	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	1	3	18	4	17					7	36

⑧ 同窓会ネットワークへの参加者数について(実績)　※タイプA①・タイプA②のみ

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	合計
第２モードまでの間に準備を進めてきた同窓会ネットワークへの参加者数について	169	29	149			347

⑨：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

2023年度には、ダブルディグリー学生として日本人学生一名を延世大学に派遣した。また新たに加わった大阪大学微生物病研究所と保健学専攻からマヒドン大学への短期実渡航派遣（3名）があった。2024年2月に韓国ソウルの延世大学において、４カ国８校の参加で開催された国際シンポジウムおよび国際教員会議には54名が参加し、プログラムの活性化や派遣・受け入れの課題共有、魅力あるプログラムに向けた新たな取り組みの提案、学生の研究・生活支援について情報交換と交流を行った。

【特に優れた取組】
派遣学生には、情報の提供やインターネット等を通じた相談を必要に応じて行っている。現地大学の担当者と密に連携を取り、学生の危機管理、履修相談、生活・言語のサポート等を個別に実施している。
毎年一校が主催となり開催される国際シンポジウムでは、学生によるプレゼンテーションに対して参加校の教員による学生指導・評価を行う等、日中韓タイのコンソーシアムによる、医学研究のグローバルリーダー育成に向けた組織的な取組を行った。

⑩：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

2023年度には、外国人留学生のダブルディグリー学生が６名在籍し、医学分野で難しいとされるダブルディグリー取得に取り組み、着実に教育実績を上げている。また、2021年のコロナ禍下に協定を終結したマヒドン大学、広東薬科大学との交流が順調に進んでいる。広東薬科大学からの中期実渡航受入（1名・3ヶ月間）、2024年１月には延世大学校より短期実渡航受け入れ（15名・9教室へ配属）の実績があった。

【特に優れた取組】
2024年度内のダブルディグリー取得に向けて二名の学生が現在学位審査に挑んでいる。
受入学生一人ずつに対して、送り出し側の大学の担当者と連携を密にとり、受入れプログラムの作成を行っている。その際、受入学生の研究や学習の希望、要配慮情報等を送り出し大学の教員と共有し、学生と受入れ担当教員とのウェブ面接を経て、受入れ研究室やプログラムを決定をするマッチングの手法が定着している。

（2）　その他（上記（1）に該当するもの以外）

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
		人
		人
		人
		人

（3）　任意指標　※タイプA②・タイプB②のみ

①　本事業で設定している任意指標

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
（指標1）					
（指標2）					
（指標3）					
（指標4）					
（指標5）					

②　2023年度末における目標の達成状況

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
（指標1）					
（指標2）					
（指標3）					
（指標4）					
（指標5）					

③　進捗状況のコメント

【特に優れた取組】

（4）本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

（ｉ）単位互換を実施する海外相手大学数【計画】　（単位：校）

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
単位互換を実施する海外相手大学数	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	1	2	3	2	1	2	1	1	2	2

（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【計画】　（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学　【大学名：　大阪大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
北京大学	認定者数	1	1	0	1	0
	認定単位数	10	10	0	10	0
上海交通大学	認定者数	0	1	0	0	0
	認定単位数	0	10	0	0	0
天津中医薬大学	認定者数	0	0	0	0	1
	認定単位数	0	0	0	0	10
延世大学校	認定者数	0	1	1	0	1
	認定単位数	0	10	10	0	10
年度別認定者数合計		1	3	1	1	2
年度別認定単位合計		10	30	10	10	20

2. 国内連携大学　【大学名：　　大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					

【2023年度末における目標の達成状況】

（ｉ）単位互換を実施した海外相手大学数【実績】　（単位：校）

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
単位互換を実施した海外相手大学数	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	2	1	1	2	0				

（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【実績】　（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

（ｉ）代表申請大学　【大学名：　大阪大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
延世大学校	認定者数	0	1	2		
	認定単位数	0	10	29		
年度別認定者数合計		0	1	2	0	0
年度別認定単位合計		0	10	29	0	0

年度別認定者数合計	0	0	0	0	0
年度別認定単位合計	0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和３年度採択）
令和６年度フォローアップ調査票

大学名 （〇が代表大学）	神戸大学			
タイプ	タイプA①	※プルダウンから、タイプを選択してください。		
事業名	【和文】	異分野共創によるリスク・マネジメント専門家養成共同教育プログラム		
	【英文】	Multidisciplinary Education Program for Careers on Risk Management Experts		
事業責任者 ※交替年月日は変更があった場合のみ記入	（氏　名）	玉置　久	（所属・職名）	理事・副学長
	（交替年月日）	2024年4月1日		

海外相手大学追加調書分 相手大学名 ※追加調書を提出した大学のみ記入	大学名		国名
	（日本語表記）	（英語表記）	
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL ※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用
https://www.edu.kobe-u.ac.jp/gsics-campusasia/

１．取組内容の進捗状況【（1）と（2）で1ページ以内、（3）～（5）で2ページ以内】

本事業における2023年度の取組内容について記入してください。

（1）取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望

①交流プログラムの内容

本プログラムでは、神戸大学、復旦大学（中国）、高麗大学校（韓国）、チュラロンコン大学（タイ）、ラオス国立大学（ラオス）の5大学が「異分野共創によるリスク・マネジメント専門家養成共同教育プログラム」を提供している。神戸大学、復旦大学、高麗大学校の3大学は、第1期および第2期を通して、1）ダブルディグリー、2）交換留学、3）短期研修、4）インターンシップからなる交流枠組みを構築してきた。2021年からの第3期プログラムにおいては、学生の多様なニーズに応えるために、ASEAN諸国の大学にも対象を拡大し、ラオス国立大学およびチュラロンコン大学での短期研修を開始した。一方で、留学先で学べる内容が限定的であり、国際協力研究科以外の学生によるプログラム参加が極めて限定的となっているのが課題である。また、復旦大学からの受入学生が年々減少傾向にあることも課題である。そうした課題を解決するために、今年度からは神戸大学内の各研究科に協力を求め、様々な研究科から学生派遣ができるよう努めている。

【特に優れた取組】

長期留学のみならず、インターンシップを組み合わせた短期研修、国際機関等の実務家を招いたリスクマネジメント・セミナー、防災関連施設へのフィールドトリップなど、多様なプログラムを整備することにより、長期留学によって得られる専門性に加えて、学生のキャリア構築の支援を継続的に行っている。

②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成

神戸大学、復旦大学、高麗大学校の3大学は、相互に学術交流協定を締結し、ダブルディグリー／交換留学における単位認定基準・成績評価方法などを制度化している。また、3大学間の協議に基づき、2017年度から3大学の教員によるオンライン共同講義を実施してきたが、2023年度からはその取り組みを5大学に拡大し、専門分野教育の多様化に努めている。それにより、共同講義の受講者（交流学生数）は2023年度には40名強となるなど、大幅に増加した。

【特に優れた取組】

上記に加えて、留学開始前後の学生に対してセミナーを積極的に開催している。セミナーでは、世界銀行などの国際機関の専門家を招き、専門分野に関する講義を行っている。学生はセミナーへの参加を通じて、専門的な知識を深めるだけでなく、講師の所属する機関でインターンシップのチャンスを得ている。

③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

本プログラムは、TAやチューターの配置、日本語講座の案内、指導教員の決定など、学生の修学および生活上の諸課題に対応できる体制が整っている。また、派遣・受入生ともに月1回のレポート提出を課しており、学生の修学状況をタイムリーに把握できている。

【特に優れた取組】

ラオス国立大学から来た留学生2名に対して、世界銀行での2週間のインターンシップ（オンライン）の機会を提供するなど、留学生のキャリア形成を支援した。

④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

2023年11月に「キャンパスアジア・プラス・プログラム・年次国際シンポジウム」をハイブリッドで開催した。シンポジウムでは、キャンパスアジア生による研究成果発表に対してコンソーシアム校の教員がフィードバックを行うなど、参加学生にとって学びの多いものとなった。今後は、国際シンポジウムの継続的な開催に加えて、本プログラムをより効果的に学内外に周知するため、大学のHPやSNSを活用した情報の公開や成果の普及活動に取り組みたい。

【特に優れた取組】

交流に係る業務が一部の教職員に偏らないようにキャンパスアジア室・教務係・総務係が連携して情報共有をしている。2023年度は、協定校で教員が対面説明会や講義を実施し、学生の誘致に努めた。今後は本プログラムをより効果的に協定校内に周知し、参加学生の確保に努める。

（2）特記すべき成果

プログラムのアウトカムとして、修了生はUNESCOアジア太平洋地域教育事務局や国際協力機構（JICA）、香港城市大学などの研究機関、デロイトトーマツなど、国際的で且つリスク・マネジメントに関連の深い機関に就職し、グローバル社会で活躍している。

（3）オンラインを活用した工夫・改善点

2023年度からオンライン共同講義「リスクマネジメント１」を５大学の教員で実施したところ、共同講義受講者（交流学生数）が大幅に増加した。さらに、2023年度から「リスクマネジメント２」を開講し、地域の防災関連施設などにおいてリスクマネジメント・フィールドトリップを複数回実施するなど、ハイブリッド形式による多彩なプログラムを提供することができた。また、年次国際シンポジウムのセッションにも共同教育を組み込むことで、受講者は協定校から参加した教員からのフィードバックを受けることができた。また、国際機関や途上国行政機関の専門家や実務家を招いたリスクマネジメント・セミナーを英語でハイブリッド形式で開講し、参加学生に多様な国際課題について議論する機会を提供した。

２．交流学生数の実績等 【（１）で６ページ以内、（２）（３）で１ページ】

（１）交流する学生数について

①プログラム全体の派遣・受入交流学生数(計画)

●申請時の計画調書記載人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	16	12	25	22	27	22	26	22	27	22	121	100
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	6	2	8	9	9	8	8	9	9	8	40	36
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	50	50
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	7	3	8	4	8	3	8	4	31	14

●海外相手大学追加調書分　なし

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）											0	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）											0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）											0	0

●合計人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	16	12	25	22	27	22	26	22	27	22	121	100
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	6	2	8	9	9	8	8	9	9	8	40	36
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	50	50
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	7	3	8	4	8	3	8	4	31	14

②プログラム全体の派遣・受入交流学生数（実績）

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	13	27	36	43	62	47	0	0	0	0
実際に渡航した学生（以下「実渡航」）	5	1	17	6	18	8				
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講した学生（以下「オンライン」）	A 4 B 4	A 0 B 26	A 0 B 14	A 0 B 33	A 0 B 24	A 0 B 22	A B	A B	A B	A B
実渡航とオンライン受講を行った学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	5	4	20	17				
達成目標に対する実績の割合	81%	225%	144%	195%	230%	214%	0%	0%	0%	0%

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

③：【三カ国共通の財政支援の有無及び交流相手国・地域別　内訳】（計画）

			2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
三カ国共通の財政支援対象となる交流学生数			16	12	25	22	27	22	26	22	27	22	121	100
	交流相手国 中国	実渡航	2	0	4	4	4	4	4	4	4	4	18	16
		オンライン	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	25	25
		ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	交流相手国 韓国	実渡航	4	2	4	4	4	4	4	4	4	4	20	18
		オンライン	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	25	25
		ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	交流相手国 ASEAN	実渡航	0	0	0	1	1	0	0	1	1	0	2	2
		オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		ハイブリッド	0	0	5	1	6	2	6	1	6	2	23	6
	交流相手国 中国及び韓国	実渡航											0	0
		オンライン											0	0
		ハイブリッド											0	0
	交流相手国 中国及びASEAN	実渡航											0	0
		オンライン											0	0
		ハイブリッド			1	1	1	1	1	1	1	1	4	4
	交流相手国 韓国及びASEAN	実渡航											0	0
		オンライン											0	0
		ハイブリッド			1	1	1	1	1	1	1	1	4	4
	交流相手国 中国、韓国及び ASEAN	実渡航											0	0
		オンライン											0	0
		ハイブリッド											0	0
自己負担又は大学負担等による交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		実渡航											0	0
		オンライン											0	0
		ハイブリッド											0	0

④：【三カ国共通の財政支援の有無及び交流相手国・地域別　内訳】（実績）

			2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
三カ国共通の財政支援対象となる交流学生数			13	27	36	43	62	47	0	0	0	0	111	117
交流相手国 中国	実渡航		0	0	2	0	2	0					4	0
	オンライン	A	2	0	0								2	0
		B	0	0	0								0	0
	ハイブリッド		0	0	0								0	0
交流相手国 韓国	実渡航		5	1	10	3	9	3					24	7
	オンライン	A	2	0	0	0							2	0
		B	0	0	0								0	0
	ハイブリッド		0	0	0								0	0
交流相手国 ASEAN	実渡航		0	0	3	3	5	5					8	8
	オンライン	A	0	0	0	0							0	0
		B	0	0	0	0							0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0							0	0
交流相手国 中国及び韓国	実渡航		0	0	0	0	0	0					0	0
	オンライン	A	0	0	0	0							0	0
		B	4	26	14	33	24	22					42	81
	ハイブリッド		0	0	5	4							5	4
交流相手国 中国及びASEAN	実渡航		0	0	0	0	1	0					1	0
	オンライン	A	0	0	0	0							0	0
		B	0	0	0	0							0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0							0	0
交流相手国 韓国及びASEAN	実渡航		0	0	2	0	1						3	0
	オンライン	A	0	0	0	0							0	0
		B	0	0	0	0							0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0							0	0
交流相手国 中国、韓国及び ASEAN	実渡航		0	0	0	0	0	0					0	0
	オンライン	A	0	0	0	0							0	0
		B	0	0	0	0							0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	20	17					20	17
自己負担又は大学負担等による交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航												0	0
	オンライン	A											0	0
		B											0	0
	ハイブリッド												0	0

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

※ハイブリッドはインターンシップおよびフィールドトリップを含む

⑤：【交流形態別　内訳】（計画）

●申請時の計画調書記載人数

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										
		0	0	4	0	4	0	4	0	4	0
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド			4		4		4		4	
		16	12	21	22	23	22	22	22	23	22
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	6	2	8	9	9	8	8	9	9	8
	オンライン	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
	ハイブリッド	0	0	3	3	4	4	4	3	4	4
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										

●海外相手大学追加調書分　なし

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										

●合計

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	4	0	4	0	4	0	4	0
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	4	0	4	0	4	0	4	0
		16	12	21	22	23	22	22	22	23	22
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	6	2	8	9	9	8	8	9	9	8
	オンライン	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
	ハイブリッド	0	0	3	3	4	4	4	3	4	4
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

⑥：【交流形態別　内訳】（実績）

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数		0	0	4	0	26	17	0	0	0	0
	実渡航			4		6					
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド					20	17				
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	1	2	0	3	0	0	0	0
	実渡航			1	2		3				
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド										
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数		13	27	26	40	29	27	0	0	0	0
	実渡航	5	1	7	3	5	5				
	オンライン	A 4	A 0	A	A	A	A	A	A	A	A
		B 4	B 26	B 14	B 33	B 24	B 22	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0	5	4						
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数		0	0	4	0	7	0	0	0	0	0
	実渡航			4		7					
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド										
⑤上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	実渡航				1						
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド										
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航			1							
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド										

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑦：宿舎の提供について（実績）

宿舎（大学所有の宿舎、大学借り上げによる宿舎等）を提供した学生数	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	2	1	6	6	9	8					17	15

⑧ 同窓会ネットワークへの参加者数について(実績)　**※タイプA①・タイプA②のみ**

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	合計
第２モードまでの間に準備を進めてきた同窓会ネットワークへの参加者数について	6	25	未			31

⑨：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

2021年はコロナウイルスによる渡航制限の影響を受け、計画通りの派遣は困難であった。2022年度より、ラオス短期研修が開始され、韓国短期研修も再開されたため、渡航制限の緩和とも相まって派遣学生が増加した。2023年度は短期研修の参加者がさらに増え、韓国・中国・ラオスに計18名を実派遣することができた。派遣先及びプログラムの多様化により多様な学生ニーズに応えることができた。また、中国の協定校が実施したコンペに過年度のオンライン留学経験者3名が実地参加をしたり、ラオス短期研修に中国・韓国の協定校からも計5名の参加者が合流するなどの交流があった。ただし、長期留学については派遣希望者が卒業までの学修年数や就職活動を考慮して慎重に検討した結果、参加を見送るケースもあった。今後は、プログラム修了生と参加希望学生との情報交換の機会を提供するなどしてさらにきめ細やかな対応をしていく必要がある。留学形態の多様化に対し、積極的な広報および個別相談を通じて、より活発な学生の移動を図っていきたい。

【特に優れた取組】
プログラム第３期は日中韓ASEANの５大学が「異分野共創によるリスク・マネジメント専門家養成共同教育プログラム」を提供している。オンライン共同教育「リスク・マネジメント」については、2023年度は「リスクマネジメント１・２」を開講し、１ではこれまでの日中韓のオンライン共同教育を継続しつつ取り組みをASEANの協定校にも拡大、２では、地域の防災関連施設などの実地リスクマネジメント・フィールドトリップを複数回実施した。また、年次国際シンポジウムの中でも共同教育を提供し、受講者は協定校教員からのフィードバックを受けた。
また、国際機関や途上国行政機関の専門家や実務家を招いてのリスクマネジメント・セミナーを英語およびハイブリッド形式にて頻繁に開講し、参加学生に多様な国際課題について議論する機会を提供した。

⑩：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

2021年度は中国・韓国ともにコロナウイルスによる渡航制限の影響を受け、計画通りの受入は難しかったが、2022年度は渡航規制の緩和から、韓国・ラオス・タイより計６名の学生を受け入れた。2023年度はラオス・タイからの派遣拡大希望もあり、計8名の学生を受け入れた。次第にプログラムがASEANの大学に認知され、関心を持つ層が拡大してきた状況がうかがえる。2023年度は加えて中国・韓国へ担当教職員が出張して、積極的な受入広報を行った。引続き学生の多様なニーズに沿ったきめ細かな対応を心がけたい。

【特に優れた取組】
プログラム修了生が協定校からの受入学生のチューターとなり、学修生活面でのサポートを行う体制が構築されている。また、受入学生を担当した学生が派遣プログラムへの応募を検討するなどの相乗効果が出てきている。
本学におけるプログラムの魅力は、派遣元大学にはない分野の開講科目の履修ができることや、ゼミを通したコンスタントな研究指導、学位取得（ダブルディグリーの場合）、キャリア支援としてのインターンシップ派遣、世界銀行など国際機関の専門家を招いたリスクマネジメントセミナー、キャリアセミナーなどがある。
引き続き、セミナーの実施やインターンシップ派遣支援を行うとともに、共同教育プログラム実施経験を活用して、グローバルな人材育成に努めていく。

（２） その他（上記（１）に該当するもの以外）

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
		人
		人
		人
		人

（3） 任意指標 ※タイプA②・タイプB②のみ

① 本事業で設定している任意指標

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
（指標1）					
（指標2）					
（指標3）					
（指標4）					
（指標5）					

② 2023年度末における目標の達成状況

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
（指標1）					
（指標2）					
（指標3）					
（指標4）					
（指標5）					

③ 進捗状況のコメント

【特に優れた取組】

（4）本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

（ｉ）単位互換を実施する海外相手大学数【計画】　（単位：校）

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
単位互換を実施する海外相手大学数	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	2	2	2	3	3	2	2	3	3	2

（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【計画】　（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学　【大学名：　神戸大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
復旦大学	認定者数	5	5	5	5	5
	認定単位数	48	48	48	48	48
高麗大学校	認定者数	5	5	5	5	5
	認定単位数	48	48	48	48	48
チュラロンコン大学	認定者数	0	0	1	0	1
	認定単位数	0	0	12	0	12
年度別認定者数合計		10	10	11	10	11
年度別認定単位合計		96	96	108	96	108

【2023年度末における目標の達成状況】

（ｉ）単位互換を実施した海外相手大学数【実績】　（単位：校）

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
単位互換を実施した海外相手大学数	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	2	1	3	2	3	2				

（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【実績】　（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

（ｉ）代表申請大学　【大学名：　神戸大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
復旦大学	認定者数	2	1	3		
	認定単位数	18	10	30		
高麗大学校	認定者数	5	6	2		
	認定単位数	50	58			
ラオス国立大学	認定者数	0	3	5		
	認定単位数	0	6	10		
年度別認定者数合計		7	10	10	0	0
年度別認定単位合計		68	74	40	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和３年度採択）
令和６年度フォローアップ調査票

大学名 （○が代表大学）	九州大学				
タイプ	タイプA①	※プルダウンから、タイプを選択してください。			
事業名	【和文】	エネルギー環境理工学グローバル人材育成のための大学院協働教育プログラム－プログラムのパッケージ化とASEANへの展開－			
	【英文】	Cooperational Graduate Education Program for the Development of Global Human Resources in Energy and Environmental Science and Technology –Expansion to ASEAN-			
事業責任者 ※交替年月日は変更があった場合のみ記入	（氏　名）	宮崎隆彦	（所属・職名）	大学院総合理工学府・教授	
	（交替年月日）				

海外相手大学追加調書分 相手大学名 ※追加調書を提出した大学のみ記入		大学名		国名
		（日本語表記）	（英語表記）	
	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL ※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用
https://www.tj.kyushu-u.ac.jp/campus-asia/

１．取組内容の進捗状況 【（１）と（２）で１ページ以内、（３）～（５）で２ページ以内】

本事業における2023年度の取組内容について記入してください。

（１）取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望

①交流プログラムの内容

海外渡航を伴う3つの活動として，(1) 1セメスターの留学，(2) サマースクール，(3) 本プログラムが主催する国際セミナー・シンポジウム等を実施する．これら3つの活動は．海外での滞在期間が約5ヶ月，約2週間，1週間未満と違いがあり，学生の希望に応じて長期から短期まで様々な形態でプログラムに参加できるように準備したものである．3つの活動全てに参加し，母大学と留学先大学が共同で実施する中間審査および修士学位論文審査に合格した学生にはダブルディグリーを授与する。また，国際セミナー・シンポジウムには，博士課程学生および教員の積極的な参加を呼びかけ，研究交流の機会を創出する．スプリングセミナーは完全にオンライン化して実施する．加えて，DD生が母大学で学ぶ専門分野と本プログラムで学ぶエネルギー環境理工学とを効果的に接続するためのCOILモジュールの開発を行う．COILモジュールは，4大学の教員の協働で開発する．

【特に優れた取組】

2023年度は，修士ダブルディグリー生として上海交通大学へ3名，釜山国立大学へ2名を派遣し，上海交通大学から6名（内5名がオンライン），釜山国立大学から3名を受け入れた。さらに、マレーシア工科大学とのダブルディグリープログラムを構築するため、マレーシア工科大学へ修士学生1名を派遣し、2022~2023年度中に5ヶ月の交換留学を行った。また，修了要件を満たした九州大学と釜山国立大学との修士ダブルディグリー生3名が修了した。加えて，釜山国立大学との博士ダブルディグリー生1名を受け入れた。プログラムのイベントとしては，8月に上海交通大学がホストとして実渡航によるサマースクール，2024年3月に釜山国立大学がホストとしてオンラインによるスプリングセミナーを開催した。サマースクールの参加者は九州大学の学生27名を含む計69名，スプリングセミナーの参加者は九州大学の学生17名を含む計42名であった。さらに，11月にオータムセミナー（CSS-EEST国際会議）を九州大学がホストとして開催した。CSS-EESTには75件の研究発表があり，九州大学の学生40名を含む計98名が参加した。以上のイベントには教員も延べ115名が参加しており，博士ダブルディグリーや短期留学のための研究マッチングに向けた交流を深めることができた。

②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成

これまでCAプログラムを実施してきた九州大学（KU），釜山国立大学（PNU），上海交通大学（SJTU）の3国間にマレーシア工科大学（UTM）を加えた4ヶ国の教育コンソーシアムを構築する。実渡航による交流は予算規模に応じて人数を制限しつつ，サマースクールやCSS-EEST等セメスター留学以外の活動が効果的に実施できるようにオンラインを活用する．また，UTMへの派遣に関しては，現地における学生支援体制の構築等の準備を進める．

教育の質保証の観点を十分に検討して設計された3ヶ国によるCAMPUS Asia EESTプログラムを UTMに展開して4大学のCAMPUS Asia EESTの教育の質を維持する。

【特に優れた取組】

2024年2月にマレーシア工科大学と修士ダブルディグリーに関する協定を締結し，2024年度から学生の受入を開始する準備が整った。また，UTMの教員および学生がプログラムに積極的に参加し，国際交流の幅が拡大している。上海交通大学で開催したサマースクールにはUTMから教員9名，学生9名が全員実渡航で参加した。また，CSS-EEST国際会議ではUTMから2名の参加者があった。

加えて，4大学の教員がオムニバスで講義するCOIL型の専門科目として「Research Seminar on Energy and Environmental Science and Engineering」を開講した。2023年度は34名の受講者があった。

③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

外国人学生の受入および日本人学生の派遣に関しては，総合理工学府に設置したキャンパスアジアプラス事務局並びに関連教員が十分な支援を行っている。PNU，SJTUに関しては，これまでに構築した現地サポート体制を維持する。UTMへの派遣の場合には，UTMのプログラム担当教員と緊密な連絡をとり対応する体制を構築する．また，4大学の情報共有と意見交換を綿密にするために随時メール・オンラインでの会議、情報交換を行い、定期的に対面にて国際PDCA会議を開催している．

【特に優れた取組】

サマースクール，CSS-EEST等の機会に必ず国際PDCA会議を開催し，4大学の意思疎通を図っている。また，事務局レベルでの連絡調整も十分にできており，4大学の教職員の間でLINEやWeChatなどのSNSツールを活用しリアルタイムで連絡することで、PNU，SJTU，UTMとの間の派遣・受入がスムーズに実施できた。

一方2022~2023年度にUTMへ非DD生が5ヶ月間留学しており，現地での受入体制や学習環境，また，今後のDD生派遣における課題等を確認することができた。マレーシアへは初めての留学派遣であったが、ビザを含めた渡航準備の段階からUTMの教員と留学担当部署からの継続したサポートを受け、滞りなく留学を終えることができた。

④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

キャンパスアジアプログラムで培ったダブルディグリーを含む国際教育プログラムの成果を拡張し，大学の国際化をさらに進める．また，成果の普及のためにプログラムのホームページを充実させるとともに，年次報告書とNews Letterの発行，SNSを利用した情報発信等を行う。

【特に優れた取組】

留学生数の増加，日本人学生の海外留学経験の増加など，大学院教育の国際化を進めることができた。特に，CAで構築した修士ダブルディグリーのスキームを展開し，2023年度からは，台湾師範大学との修士ダブルディグリーを開始した。

（2）特記すべき成果

2023年度は，セメスター留学5名，サマースクール27名，修士インターンシップ1名、博士インターンシップ1名の学生を九州大学から派遣した。また，2023年度に修了したDD生は3名であった。さらに，台湾科技大学との修士ダブルディグリー生として，8名が修了した。

（3）オンラインを活用した工夫・改善点

サマースクールで開講する4大学協働科目「エネルギー環境理工学基礎」「エネルギー環境理工学演習」では，オンラインによる講義を含めることで教員が柔軟に参加できるようになり，4大学から多彩な講師陣を集めることができた。

さらに，オンラインを活用して，4大学の教員によるオムニバス科目「エネルギー環境学特別演習」を設定した。同講義では，プログラムがカバーする「エネルギー」「環境」「材料」の三分野を網羅する講師陣を各大学から揃え，学生が修士論文研究を行う主たる学術分野だけでなく，エネルギー環境理工学に関わる幅広い分野について知識が得られるように講義内容を工夫した。

２．交流学生数の実績等 【（１）で６ページ以内、（２）（３）で１ページ】

（１）交流する学生数について

①プログラム全体の派遣・受入交流学生数(計画)

●申請時の計画調書記載人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	50	28	85	12	63	88	65	75	77	60	340	263
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	50	8	69	12	44	88	43	70	75	13	281	191
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	0	20	16	0	19	0	20	0	0	42	55	62
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	0	0	0	0	2	5	2	5	4	10

●海外相手大学追加調書分

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）											0	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）											0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）											0	0

●合計人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	50	28	85	12	63	88	65	75	77	60	340	263
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	50	8	69	12	44	88	43	70	75	13	281	191
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	0	20	16	0	19	0	20	0	0	42	55	62
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	0	0	0	0	2	5	2	5	4	10

②プログラム全体の派遣・受入交流学生数（実績）

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	31	55	59	3	50	69	0	0	0	0
実際に渡航した学生（以下「実渡航」）	0	0	22	2	31	64				
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講した学生（以下「オンライン」）	A 25	A 27	A 28	A 1	A 1	A 0	A	A	A	A
	B 0	B 25	B 9	B 0	B 17	B 5	B	B	B	B
実渡航とオンライン受講を行った学生（以下「ハイブリッド」）	6	3	0	0	1	0				
達成目標に対する実績の割合	62%	196%	69%	25%	79%	78%	0%	0%	0%	0%

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

③：【三カ国共通の財政支援の有無及び交流相手国・地域別　内訳】（計画）

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
三カ国共通の財政支援対象となる交流学生数		30	8	30	9	19	8	17	11	14	10	110	46
交流相手国 中国	実渡航	2	3	14	4	13	3	1	2	1	1	31	13
	オンライン											0	0
	ハイブリッド											0	0
交流相手国 韓国	実渡航	17	4	15	4	4	3	12	2	5	2	53	15
	オンライン											0	0
	ハイブリッド											0	0
交流相手国 ASEAN	実渡航	11	1	1	1	2	2	2	2	6	2	22	8
	オンライン											0	0
	ハイブリッド											0	0
交流相手国 中国及び韓国	実渡航											0	0
	オンライン											0	0
	ハイブリッド											0	0
交流相手国 中国及びASEAN	実渡航											0	0
	オンライン											0	0
	ハイブリッド											0	0
交流相手国 韓国及びASEAN	実渡航											0	0
	オンライン											0	0
	ハイブリッド											0	0
交流相手国 中国、韓国及びASEAN	実渡航											0	0
	オンライン											0	0
	ハイブリッド							2	5	2	5	4	10
自己負担又は大学負担等による交流学生数		20	20	55	3	44	80	48	64	63	50	230	217
	実渡航	20	0	39	3	25	80	28	64	63	8	175	155
	オンライン	0	20	16	0	19	0	20	0	0	42	55	62
	ハイブリッド											0	0

④：【三カ国共通の財政支援の有無及び交流相手国・地域別　内訳】（実績）

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
三カ国共通の財政支援対象となる交流学生数		31	55	59	3	22	6	0	0	0	0	112	64
交流相手国 中国	実渡航				1	18	1					18	2
	オンライン	A 1	A 14	A 19	A 1	A	A	A	A	A	A	20	15
		B	B 12	B	B	B	B	B	B	B	B	0	12
	ハイブリッド		2			1						1	2
交流相手国 韓国	実渡航			21	1	3	5					24	6
	オンライン	A 24	A 13	A 9	A	A	A	A	A	A	A	33	13
		B	B 3	B	B	B	B	B	B	B	B	0	3
	ハイブリッド	6	1									6	1
交流相手国 ASEAN	実渡航			1			0					1	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	0	0
		B	B 10	B 9	B	B	B	B	B	B	B	9	10
	ハイブリッド											0	0
交流相手国 中国及び韓国	実渡航											0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	0	0
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	0	0
	ハイブリッド											0	0
交流相手国 中国及びASEAN	実渡航											0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	0	0
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	0	0
	ハイブリッド											0	0
交流相手国 韓国及びASEAN	実渡航											0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	0	0
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	0	0
	ハイブリッド											0	0
交流相手国 中国、韓国及びASEAN	実渡航											0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	0	0
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	0	0
	ハイブリッド											0	0
自己負担又は大学負担等による交流学生数		0	0	0	0	28	63	0	0	0	0	28	63
	実渡航					10	58					10	58
	オンライン	A	A	A	A	A 1	A	A	A	A	A	1	0
		B	B	B	B	B 17	B 5	B	B	B	B	17	5
	ハイブリッド											0	0

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑤：【交流形態別　内訳】（計画）

●申請時の計画調書記載人数

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数		0	0	27	0	31	0	0	57	32	0
	実渡航	0		27		31		0	57	32	
	オンライン										
	ハイブリッド										
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数		7	6	10	10	11	11	13	16	13	16
	実渡航	7	6	10	10	11	11	11	11	11	11
	オンライン										
	ハイブリッド							2	5	2	5
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数		40	20	46	0	19	75	50	0	30	42
	実渡航	40		30			75	30		30	
	オンライン		20	16		19		20			42
	ハイブリッド										
⑤単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数		3	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	実渡航	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	オンライン										
	ハイブリッド										

●海外相手大学追加調書分

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										
⑤単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										

●合計

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数		0	0	27	0	31	0	0	57	32	0
	実渡航	0	0	27	0	31	0	0	57	32	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数		7	6	10	10	11	11	13	16	13	16
	実渡航	7	6	10	10	11	11	11	11	11	11
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	2	5	2	5
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数		40	20	46	0	19	75	50	0	30	42
	実渡航	40	0	30	0	0	75	30	0	30	0
	オンライン	0	20	16	0	19	0	20	0	0	42
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数		3	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	実渡航	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

⑥：【交流形態別　内訳】（実績）

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数		0	20	27	0	27	0	0	0	0	0
	実渡航	0		18		26					
	オンライン	A	A 20	A 9	A	A 1	A	A	A	A	A
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド										
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
	実渡航	0		0		1					
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド										
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数		8	10	7	3	5	6	0	0	0	0
	実渡航			3	2	5	6				
	オンライン	A 2	A 7	A 4	A 1	A	A	A	A	A	A
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド	6	3								
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数		23	25	24	0	17	58	0	0	0	0
	実渡航	0					58				
	オンライン	A 23	A	A 15	A	A	A	A	A	A	A
		B	B 25	B 9	B	B 17	B	B	B	B	B
	ハイブリッド										
⑤単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	5	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		B	B	B	B	B	B 5	B	B	B	B
	ハイブリッド										
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航			1							
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド										

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑦：宿舎の提供について（実績）

宿舎（大学所有の宿舎、大学借り上げによる宿舎等）を提供した学生数	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	6	3	4	2	6	6					16	11

⑧ 同窓会ネットワークへの参加者数について(実績)　※タイプA①・タイプA②のみ

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	合計
第２モードまでの間に準備を進めてきた同窓会ネットワークへの参加者数について	6	50	52			108

⑨：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

コロナ渦の影響が色濃く残っていたプログラム第３モード前半は、オンライン環境を積極的に活用したハイブリッドでの参加を実施しつつ、実渡航派遣の正常化に備えてきた。
2022年度にはようやく正常化の兆しが見えたものの、やはり派遣にはビザ取得等の困難は伴ったままで思うように進めることは難しくオンラインの活用が続いていたが、釜山大学への実渡航留学においては隔離措置等が次々と撤廃されはじめ、学生を比較的スムースに派遣できるようになった。
2023年度に入り、短期派遣においては依然難しい状況だったが、DD留学ではコロナ前と同様のペースで派遣手続きを進める事が可能となったため、特に3年ぶりの実渡航留学が再開した上海交通大学へのDD派遣は、いわばアフターコロナ1期生といった様相を呈し意欲を持った学生が参加・派遣された。
このようにこの3年間においては、実渡航が可能になってからもさまざまな条件下のもとでの派遣であったため、オンラインで終始してしまうかもしれないという状況に魅力を覚えず参加を躊躇する学生が多く見られた。

【特に優れた取組】
オンライン環境を整え、ハイブリッドでのアクティビティに大いに活用した。特に重要なアクティビティの１つであるサマースクールではオンライン受講を可能にし、また、各大学が国際的文化交流を絶やさぬようそれぞれ積極的に工夫を重ねた。このような取り組みの結果、実渡航派遣がままならないながらも全てのアクティビティを催行し参加した学生には全て単位取得をさせることができた。

⑩：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

受け入れについては派遣のパターンよりさらに困難な状況が続いていたが、同様にオンラインのみ、もしくはハイブリッド参加ができる体制下で継続してきた。
2022年には上海交通大学から1名、釜山大学から3名、2023年には上海交通大学から2名が完全オンラインでダブルディグリーを取得した。
翌2023年になると、実渡航でのDD取得が見込めるようになったため留学生の入学希望者が復調した。

【特に優れた取組】
コロナ禍における国からの柔軟な措置の下、教職員によるさまざまな工夫や各国大学ルール内での交渉とアレンジを経てDD生輩出を絶やさなかったことは大きな成果であった。
また全体的な参加者数では見えないが、かねてより計画をしているサマースクールのオープン化などにおいてはオンライン環境ならではの参加希望学生を得ることができたため、今後に活かせる良い参考事例となった。

（２）　その他（上記（１）に該当するもの以外）

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
		人
		人
		人
		人

（３）　任意指標　※タイプA②・タイプB②のみ

①　本事業で設定している任意指標

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
（指標1）					
（指標2）					
（指標3）					
（指標4）					
（指標5）					

②　2023年度末における目標の達成状況

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
（指標1）					
（指標2）					
（指標3）					
（指標4）					
（指標5）					

③　進捗状況のコメント

【特に優れた取組】

（4）本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

（ⅰ）単位互換を実施する海外相手大学数【計画】　（単位：校）

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
単位互換を実施する海外相手大学数	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	2	2	2	2	3	3	3	3	3	3

（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【計画】　（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学　【大学名：　九州大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
上海交通大学	認定者数	1	5	5	5	5
	認定単位数	10	50	50	50	50
釜山大学校	認定者数	6	5	5	5	5
	認定単位数	60	50	50	50	50
マレーシア工科大学	認定者数	0	0	1	1	1
	認定単位数	0	0	10	10	10
年度別認定者数合計		7	10	11	11	11
年度別認定単位合計		70	100	110	110	110

2. 国内連携大学　【大学名：　　大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位合計		0	0	0	0	0

【2023年度末における目標の達成状況】

（ⅰ）単位互換を実施した海外相手大学数【実績】　（単位：校）

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
単位互換を実施した海外相手大学数	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	2	2	2	2	2	2				

（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【実績】　（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

（ⅰ）代表申請大学　【大学名：　九州大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
上海交通大学	認定者数	1	0	2		
	認定単位数	10	0	14		
釜山大学校	認定者数	7	5	3		
	認定単位数	63	30	18		
マレーシア工科大学	認定者数	0	0	0		
	認定単位数	0	0			
年度別認定者数合計		8	5	5	0	0
年度別認定単位合計		73	30	32	0	0

2. 国内連携大学　【大学名：　　大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位合計		0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和３年度採択）
令和６年度フォローアップ調査票

大学名 （〇が代表大学）	九州大学				
タイプ	タイプA①	※プルダウンから、タイプを選択してください。			
事業名	【和文】	アジアのゼロエミッション持続循環型環境都市を牽引する人材育成・協働教育プログラム			
	【英文】	Cooperative Educational Program for Fostering Human Resources to Lead Sustainable Development of Recycle-Based Zero-Emission Urban and Architectural Environment in Asia			
事業責任者 ※交替年月日は変更があった場合のみ記入	（氏　名）	尾崎　明仁	（所属・職名）	大学院人間環境学研究院・教授	
	（交替年月日）				

海外相手大学追加調書分
相手大学名

※追加調書を提出した大学のみ記入

	大学名		国名
	（日本語表記）	（英語表記）	
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL ※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用
https://suae-casia.arch.kyushu-u.ac.jp/jp/tops

１．取組内容の進捗状況 【（1）と（2）で1ページ以内、（3）～（5）で2ページ以内】

本事業における2023年度の取組内容について記入してください。

（1）取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望

①交流プログラムの内容

本プログラムは、地球環境に配慮した循環型社会や環境負荷の少ない脱炭素社会の構築など、国際的な環境問題を解決するために、グローバルな視点に立脚して俯瞰力・実践力・国際力を備えた都市・建築分野の高度専門人材を育成する取組みである。

【特に優れた取組】

講義中心の専門科目の他、参加型の国際ワークショップや実践科目においても一部にオンライン国際協働学習COILを取り入れ、本来は現地での実体験を要する実践学知についても、VR等の三次元データや双方向通信を活用した仮想空間技術により現実の都市・建築空間を模擬体験させ、実際に近い学習効果を得られるハイブリッド型カリキュラムを構築した。

②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成

都市・建築に関する地域社会固有の問題を解決する高度専門家の育成を目的として、九州大学を拠点に同済大学、釜山大学校校、シンガポール国立大学と４大学コンソーシアムを形成している。国際協働教育による国際基準に準拠したローカルな実践的教育を目指して、原理原則に基づく「基礎学知の修得」、および現地で課題を把握・考察して解決策を導出し、応用・実践して学ばせる「実践学知の経験」を実施している。

【特に優れた取組】

各大学教員と第一線の協力教員が協働して、４大学の学生（約70名）を対象にサマースクールを開講している。教育内容・方法を教員が相互に確認することで、教育の質の保証と国際協働教育を実施している。また、各大学で独自に専門科目と実習科目を開講し、それらを併せて協働教育プログラムを構成している。

③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

外国人学生に対しては、国際交流推進機構留学生センターが在籍管理と教育および修学・生活上の指導・助言・サポートを実施している。日本人学生に対しては、国際部留学課および各部局の学生担当部署が留学前の相談に対応するとともに、海外留学に関するホームページ「九州大学留学ガイド」および「Global Gateways Kyushu University」を開設して留学制度や留学先大学に関する情報を発信している。

【特に優れた取組】

本事業では、国内外企業の第一線で活躍する実務者を講師として招聘し、国際実践教育の一環としてキャリアパスフォーラムを開催している。また、国際機構IASURとの連携により、国内外のインターンシップ機関を確保して学生の企業体験を推奨し、国際的なモビリティを推進している。

④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

本プログラムの発展と普及を目途に、国際協働教育の内容や事業成果を広く国内外に広報する日英併記のホームページを開設している。各大学の紹介、教員情報、科目・シラバス、短期・長期の留学プログラム等の様々な情報を掲載するとともに、国際ワークショップやセミナー、同窓会活動などの新着情報を随時発信している。

【特に優れた取組】

2023年に本学で開催したサマースクール（Sustainable Design Camp）には釜山大学校（韓国）の他、テキサスA＆M（US）、天津大学 （中国）、中国文化大学（台湾）、忠北大学（韓国）から合計69名もの学生参加があり、コンソーシアム以外の大学からも本プログラムへの関心が寄せられ、国際協働教育の先導モデルとして成果を上げている。

（2）特記すべき成果

大学コンソーシアムの教員が一堂に会する修士論文発表会および所定の審査手続きを経て、本学とのDDP学生として同済大学から４名の2023年修了生を輩出した。また、DDPでは釜山大学から1名を新たに受け入れ、本学の学生を同済大学へ１名派遣するとともに、セメスター留学生として釜山大学校から５名の学生を受入れた。2024年度からは九州大学・釜山大学校・都市・建築学国際連携専攻を設置し、釜山大学校と連携して博士後期課程を対象にJDPも開始している。

（3）オンラインを活用した工夫・改善点

本プログラムの目的である「実践学知の経験」を達成するため、遠隔講義や情報通信技術ツールを活用して都市・建築学の教育手法の開発に努め、オンライン国際協働学習を行った。

講義については、オンライン方式（ZoomやTeams等を用いた双方向講義）、およびオンデマンド方式（収録したデジタルコンテンツの視聴講義）を実施した。デジタルコンテンツは、実渡航前後の講義受講や復習に何度でも使用できるため、実渡航後の学習効果を高めるとともに、学生の学習負担の調整に有用であった。都市・建築分野の特徴である設計等の演習科目については、課題対象地を実際に訪れることができない学生も受講できるように、360°カメラや3Dスキャナ等を用いて、予め対象地の三次元情報や動画情報などのデジタルデータをサイバースペース（仮想空間）に準備し、XR技術（Cross Reality）を活用して遠隔地からもオンライン参加できるように工夫した。デジタルコンテンツの双方向通信により、対面に近い水準で受講生を指導する設計教育方法を開発し、通信環境が整えば設計演習でも問題なくオンライン講義できることを確認した。

また、コンソーシアムの各大学教員が遠隔でも連携して講義できるように、オンライン国際協働学習COILを実践することで関連講義をシリーズ化し、組織的な協働教育を行った。各大学の教員と第一線の協力教員が協働し、実渡航交流学習とオンライン国際協働学習COILを併用して、共通科目と各大学独自の専門科目で構成される国際協働教育プログラムを実施した。

DDPの研究指導については、双方向遠隔会議システムの活用により、指導教員と交流先の受け入れ教員、および当該学生が研究に関する議論を行う場を設け、実渡航期間に限定しない長期間の研究指導・助言が可能な教育方法を実施した。オンライン交流の活用により、修士論文の指導や助言に関して、大学コンソーシアムの教員の他、遠隔地の専門家にも参画してもらう機会を設け、より専門性の高い論文指導が可能となっ

２．交流学生数の実績等 【（１）で６ページ以内、（２）（３）で１ページ】

（１）交流する学生数について

①プログラム全体の派遣・受入交流学生数(計画)

●申請時の計画調書記載人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	10	7	27	28	27	28	34	30	34	30	132	123
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	0	0	22	18	22	18	29	18	29	18	102	72
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	10	7	0	0	0	0	0	0	0	0	10	7
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	5	10	5	10	5	12	5	12	20	44

●海外相手大学追加調書分

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

●合計人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	10	7	27	28	27	28	34	30	34	30	132	123
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	0	0	22	18	22	18	29	18	29	18	102	72
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	10	7	0	0	0	0	0	0	0	0	10	7
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	5	10	5	10	5	12	5	12	20	44

②プログラム全体の派遣・受入交流学生数（実績）

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	10	20	31	20	11	14	0	0	0	0
実際に渡航した学生（以下「実渡航」）			3	9	1	13				
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講した学生（以下「オンライン」）	A 10	A 20	A 28	A 11	A	A	A	A	A	A
	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
実渡航とオンライン受講を行った学生（以下「ハイブリッド」）					10	1				
達成目標に対する実績の割合	100%	286%	115%	71%	41%	50%	0%	0%	0%	0%

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

③：【三カ国共通の財政支援の有無及び交流相手国・地域別　内訳】（計画）

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
三カ国共通の財政支援対象となる交流学生数		10	7	27	28	27	28	34	30	34	30	132	123
交流相手国 中国	実渡航			10	6	5	6	5	6	10	6	30	24
	オンライン		5									0	5
	ハイブリッド			2	4	2	4	3	5	3	5	10	18
交流相手国 韓国	実渡航			12	6	12	6	17	6	12	6	53	24
	オンライン	10	2									10	2
	ハイブリッド			2	4	2	4	3	5	3	5	10	18
交流相手国 ASEAN	実渡航				6	5	6	5	6	5	6	15	24
	オンライン											0	0
	ハイブリッド											0	0
交流相手国 中国及び韓国	実渡航											0	0
	オンライン											0	0
	ハイブリッド			1	2	1	2	1	2	1	2	4	8
交流相手国 中国及びASEAN	実渡航											0	0
	オンライン											0	0
	ハイブリッド											0	0
交流相手国 韓国及びASEAN	実渡航											0	0
	オンライン											0	0
	ハイブリッド											0	0
交流相手国 中国、韓国及びASEAN	実渡航											0	0
	オンライン											0	0
	ハイブリッド											0	0
自己負担又は大学負担等による交流学生数		0	0	0	11	0	11	0	11	17	11	17	44
	実渡航				8		8		8	10	8	10	32
	オンライン											0	0
	ハイブリッド				3		3		3	7	3	7	12

④：【三カ国共通の財政支援の有無及び交流相手国・地域別　内訳】（実績）

			2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
三カ国共通の財政支援対象となる交流学生数			10	20	31	20	11	14	0	0	0	0	52	54
交流相手国 中国	実渡航						1						1	0
	オンライン	A		A 8	A 28	A 8	A	A	A	A	A	A	28	16
		B		B	B	B	B	B	B	B	B	B	0	0
	ハイブリッド												0	0
交流相手国 韓国	実渡航				3	9		13					3	22
	オンライン	A	10	A 12	A	A 3	A	A	A	A	A	A	10	15
		B		B	B	B	B	B	B	B	B	B	0	0
	ハイブリッド						10	1					10	1
交流相手国 ASEAN	実渡航												0	0
	オンライン	A		A	A	A	A	A	A	A	A	A	0	0
		B		B	B	B	B	B	B	B	B	B	0	0
	ハイブリッド												0	0
交流相手国 中国及び韓国	実渡航												0	0
	オンライン	A		A	A	A	A	A	A	A	A	A	0	0
		B		B	B	B	B	B	B	B	B	B	0	0
	ハイブリッド												0	0
交流相手国 中国及びASEAN	実渡航												0	0
	オンライン	A		A	A	A	A	A	A	A	A	A	0	0
		B		B	B	B	B	B	B	B	B	B	0	0
	ハイブリッド												0	0
交流相手国 韓国及びASEAN	実渡航												0	0
	オンライン	A		A	A	A	A	A	A	A	A	A	0	0
		B		B	B	B	B	B	B	B	B	B	0	0
	ハイブリッド												0	0
交流相手国 中国、韓国及びASEAN	実渡航												0	0
	オンライン	A		A	A	A	A	A	A	A	A	A	0	0
		B		B	B	B	B	B	B	B	B	B	0	0
	ハイブリッド												0	0
自己負担又は大学負担等による交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航												0	0
	オンライン	A		A	A	A	A	A	A	A	A	A	0	0
		B		B	B	B	B	B	B	B	B	B	0	0
	ハイブリッド												0	0

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑤：【交流形態別　内訳】（計画）

●申請時の計画調書記載人数

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数		0	0	10	18	5	18	10	18	10	18
	実渡航			10	18	5	18	10	18	10	18
	オンライン										
	ハイブリッド										
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	7	5	10	5	10	7	12	7	12
	実渡航										
	オンライン		7								
	ハイブリッド			5	10	5	10	7	12	7	12
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数		10	0	12	0	17	0	17	0	17	0
	実渡航			12		17		17		17	
	オンライン	10									
	ハイブリッド										
⑤単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										

●海外相手大学追加調書分

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										
⑤単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										

●合計

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数		0	0	10	18	5	18	10	18	10	18
	実渡航	0	0	10	18	5	18	10	18	10	18
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	7	5	10	5	10	7	12	7	12
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	5	10	5	10	7	12	7	12
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数		10	0	12	0	17	0	17	0	17	0
	実渡航	0	0	12	0	17	0	17	0	17	0
	オンライン	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

⑥：【交流形態別　内訳】（実績）

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数		10	0	28	18	4	0	0	0	0	0
	実渡航				8						
	オンライン	A 10	A	A 28	A 10	A	A	A	A	A	A
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド					4					
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド										
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	6	0	2	1	7	0	0	0	0
	実渡航		6		1	1	6				
	オンライン	A	A	A	A 1	A	A	A	A	A	A
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド						1				
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数		0	14	3	0	6	7	0	0	0	0
	実渡航			3			7				
	オンライン	A	A 14	A	A	A	A	A	A	A	A
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド					6					
⑤単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド										
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド										

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑦：宿舎の提供について（実績）

宿舎（大学所有の宿舎、大学借り上げによる宿舎等）を提供した学生数	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	1	0	7					0	8

⑧ 同窓会ネットワークへの参加者数について(実績)　※タイプA①・タイプA②のみ

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	合計
第２モードまでの間に準備を進めてきた同窓会ネットワークへの参加者数について	21	23	115			159

⑨：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

2023年度のサマースクールは、釜山大学校の主催でイタリアのシチリアで行われた。7月24日～８月1日までオンラインレクチャーが行われ、
その後９月11日～9月21日までシチリアで現地ワークショップ及びEducational Tripが行われた。九州大学からは5名の学生が参加し、ワークショップで1st Prizeを受賞した。
2024年２月15日～２月26日に釜山大学校で行われたウィンタースクールは、前半はオンラインレクチャー、後半は現地でワークショップという形式で行われ、九州大学からは6名の学生が参加した。本プログラムの目指す「グローバルな人材育成」のため、専門教育と同時に国際的な場で活躍するためのコミュニケーション能力や主体性の向上を図ることが出来た。

【特に優れた取組】
本学からは新型コロナウイルスの影響により3年ぶりに同済大学へ1名ダブルディグリープログラムでの派遣を行った。また、2024年4月からは国際連携専攻が設立され、ジョイントディグリープログラムが開始されるのに伴い、設立準備や入試を行った。2024年9月からは2名のジョイントディグリープログラム生を釜山大学に派遣する予定である。

⑩：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

2023年６月にダブルディグリー修士論文発表会（オンライン）を行い、同済大学の4名の学生が論文発表と査定を経て、修了認定された。また、2023年10月から釜山大学より1名のダブルディグリープログラム生と3名の特別聴講生を、10月からはさらに2名の特別聴講生を受入れ、プログラムを開始した。2023年8月に本校で開催されたサマースクール、Sustainable Design Campは4年ぶりに対面のみで実施されコンソーシアム内外から合計100名以上の参加があった。

【特に優れた取組】
オンライン方式（ZoomやTeams等を用いた双方向講義）およびオンデマンド方式（収録したデジタルコンテンツの視聴講義）の授業を展開した。この取り組みは留学開始後の学習効果を高めるとともに、学生の学習負担の調整に有用であった。
設計演習科目については、Zoom等の双方向通信と併せ、デジタルホワイトボードを利用しオンライン上でリアルタイムに修正点やコメントを直接図示することにより、対面に近い水準で受講生を指導する設計教育方法を開発した。参加型の国際ワークショップや実践科目においても一部をオンライン交流学習COILに切り替え、本来は実体験を要する実践学知についても、VR等の三次元データや双方向通信を活用した仮想空間技術により現実の都市・建築空間を模擬体験させ、実際に近い学習効果を得られるように工夫した。
2023年に本学で開催したサマースクール（Sustainable Design Camp）には、テキサスA＆M（US）や中国文化大学（台湾）、忠北大学（韓国）、天津大学（中国）からも学生と教員の参加があった。コンソーシアム以外の大学からも本プログラムへの関心が寄せられ、国際協働教育の先導モデルとして成果を上げている。

（２）　その他（上記（１）に該当するもの以外）

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
		人
		人
		人
		人

（３）　任意指標　※タイプA②・タイプB②のみ

①　本事業で設定している任意指標

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
（指標1）					
（指標2）					
（指標3）					
（指標4）					
（指標5）					

②　2023年度末における目標の達成状況

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
（指標1）					
（指標2）					
（指標3）					
（指標4）					
（指標5）					

③　進捗状況のコメント

【特に優れた取組】

（4）本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

（ｉ）単位互換を実施する海外相手大学数【計画】　（単位：校）

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
単位互換を実施する海外相手大学数	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2

（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【計画】　（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学　【大学名：　九州大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
釜山大学校	認定者数	1	1	1	2	2
	認定単位数	10	10	10	20	20
同済大学	認定者数	0	1	1	1	1
	認定単位数	0	10	10	10	10
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		1	2	2	3	3
年度別認定単位合計		10	20	20	30	30

【2023年度末における目標の達成状況】

（ｉ）単位互換を実施した海外相手大学数【実績】　（単位：校）

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
単位互換を実施した海外相手大学数	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	1	1	1	2	1	1				

（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【実績】　（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

（ｉ）代表申請大学　【大学名：　九州大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
釜山大学校	認定者数	10	0	4		
	認定単位数	40	0	12		
同済大学	認定者数	0	28	1		
	認定単位数	0	112	18		
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		10	28	5	0	0
年度別認定単位合計		40	112	30	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和３年度採択）
令和６年度フォローアップ調査票

大学名 （〇が代表大学）	長崎大学			
タイプ	タイプA①	※プルダウンから、タイプを選択してください。		
事業名	【和文】	アジアの大学間連携による持続的社会基盤整備を支えるグローバル人材育成事業		
	【英文】	Asia Intercollegiate Cooperative Project for Nurturing Global Leaders in Sustainable Infrastructure Development		
事業責任者 ※交替年月日は変更があった場合のみ記入	（氏　名）	坂口　大作	（所属・職名）	大学院工学研究科・研究科長
	（交替年月日）	令和5年4月1日		

海外相手大学追加調書分 相手大学名 ※追加調書を提出した大学のみ記入	大学名		国名
	（日本語表記）	（英語表記）	
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL ※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用
https://campus-asia.eng.nagasaki-u.ac.jp/

１．取組内容の進捗状況 【（１）と（２）で１ページ以内、（３）～（５）で２ページ以内】

本事業における2023年度の取組内容について記入してください。

（１）取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望

①交流プログラムの内容

交流プログラムの基盤となる学術交流協定及び学生交流に関する覚書を締結し、大学間での協力体制を整備できた。また、2023年度にはシンガポール南洋理工大学との学術及び学生交流協定も締結ができ、国際コラボレーションラボ設置に関する協定書の締結も実現できた。これらにより学生の派遣・受入を確実に実施することができ、着実な実績と成果をあげている。現在ラオス国立大学との学術交流協定締結に向けた取り組みを進めており、2024年度7月には締結する予定である。これを基づき、2024年度よりASEAN拡張型プログラムを本格的に実施する。

【特に優れた取組】

交流プログラムの基盤となる学術交流協定及び学生交流に関する覚書を締結し、大学間での協力体制を整備できた。また、2023年度にはシンガポール南洋理工大学との学術及び学生交流協定も締結ができ、国際コラボレーションラボ設置に関する協定書の締結も実現できた。これらにより学生の派遣・受入を確実に実施することができ、着実な実績と成果をあげている。これまでの3年間は目標人数が60人の所、実際の留学者が114人となり大幅に予定を上回る実績となった。

②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成

交流プログラムの実施体制として、「インフラ人材育成コンソーシアム運営会議」及び「教育の質保証評価委員会」、個別の交流プログラムを企画運営する「ダブル・ディグリー検討部会」、「ハイブリッド型短期留学検討部会」、「ASEAN拡張型短期留学検討部会」を設置した。これまでに、約20回以上の会議や打合せの実施により、交流プログラムの基盤となる学術交流協定及び学生交流に関する覚書及びシンガポール南洋理工大学との学術及び学生交流協定、国際コラボレーションラボ設置に関する協定書の締結も実現できた。また、本事業の全交流プログラムでアンケート調査を実施するとともに、2022年度には自己評価も行い、2023年度には外部評価委員会を開催し、それらを基に交流プログラムの改善を継続的に実施している。質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組みが十分に形成できたといえる。

【特に優れた取組】

これまでの3大学間の交流実績と信頼関係を活かし、本事業の実施体制を迅速に立ち上げることができた。計画通り、インフラ人材育成コンソーシアム運営会議の下に、「教育の質保証評価委員会」及び３つの部会も配置した。このように、学生交流プログラムの各大学における実施状況の共有、学生派遣・受入に関する科目の検討や、成績評価、単位認定の方法及び修了要件等について協議を重ね、教員間の学術交流も図りながら、5大学間での綿密な連携体制を構築・強化することができた。

③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

学生の派遣・受入れ体制は、これまでの実績を活用することで、受入れ・派遣の留学生が安心して留学できる体制を整えることができている。また、中国語・韓国語・英語に堪能なコーディネータを雇用し、受入学生及び派遣学生滞在中のサポートや学生の履修指導、語学研修、TAの配置、学内外での諸手続き、カウンセリング体制、情報提供等、引き続ききめ細かい支援を提供し、満足度の高い学生交流プログラムを提供できている。本事業の交流プログラムに参加した学生は、留学生及び派遣した本学学生ともに、十分な情報共有及びサポート体制によって、日中韓の多様な文化、インフラ整備やインフラの維持管理の基本的な考え方の相違等に対して理解を深めることができている。

【特に優れた取組】

当初計画した環境整備は順調に実施されており、多言語で連携大学の関係者との調整や留学前・留学中・留学後のすべての参加学生に対する安全管理、連絡体制等のきめ細かなサポートを行っている。今後も引き続き、大学全体及び5大学間連携による派遣学生が安心して留学できる体制で対応していく所存である。本学の協定校の増加に繋がったと同時に多様な国・地域からの留学生の受入れの増加にも貢献できた。

④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

本事業は国内外への情報提供及び成果普及を行うために、専用のHP（英語・日本語）および紹介動画（英語・日本語）、パンフレット（日本語）、ロゴマークを作成した。用途にあわせて、多言語・他ツールによる本事業の情報公開を行った。各ツールを通して、本事業の目的や概要、各大学の紹介から学生交流プログラムに関する基本的な情報、経済支援の内容、入試情報、単位認定、卒業資格要件、入学後の生活・教育などの情報を提供・公開することにより、幅広く事業の普及を図るとともに長崎大学の情報発信力の強化につなげることができた。紹介動画は大学HP、YouTubeにも掲載され、パンフレットは関係大学に郵送して、学内のみならず他大学関係者や関係企業等へ発信し、事業成果の普及にも努めた。留学希望の学生に対して留学生活の具体的なイメージを提供することが可能となった。2021年度～2023年度に実施した事業の内容をまとめた年度報告書や、自己評価書、外部評価報告等をホームページに掲載し、学内の関係各所に配布している。

【特に優れた取組】

専用HP、紹介動画、パンフレット及びロゴマークを作成し、多言語・他ツールによる本事業の目的や概要、各大学の紹介から学生交流プログラムに関する基本的な情報、経済支援の内容、入試情報、単位認定、入学後の生活などの情報を提供・公開し、幅広く事業の普及を図るとともに、他大学関係者や関係企業等へ発信し、事業成果の普及にも努めた。外部評価委員会を開催したことにより、外部から客観的に評価するとともに、委員からの提言や意見をもとに、事業の継続的な改善を図ることができた。各種の報告書等をホームページに掲載するしたことにより、本事業の透明性を高めることができた。

（2）特記すべき成果

交流プログラムの基盤となる学術交流協定及び学生交流に関する覚書を締結し、大学間での協力体制を整備できた。また、2023年度にはシンガポール南洋理工大学との学術及び学生交流協定も締結ができ、国際コラボレーションラボ設置に関する協定書の締結も実現できた。これらにより学生の派遣・受入を確実に実施することができ、着実な実績と成果をあげている。長崎大学ではシンガポール南洋理工大学との協定締結が初となるため、本学の協定校の増加に繋がったと同時に多様な国・地域からの留学生の受入れの増加にも貢献できた。さらに、大学間実務担当者会議（各部会）を開催し、今後のプログラム実施内容についての意見交換と討議を行い、実施計画・体制を確認し円滑な事業運営の意思疎通を図ることができた。また、学生交流プログラムについては、博士後期課程でのダブル・ディグリープログラムは、2021年度に制度設計を完了し2022年度に受入れを開始する予定であったが、予定を半年早めて、2021年度中に山東大学から1名の博士後期課程のダブル・ディグリー学生の受入れを実現することができた。工学研究科において、初となる博士後期課程でダブル・ディグリープログラムの実施となることから、工学研究科の留学生の増加やダブル・ディグリープログラムの着実な実績作りができた。さらに、工学研究科の英語による授業の増加にも繋がった。さらに、ハイブリッド型短期留学プログラムもダブル・ディグリープログラムと同様に、予定を早め2021年度中に日中韓オンラインプログラムを実施した。これまでの3年間は目標人数が78人の所、実際の留学者が133人となり大幅に予定を上回る実績となり、長崎大学や工学研究科の留学生の増加に繋がった。また、同窓生21名が企画・運営に参加し世代を超えた交流が行われた。なお、本プログラムに参加した学生のうち3名は、ダブル・ディグリープログラム（博士前期課程）として成均館大学校への留学中である。本プログラムは他の交流プログラムへの参加意欲に喚起したと言え、今後実施する他のプログラムへも良い影響を与え、波及効果が高いと考えられる。これにより、日本人学生の留学機運の上昇や日本人学生の留学数の増加に大きな貢献となった。さらに、2024年3月に有識者を構成員とする「外部評価委員会」を開催したことで、本事業の取組状況や学生交流プログラムの内容、教育の質の保証、等の情報を公開し、成果の発信に務めた。外部から客観的に評価するとともに、委員からの提言や意見をもとに、事業の継続的な改善を図ることができた。

（3）オンラインを活用した工夫・改善点

【工夫点】①大学間の連携におけるオンラインの活用；　2019年度から新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け対面での会議開催が困難な中、本事業を円滑に遂行するために、綿密な大学間協議が不可欠であるとの共通認識のもと、インフラ人材育成コンソーシアム運営会議や各部会会議、大学間の実務担当者会議等の一部をオンライン、または、ハイブリッド式で開催した。オンライン会議の前に、国際コーディネーターによる入念な事前打合せや、会議資料の事前配布や適時な多言語の説明文の作成、英語による議事録の共有など、オンラインでも的確な意思疎通ができるよう様々な工夫を行った。さらに、DDプログラム等の派遣及び受入学生の指導教員による研究打合せや研究指導等もオンラインで頻繁に行った。長崎大学では、主体的学習促進システム（LACS:Learning Assessment & Communication System）で、オンラインによるオンデマンド講義、授業資料の閲覧、連絡事項の確認、メッセージの送受信等が可能なシステムを有しており、オンラインのみの参加であっても、教育の質を担保し単位の取得や単位互換が可能であることは実証済みである。これらの努力によって、大学間の連携体制を強化させることができ、事業を確実に遂行することができた。②ハイブリッド型短期留学プログラムにおけるオンラインの活用；当初は2022年度に実施予定であったが、次年度以降の新型コロナウイルス感染症拡大の状況下におけるオンライン講義の課題を抽出するために、2021年度に「日中韓オンライン学生交流プログラム」をすべてオンライン形式で開催した。次年度以降に開催するオンラインプログラムに係わる諸課題についても把握、整理することができた。2022年度及び2023年度のハイブリッド型短期留学プログラムは、オンラインを軸としてオプショナル的に実渡航を伴ったプログラムとしPBL形式で開催した。通常の座学だけではなく、PBLを中心とした講義であるために、学生間の情報交換や、議論をするシステム構築が重要となる。そのため、2021年度に挙がった諸課題の改善方法等について大学間協議や学内会議を重ねてきた。34回のオンライン講義は「インフラにかかわる専門科目」と「文化・歴史・言語の教養科目」「グループワーク」で構成され、「Zoom」を用いて実施した。各講義後10分間の討議およびグループワークでは、Zoomの機能である「ブレイクアウトルーム」を用い、各グループ内で活発な意見交換が行われた。また、各国のインターネット制限やソフトウェアの使用制限が大きく異なるため、共通で使用できる様々なツールを検討し、会話交流ができる「WeChat」と自由に書きこみができるホワイトボード「Miro」を使用して、リアルタイムで意見交換及び資料の作成を行うことができた。オリエンテーションや成果発表会の開催に関しても、事前に資料を配布するとともに、発表グループを決め、共通のツールを使いまた、各大学の参加学生及び、講義を行う教員が混乱しないよう、講義用のZOOMリンクを1つに限定し、学生間交流用に別のZOOMリンクを作成した。さらに、本プログラムではすべての講義をオンデマンド化し、専用のHPに動画を公開したことにより、講義終了後でも繰り返して学習できるシステムを構築した。講義を担当する教員は、事前に講義資料の配布や、感想文やレポートを課すなど、学生に飽きさせないオンライン講義の提供に励んだ。

③国際シンポジウムにおけるオンラインの活用；博士前期・後期課程の学生の学術交流や教員間の共同研究の促進を目的とした国際コラボレーションラボを設立した。その一環として、2023年2月に第1回国際シンポジウムを長崎大学で開催し、延べ60人以上が参加した。ハイブリッドで実施するシンポジウムを円滑に行うために様々な工夫を行った。会場を2つに分け、対面またはオンラインで研究成果を発表するとし、オンラインでは「ZOOM」を用いて5大学の学生を分野ごとにセッションを設置し、同時に発表する形で開催した。聴講は、オンラインルームおよび会場に自由に参加することができる体制とした。また、同時にポスター発表も開催され、10名の学生のポスターに関するプレゼンテーションを事前に特設HP上に配信し、当日に質疑応答セッションを設けた。このような工夫の結果、オンライン発表と会場発表を円滑に実施することができた。遠方からの参加や活発な意見交換等、ハイブリッド型の国際シンポジウムは非常にメリットが多く、今後も継続して実施していく予定である。

【改善点】演習の講義については、事前の課題や資料提供が不十分な部分が見られる。講義の一部をオンデマンド化して、講義後でも学習できるように改善をはかる。学生グループワークについては、Zoomを利用したグループワークに加え，視覚的にグループワークができるmiroを利用した。その結果，音声・会話による議論よりも文章やコメントによるディスカッションが増加した。意思疎通の面では効果的であったが、より活発な交流を促すために、同窓生による支援やファシリテーター導入などを検討する。

２．交流学生数の実績等 【（１）で６ページ以内、（２）（３）で１ページ】

（１）交流する学生数について

①プログラム全体の派遣・受入交流学生数(計画)

●申請時の計画調書記載人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	1	8	16	10	25	12	25	11	26	41	93
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	0	1	3	4	2	5	4	5	3	6	12	21
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	5	12	8	20	8	20	8	20	29	72

●海外相手大学追加調書分

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

●合計人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	1	8	16	10	25	12	25	11	26	41	93
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	0	1	3	4	2	5	4	5	3	6	12	21
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	5	12	8	20	8	20	8	20	29	72

②プログラム全体の派遣・受入交流学生数（実績）

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	6	24	10	27	12	29	0	0	0	0
実際に渡航した学生（以下「実渡航」）	0	0	2	5	4	10				
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講した学生（以下「オンライン」）	A 0 B 6	A 1 B 23	A 1 B 0	A 14 B 0	A 0 B 0	A 0 B 0	A B	A B	A B	A B
実渡航とオンライン受講を行った学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	7	8	8	19				
達成目標に対する実績の割合	#DIV/0!	2400%	125%	169%	120%	116%	0%	0%	0%	0%

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

③：【三カ国共通の財政支援の有無及び交流相手国・地域別　内訳】（計画）

			2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
三カ国共通の財政支援対象となる交流学生数			0	1	8	16	10	25	12	25	11	26	41	93
	交流相手国 中国	実渡航	0	1	1	2	1	2	2	2	1	3	5	10
		オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	交流相手国 韓国	実渡航	0	0	2	2	1	3	1	2	1	2	5	9
		オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	交流相手国 ASEAN	実渡航	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	2	2
		オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	交流相手国 中国及び韓国	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	交流相手国 中国及びASEAN	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	交流相手国 韓国及びASEAN	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	交流相手国 中国、韓国及びASEAN	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		ハイブリッド	0	0	5	12	8	20	8	20	8	20	29	72
自己負担又は大学負担等による交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

④：【三カ国共通の財政支援の有無及び交流相手国・地域別　内訳】（実績）

			2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
三カ国共通の財政支援対象となる交流学生数			6	24	10	27	12	29	0	0	0	0	28	80
	交流相手国 中国	実渡航	0	0	0	4	0	3					0	7
		オンライン	A 0	A 1	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A	0	1
			B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B	0	0
		ハイブリッド	0	0	0	0	0	11					0	11
	交流相手国 韓国	実渡航	0	0	2	1	2	6					4	7
		オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A	0	0
			B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B	0	0
		ハイブリッド	0	0	0	0	0	8					0	8
	交流相手国 ASEAN	実渡航	0	0	0	0	2	1					2	1
		オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A	0	0
			B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B	0	0
		ハイブリッド	0	0	0	0	0	0					0	0
	交流相手国 中国及び韓国	実渡航	0	0	0	0	0	0					0	0
		オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A	0	0
			B 6	B 23	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B	6	23
		ハイブリッド	0	0	0	0	8	0					8	0
	交流相手国 中国及びASEAN	実渡航	0	0	0	0	0	0					0	0
		オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A	0	0
			B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B	0	0
		ハイブリッド	0	0	0	0	0	0					0	0
	交流相手国 韓国及びASEAN	実渡航	0	0	0	0	0	0					0	0
		オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A	0	0
			B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B	0	0
		ハイブリッド	0	0	0	0	0	0					0	0
	交流相手国 中国、韓国及びASEAN	実渡航	0	0	0	0	0	0					0	0
		オンライン	A 0	A 0	A 1	A 14	A 0	A 0	A	A	A	A	1	14
			B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B	0	0
		ハイブリッド	0	0	7	8	0	0					7	8
自己負担又は大学負担等による交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		実渡航	0	0	0	0	0	0					0	0
		オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A	0	0
			B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B	0	0
		ハイブリッド	0	0	0	0	0	0					0	0

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑤：【交流形態別　内訳】（計画）

●申請時の計画調書記載人数

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0	1	8	16	10	25	11	25	10	26
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	1	3	4	2	5	3	5	2	6
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	5	12	8	20	8	20	8	20
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	1	0	1	0
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

●海外相手大学追加調書分

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

●合計

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0	1	8	16	10	25	11	25	10	26
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	1	3	4	2	5	3	5	2	6
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	5	12	8	20	8	20	8	20
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	1	0	1	0
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

⑥：【交流形態別　内訳】（実績）

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0				
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0				
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0				
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0				
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	1	2	5	12	23	0	0	0	0
	実渡航	0	0	2	5	4	3				
	オンライン	A 0	A 1	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0	0	0	8	20				
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数		6	23	0	0	0	6	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	6				
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
		B 6	B 23	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0				
⑤単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0				
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0				
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	8	22	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0				
	オンライン	A 0	A 0	A 1	A 14	A 0	A 0	A	A	A	A
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0	7	8	0	0				

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑦：宿舎の提供について（実績）

宿舎（大学所有の宿舎、大学借り上げによる宿舎等）を提供した学生数	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	1	4	12	0	29					4	42

⑧ 同窓会ネットワークへの参加者数について(実績)　※タイプA①・タイプA②のみ

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	合計
第２モードまでの間に準備を進めてきた同窓会ネットワークへの参加者数について	30	37	41			108

⑨：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

本事業は2021年度から2022年度までの2年間を事業立ち上げ期とし、2023年度から2025年度の3年間を事業充実期とし、学生を派遣する計画である。新型コロナウイルス感染症パンデミックを考慮し、学生の派遣に際しては安全を最優先としている。2021年度は、学生派遣数はゼロの計画であったが、2022年度に実施する予定の「ハイブリッド型短期留学プログラム」の試行的な取組として、「日中韓オンライン学生交流プログラム」を実施することができ、長崎大学から6名の学生を派遣することができた。2022年度には、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で長崎大学からDDプログラム生の派遣が困難であったが、成均館大学校にはその代替として、「単位互換制度を活用した短期留学プログラム」として2名の学生を派遣した。また、ハイブリッド型短期留学プログラムに長崎大学から8名が参加し、成均館大学校に3名、南洋理工大学に4名を実渡航留学として派遣した。2023年度には長崎大学からはDDプログラムで初めて成均館大学校へ2名の学生を派遣した。また、ハイブリッド型短期留学プログラムに長崎大学から8名が参加し、オンライン講義を受講すると共に、成均館大学校と山東大学に２ヶ国以上の実渡航留学として計8名の学生を派遣した。さらに、予定を早め2023年度中にASEAN拡張型短期留学プログラムとして博士後期課程の学生を2名南洋理工大学に派遣することができた。派遣先大学での英語による講義や多国籍学生との交流経験、海外での生活を通して、他国の文化に密接に触れることができ、「グローバル人材」であることを学生自らが自覚できる貴重な経験となった。毎年実施するインフラ人材育成コンソーシアム運営会議では、５年間の学生交流人数の計画を意見交換し、共通認識を行い、計画どおりに学生を派遣する所存である。

【特に優れた取組】

毎年、４月に学内説明会を複数回開催することによって、事業の全体説明だけでなく、単位認定可能科目数や履修手続き、派遣スケジュール、出願書類や経済支援（奨学金、宿舎、交通費）等、留学に関する様々な情報の詳細を説明し、留学を希望する学生に対して、国際交流の重要性を具体的に感じさせ、不安や疑問を減らした状態での留学検討を可能にした。留学するにあたり必要となる心構えや準備を事前に示すことで、語学力向上を促す等、学生の意識改善を図ることができた。2023年度にDDプログラムで初めて成均館大学校に派遣した2名の学生は2022年度のハイブリット型短期留学プログラムに参加しており、他の交流プログラムへの参加意欲に喚起したと言え、今後実施する他のプログラムへもよい影響を与え、波及効果が高いと考えられ、大学全体の国際化の推進に貢献できた。2023年度にはシンガポール南洋理工大学との学術及び学生交流協定も締結ができ、長崎大学では当該大学との協定締結が初となるため、本学の協定校の増加に繋がったと同時に多様な国・地域からの留学生の受入れの増加にも貢献できた。これまでの3年間は派遣目標人数が18人の所、実際の派遣学生が28人となり予定を上回る実績となった。

⑩：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

本事業は2021年度から2022年度までの2年間を事業立ち上げ期とし、2023年度から2025年度の3年間を事業充実期とし、学生を受入れる計画である。新型コロナウイルス感染症パンデミックを考慮し、学生の受入に際しては安全を最優先としている。山東大学と第２モードからの連携体制により、2021年度12月に2022年度入学の博士前期課程の入試を実施した。その結果、山東大学から３名の学生が合格し、2022年9月から受入れた。また、2020年9月に受入れを行い、2021年8月に帰国した山東大学の4名のダブル・ディグリー学生の修士論文に関する試問会を2022年2月に実施した。試問会はzoom会議システムを利用して、山東大学の指導教員も長崎大学での論文審査委員会に参加し、発表学生への質疑応答も行われた。さらに試問会終了後、コース担当教員による判定会議を開催し、修士論文の合否判定を長崎大学の教員と一緒に行った。さらに、博士後期課程でのダブル・ディグリープログラムは、2021年度に制度設計を完了し、2022年度に受入れを開始する予定であったが、予定を半年間早めて、2021年度中に山東大学から1名の博士後期課程のダブル・ディグリー学生の受入れを実現することができた。新型コロナウイルス感染症の影響で入国制限を受けて来日できていない期間中は、指導教授がオンラインシステムを活用して研究計画の作成と研究指導を行っていた。2022年度に実施する予定の「ハイブリッド型短期留学プログラム」の試行的な取組として、「日中韓オンライン学生交流プログラム」を実施することができ、山東大学から17名と成均館大学校から6名の学生を受入ることができた。次年度に開催するオンラインプログラムに係わる諸課題についても把握することができた。 2022年度には前期・後期課程の日中韓のDDプログラムとして、山東大学から4名の学生を受入れ、短期留学プログラムとして成均館大学校から1名を受入れた。また、 ハイブリッド型短期留学プログラムに山東大学、成均館大学、ラオス国立大学から22名が参加した。そのうち、実渡航では、韓国・成均館大学から6名とラオス国立大学から2名を受入れた。2023年度には前期課程の日中韓のDDプログラムとして、山東大学から3名の学生を受入れ、 韓国成均館大学から特別プログラム「Winter Short-Term Exchange Program」 として6名の学生を受入れた。また、 ハイブリッド型短期留学プログラムに山東大学、成均館大学、ラオス国立大学から20名が参加し、実渡航では全学生が参加した。

【特に優れた取組】

山東大学との第２モードからの連携体制により、ダブル・ディグリープログラム（博士前期課程）では３名の学生を、さらにダブル・ディグリープログラム（博士後期課程）が実現でき、１名の学生を受入れることができた。特に博士後期課程でのダブル・ディグリープログラムは、長崎大学全体及び大学院工学研究科においても、初めての取組であり、その推進により長崎大学の国際化に大きく寄与している。新型コロナウイルス感染拡大の影響で実渡航ができない中、事務局に配置した留学生対応の経験が豊富なネイティブの語学国際コーディネーターが対応を行い、受入れる体制を整えている。これまでのダブル・ディグリープログラムの学生の多くは、自国と留学先の大学院博士後期課程への進学や大手企業への就職等を決めており、極めて優秀な人材育成が実現できている。国際共同学位プログラムとして国際的に活躍できる人材育成の役割を充分に果たしていると考えられる。また、相手大学の指導教員を学位審査員として参加させることにより、教育の質が保証されている。さらにコンソーシアム運営会議及び大学間担当者会議においては、ダブル・ディグリー制度の課題点等を三大学で話し合い改善方法について議論するなど、継続的な改善を実施することが合意された。これまでの3年間は受入目標人数が42人の所、実際の受入学生が80人となり大幅に予定を上回る実績となり、このように学生の派遣・受入ともに当初の計画を上回る結果となった。

（2） その他（上記（1）に該当するもの以外）

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
		人
		人
		人
		人

（3） 任意指標 ※タイプA②・タイプB②のみ

① 本事業で設定している任意指標

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
（指標1）					
（指標2）					
（指標3）					
（指標4）					
（指標5）					

② 2023年度末における目標の達成状況

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
（指標1）					
（指標2）					
（指標3）					
（指標4）					
（指標5）					

③ 進捗状況のコメント

【特に優れた取組】

（4）本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

（ⅰ）単位互換を実施する海外相手大学数【計画】　（単位：校）

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
単位互換を実施する海外相手大学数	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	1	2	3	2	4	2	4	2	4

（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【計画】　（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学　【大学名：長崎大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
山東大学	認定者数	0	6	9	10	9
	認定単位数	0	30	39	43	39
成均館大学校	認定者数	0	7	9	9	9
	認定単位数	0	34	39	39	39
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	13	18	19	18
年度別認定単位合計		0	64	78	82	78

2. 国内連携大学　【大学名：　　大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位合計		0	0	0	0	0

【2023年度末における目標の達成状況】

（ⅰ）単位互換を実施した海外相手大学数【実績】　（単位：校）

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
単位互換を実施した海外相手大学数	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	1	1	2	2	2				

（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【実績】　（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

（ⅰ）代表申請大学　【大学名：長崎大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
山東大学/成均館大学校	認定者数	0	0	8		
	認定単位数	0	0	8		
成均館大学校	認定者数	0	2	0		
	認定単位数	0	12	0		
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	2	8	0	0
年度別認定単位合計		0	12	8	0	0

2. 国内連携大学　【大学名：　　大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位合計		0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和３年度採択）
令和６年度フォローアップ調査票

大学名 （〇が代表大学）	早稲田大学			
タイプ	タイプA①	※プルダウンから、タイプを選択してください。		
事業名	【和文】	文明間対話促進のための文化的知性を備えたソーシャルイノベーター共同育成プログラム		
	【英文】	Social Innovation Program for Promoting Dialogue of Civilizations and Fostering Cultural Intelligence in Contemporary Asian Societies		
事業責任者 ※交替年月日は変更があった場合のみ記入	（氏　名）	早田　宰	（所属・職名）	早稲田大学社会科学総合学術院・学術院長
	（交替年月日）			

海外相手大学追加調書分 相手大学名 ※追加調書を提出した大学のみ記入	大学名		国名
	（日本語表記）	（英語表記）	
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL ※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用
https://dpt-campusasia-mode3.w.waseda.jp/

１．取組内容の進捗状況【（1）と（2）で1ページ以内、（3）～（5）で2ページ以内】

本事業における2023年度の取組内容について記入してください。

（1）取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望

①交流プログラムの内容

本事業の目玉ともいえる取り組みである、各パートナー大学の学生・教職員が一大学に集合し、共通の社会問題等をテーマに議論し、発表し、交流を深める「ソーシャルイノベーションフォーラム」を2023年7月に南洋理工大学にて開催した。パートナー大学である北京大学、高麗大学、早稲田大学の教職員・学生を含め総勢60人以上が現地に集結し、本学からはオンラインでも7人の学生が本フォーラムに参加した。

【特に優れた取組】

本フォーラムでは各大学の教員がまずは講義を行いそれに対して学生からの質疑や、講義に基づく活発な議論が行われた。また、様々な視点でディスカッションを行うことにより、学生はより深い学びを得ることができた。また、様々な活動を通してパートナー大学の学生同志の交流も活発に行われた。

②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成

約2カ月に一度4大学でオンラインで開催する、キャンパスアジア合同運営委員会（ICPC)において、共同で企画・開催する本プログラムの目玉のイベントである、ソーシャルイノベーションフォーラムのプログラム内容等フォーラムに関する事柄や、各大学がパートナー大学の学生に公開するオンライン授業やパートナー大学間のCOIL授業実施検討、キャンパスアジアプログラムの修了生に発行する電子証明書の件等について活発な意見交換を行い、プログラムの質向上に尽力した。

【特に優れた取組】

ICPCにおいては、キャンパスアジア担当の本学教員がファシリテーターとして積極的に発言することで、４大学合同運営委員会での議論が活性化され、ソーシャルイノベーションフォーラムの内容、４大学共通プログラム証明書発行基準、オンライン授業等に関して活発な議論に繋がった。

③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

学生受入について、留学生のデータを留学センターが管理しており、在留資格変更や期間更新等のサポートを統括しつつキャンパス毎の担当職員がサポートを行っている。入学時にはオリエンテーションを開催し、適切な修学指導を行い、不法滞在者を出さない措置も講じている。学生派遣について、本学留学センターが行う海外留学者向けオリエンテーションへの参加を促し、海外旅行保険加入については義務付けている。ビザの取得や留学生活に伴う実務面に関しても、海外オフィスを含めたサポート体制を構築している。

【特に優れた取組】

本事業専属の英語能力と複数大学での留学業務経験のある嘱託職員を雇用し、海外相手先大学と密な連携をとりながらサポートを行っている。また、本学留学センターは外国人学生の受入れ、学生の海外派遣いずれにおいて、豊富な対応実績があり海外オフィスや海外相手大学と連携を取りながらサポートを行っている。

④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

本事業推進を目的として作成したHP（日英）で、イベント開催の周知、留学プログラムの募集等を行った。また、ソーシャルイノベーションフォーラム(SIF)に参加した学生による、SIFフォトジャーナルをHPに掲載した。現在本HPは改修を行っており、改修後は学生のSIFの成果・国際交流の体験談や、様々なイベントの周知、イベントの様子等を更に掲載する予定である。

（https://dpt-campusasia-mode3.w.waseda.jp/）

【特に優れた取組】

SIFの参加学生によるフォトジャーナルをHPに掲載したことにより、より具体的に学生がキャンパスアジアプログラムの内容を理解することができ、社会問題に興味のある本プログラムがターゲットとしている学生にリーチすることが容易にできる様になり、また多くの学生が本プログラムに興味を持つきっかけとなった。

（2）特記すべき成果

2022年度後半から実渡航が可能となり、2023年度よりプログラム開始時に計画していた実渡航による国際交流イベント実現が可能となった。その結果、実渡航でなければ体験できない深い学び、国際交流を学生は体験することができる様になった。

（3）オンラインを活用した工夫・改善点

2023年7月に南洋理工大学（シンガポール）で開催されたソーシャルイノベーションフォーラムにて、本学キャンパスアジア担当教員が実施する本学正規科目「Social Innovation in Global Asia」の履修学生7名によるSocial Innovation Projectの発表が行われた。国籍、文化の異なる本フォーラムに現地参加した4大学の学生および教員より、様々な視点のフィードバックをもらうことができた。

オンライン交流として、本学キャンパスアジア担当教員が協定3大学に解放した「Synthesis of Conflict Resolution and Social Innovation」では、全１４回の授業のうち３回をハイブリッド形式で開催し、パートナー大学から参加した学生とのグループ討論を行った。３回のハイブリッド授業回ではそれぞれ、①社会課題の分析、②課題解決プロジェクトのプロトタイプ、③プロジェクトの最終発表について、早大生による発表とそれに対するパートナー大学学生からのフィードバックを含むグループ討論の機会を得た。こうした相互交流により、履修生においてより多角的な視点での課題理解が進んだことが、各授業後の振り返りとレポートの精査から伺えた。

２．交流学生数の実績等 【（１）で６ページ以内、（２）（３）で１ページ】

（１）交流する学生数について

①プログラム全体の派遣・受入交流学生数(計画)

●申請時の計画調書記載人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	10	30	50	60	55	70	75	80	85	90	275	330
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	0	0	20	10	20	10	30	10	30	10	100	40
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	10	30	20	40	25	50	35	60	45	70	135	250
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	10	10	10	10	10	10	10	10	40	40

●海外相手大学追加調書分

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）											0	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）											0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）											0	0

●合計人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	10	30	50	60	55	70	75	80	85	90	275	330
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	0	0	20	10	20	10	30	10	30	10	100	40
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	10	30	20	40	25	50	35	60	45	70	135	250
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	10	10	10	10	10	10	10	10	40	40

②プログラム全体の派遣・受入交流学生数（実績）

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	7	4	24	34	0	0	0	0
実際に渡航した学生（以下「実渡航」）	0	0	6	4	17	7				
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講した学生（以下「オンライン」）	A 0	A 0	A 1	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
	B 0	B 0	B 0	B 0	B 7	B 27	B	B	B	B
実渡航とオンライン受講を行った学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	0	0	0	0				
達成目標に対する実績の割合	0%	0%	14%	7%	44%	49%	0%	0%	0%	0%

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

③：【三カ国共通の財政支援の有無及び交流相手国・地域別　内訳】（計画）

			2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
三カ国共通の財政支援対象となる交流学生数			10	30	50	60	45	70	55	80	65	90	225	330
	交流相手国 中国	実渡航	0	0	4	4	4	4	4	4	4	4	16	16
		オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		ハイブリッド	0	0	4	4	4	4	4	4	4	4	16	16
	交流相手国 韓国	実渡航	0	0	3	3	3	3	3	3	3	3	12	12
		オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		ハイブリッド	0	0	3	3	3	3	3	3	3	3	12	12
	交流相手国 ASEAN	実渡航	0	0	3	3	3	3	3	3	3	3	12	12
		オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		ハイブリッド	0	0	3	3	3	3	3	3	3	3	12	12
	交流相手国 中国及び韓国	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	交流相手国 中国及びASEAN	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	交流相手国 韓国及びASEAN	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	交流相手国 中国、韓国及びASEAN	実渡航	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	10	0
		オンライン	10	30	20	40	25	50	35	60	45	70	135	250
		ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自己負担又は大学負担等による交流学生数			0	0	0	0	10	0	20	0	20	0	50	0
		実渡航	0	0	0	0	10	0	20	0	20	0	50	0
		オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

④：【三カ国共通の財政支援の有無及び交流相手国・地域別　内訳】（実績）

			2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
三カ国共通の財政支援対象となる交流学生数			0	0	7	4	24	34	0	0	0	0	31	38
	交流相手国 中国	実渡航	0	0		1	3	3					3	4
		オンライン A	0	0	1	0	0	0					1	0
		オンライン B	0	0	0	0	0	0					0	0
		ハイブリッド	0	0	0	0	0	0					0	0
	交流相手国 韓国	実渡航	0	0	3	3	3	3					6	6
		オンライン A	0	0	0	0	0	0					0	0
		オンライン B	0	0	0	0	0	0					0	0
		ハイブリッド	0	0	0	0	0	0					0	0
	交流相手国 ASEAN	実渡航	0	0	3	0	1	1					4	1
		オンライン A	0	0	0	0	0	0					0	0
		オンライン B	0	0	0	0	0	0					0	0
		ハイブリッド	0	0	0	0	0	0					0	0
	交流相手国 中国及び韓国	実渡航	0	0	0	0	0	0					0	0
		オンライン A	0	0	0	0	0	0					0	0
		オンライン B	0	0	0	0	0	0					0	0
		ハイブリッド	0	0	0	0	0	0					0	0
	交流相手国 中国及びASEAN	実渡航	0	0	0	0	0	0					0	0
		オンライン A	0	0	0	0	0	0					0	0
		オンライン B	0	0	0	0	0	0					0	0
		ハイブリッド	0	0	0	0	0	0					0	0
	交流相手国 韓国及びASEAN	実渡航	0	0	0	0	0	0					0	0
		オンライン A	0	0	0	0	0	0					0	0
		オンライン B	0	0	0	0	0	0					0	0
		ハイブリッド	0	0	0	0	0	0					0	0
	交流相手国 中国、韓国及びASEAN	実渡航	0	0	0	0	10	0					10	0
		オンライン A	0	0	0	0	0	0					0	0
		オンライン B	0	0	0	0	7	27					7	27
		ハイブリッド	0	0	0	0	0	0					0	0
自己負担又は大学負担等による交流学生数			0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	1
		実渡航	0	0	0	0	1	1					1	1
		オンライン A	0	0	0	0	0	0					0	0
		オンライン B	0	0	0	0	0	0					0	0
		ハイブリッド	0	0	0	0	0	0					0	0

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑤：【交流形態別　内訳】（計画）

●申請時の計画調書記載人数

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		10	30	30	50	35	60	45	70	55	80
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	10	30	20	40	25	50	35	60	45	70
	ハイブリッド	0	0	10	10	10	10	10	10	10	10
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	10	10	10	10	10	10	10	10
	実渡航	0	0	10	10	10	10	10	10	10	10
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数		0	0	10	0	10	0	20	0	20	0
	実渡航	0		10		10		20		20	
	オンライン	0		0		0		0		0	
	ハイブリッド	0		0		0		0		0	
⑤単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

●海外相手大学追加調書分

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										
⑤単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										

●合計

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		10	30	30	50	35	60	45	70	55	80
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	10	30	20	40	25	50	35	60	45	70
	ハイブリッド	0	0	10	10	10	10	10	10	10	10
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	10	10	10	10	10	10	10	10
	実渡航	0	0	10	10	10	10	10	10	10	10
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数		0	0	10	0	10	0	20	0	20	0
	実渡航	0	0	10	0	10	0	20	0	20	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

⑥：【交流形態別　内訳】（実績）

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0				
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0				
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0				
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0				
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	7	4	7	7	0	0	0	0
	実渡航	0	0	6	4	7	7				
	オンライン	A 0	A 0	A 1	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0				
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	17	27	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	10	0				
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 7	B 27	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0				
⑤単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0				
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0				
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0				
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0				

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑦：宿舎の提供について（実績）

宿舎（大学所有の宿舎、大学借り上げによる宿舎等）を提供した学生数	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	3	4	6	7					9	11

⑧ 同窓会ネットワークへの参加者数について(実績)　※タイプA①・タイプA②のみ

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	合計
第２モードまでの間に準備を進めてきた同窓会ネットワークへの参加者数について	0	0	19			19

⑨：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

2023年度は、春学期から本格的に留学プログラムを稼働することができ、7名の本学学生がプログラムに参加した。また、7月には初めて対面式でソーシャルイノベーションフォーラムを開催することができ、実渡航で10名、オンラインで7名の学生が本フォーラムに参加することができた。また、本プログラムの協定校である北京大学から本学学生がオンラインで参加できる授業の提供があった。

【特に優れた取組】
実渡航でプログラムに参加することにより、パートナー大学の学生と活発な交流を行うことができた。また現地での授業履修や、フォーラム参加による意義のある学び以外でも渡航先の文化や歴史に触れたり、地元の人々との交流を通して、実渡航でなければ体験できない貴重な機会を得ることができた。協定校である北京大学から本学学生がオンラインで参加できる授業の提供があり、今後も協定校間でオンライン交流を実施する様連携していく所存である。

【特に優
⑩：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

派遣交流プログラムと同様、2023年度は春学期から本格的に留学プログラムを稼働することができ、パートナー大学から7名の学生を受け入れた。また、2023年度は、キャンパスアジアプログラムの教員の担当授業である「Synthesis of Conflict Resolution and Social Innovation」の全１４回の授業のうち３回をハイブリッド形式で開催し、パートナー大学から参加した学生とのグループ討論を行った。

【特に優れた取組】キャンパスアジアプログラムの教員の担当授業である「Synthesis of Conflict Resolution and Social Innovation」をパートナー大学の学生に一部授業を解放した試みでは、３回のハイブリッド授業回ではそれぞれ、①社会課題の分析、②課題解決プロジェクトのプロトタイプ、③プロジェクトの最終発表について、早大生による発表とそれに対するパートナー大学学生からのフィードバックを含むグループ討論の機会を得た。こうした相互交流により、履修生においてより多角的な視点での課題理解が進んだことが、各授業後の振り返りとレポートの精査から伺えた。

（２）　その他（上記（１）に該当するもの以外）

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
		人
		人
		人
		人

（３）　任意指標　※タイプA②・タイプB②のみ

①　本事業で設定している任意指標

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
（指標1）					
（指標2）					
（指標3）					
（指標4）					
（指標5）					

②　2023年度末における目標の達成状況

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
（指標1）					
（指標2）					
（指標3）					
（指標4）					
（指標5）					

③　進捗状況のコメント

【特に優れた取組】

（4）本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

（ⅰ）単位互換を実施する海外相手大学数【計画】　（単位：校）

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
単位互換を実施する海外相手大学数	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	3	3	3	3	3	3	3	3

（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【計画】　（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学　【大学名：早稲田大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
北京大学	認定者数	0	4	4	4	4
	認定単位数	0	100	100	100	100
高麗大学	認定者数	0	3	3	3	3
	認定単位数	0	75	75	75	75
南洋理工大学	認定者数	0	3	3	3	3
	認定単位数	0	75	75	75	75
年度別認定者数合計		0	10	10	10	10
年度別認定単位合計		0	250	250	250	250

2. 国内連携大学　【大学名：　　大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位合計		0	0	0	0	0

【2023年度末における目標の達成状況】

（ⅰ）単位互換を実施した海外相手大学数【実績】　（単位：校）

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
単位互換を実施した海外相手大学数	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	3	2	3	3				

（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【実績】　（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

（ⅰ）代表申請大学　【大学名：早稲田大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
北京大学	認定者数	0	1	0		
	認定単位数	0	20	0		
高麗大学	認定者数	0	3	3		
	認定単位数	0	63	58		
南洋理工大学	認定者数	0	3	4		
	認定単位数	0	54	12		
年度別認定者数合計		0	7	7	0	0
年度別認定単位合計		0	137	70	0	0

2. 国内連携大学　【大学名：　　大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位合計		0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和３年度採択）
令和６年度フォローアップ調査票

大学名 （〇が代表大学）	〇立命館大学、立命館アジア太平洋大学			
タイプ	タイプA②	※プルダウンから、タイプを選択してください。		
事業名	【和文】	東アジアグローバルリーダー養成のための、日中韓共同運営移動キャンパス		
	【英文】	Korea-China-Japan Joint Campus program to foster global leaders for East Asia		
事業責任者 ※交替年月日は変更があった場合のみ記入	（氏　名）	遠藤　英樹	（所属・職名）	文学部　学部長
	（交替年月日）	2024年4月1日		

海外相手大学追加調書分 相手大学名 ※追加調書を提出した大学のみ記入		大学名		国名
		（日本語表記）	（英語表記）	
	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL ※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用
https://www.ritsumei.ac.jp/campusasia/

１．取組内容の進捗状況 【（1）と（2）で1ページ以内、（3）～（5）で2ページ以内】

本事業における2023年度の取組内容について記入してください。

（1）取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望

①交流プログラムの内容

【現段階の課題】中国への実渡航留学を再開し、通常の移動キャンパスに復帰したが、中等教育までの海外体験の減少を受け、新規プログラム生数が伸び悩んだ。オープンキャンパスや募集説明会等に現役CAP生との相談を取り入れるなどの策を講じるほか、IAコース生の増員や特別募集の実施により一定数を確保する手だてを講じている。定期的な同窓会運営は軌道に乗ったが、修了生自身による運営に向けて組織強化に努める。

【今後の展望】第3モード終了後のプログラムをにらみ、現今の学生ニーズに適合した募集方式、プログラム内容、留学方式などの見直しを検討する。同窓会組織の自立化に向けた議論を進める。

【特に優れた取組】

新たに正課授業に小学校でのサービス・ラーニングを取り入れ、CAPの学びを社会に還元している。

②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成

【現段階の課題】AGコースに開始(R6年度)にあたり、APUが有するASEAN諸大学とのネットワーク・リソースとの接続を模索するとともに、オンラインを活用した他大学との合同講義などプログラムの多角化を図る。

【今後の展望】初年次教育において協定校以外の他大学との合同授業を活発化させ、オンラインも含めたプログラムの多角化・複線化を図るなど、第3モード修了後の持続可能なプログラムの構築に向けての議論を行う。

【特に優れた取組】

コロナ後の中国実渡航再開にあたり、本学の諸部署は無論、協定校との緊密な連絡を取り、合理的な渡航手段・経路の選定、渡航費用の軽減に努めるとともに、現地情報、感染時の対応状況を綿密に把握して、独自に作成した渡航ガイドブックを学生に配布・周知することでプログラム生の安心・安全な実渡航を早期に実現させた。

③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

【現段階の課題】従来の国内外でのインターンシップ、キャリアセミナー等のキャリア教育に加え、大学院進学を含む進路指導を充実させた。移動キャンパス参加中の学生や所属大学に戻った中韓４年次生へのオンライン参加も念頭におくなど、学年段階、時期に応じたキャリア教育に一層努める。

【今後の展望】定期的な学生面談によって学生のキャリアニーズを把握し、本学キャリアオフィス、文学研究科大学院担当と連携し、適切な情報を伝達する。相互学習や学生交流を学生主体の企画体制へと移行させる。

【特に優れた取組】

国籍・学年を越えた学生自主団体「Campus Asia Homies」を組織し、ピア・ラーニング、ピア・サポートを行い、学生の自主性・自律性を高めた。メンタルに不安を抱える学生に対し、渡航前・渡航中において協定校・本学保健センター・CAP事務局と密に連携をとり、学生のメンタルヘルスの維持に努めた。

④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

【現段階の課題】本学グローバルコモンズ「Beyond Borders Plaza」での対面交流行事やピア・ラーニングに参加する日中韓CAP生は増加しており、学内における国際交流の一翼を担っている。また、附属校との連携も円滑に進められており、今後もCAPの国際的学びを学内外に普及させる方策を検討する。

【今後の展望】プログラム内容や運営方式、成果などに関して他大学から適宜問い合わせが来ている。今後も本プログラムのスキームを他大学に波及させ、本事業の成果の拡散に努めていく。

【特に優れた取組】

留学中の学びや生活に関するプログラム生によるブログ記事を定期的に更新し、インスタグラムとともに、学生目線での多様なCAPの学びを発信した。さらに公式WEBサイトにはプログラム内容に加え、交流学生数、語学伸長度を定期更新し、10年以上に及ぶCAPの学びの可視化を図っている。

（2）特記すべき成果

在学中の現役CAP生や日本の大学院に進学した中国のCAP修了生にも呼びかけ、同窓会「CAP+」を開催した。CAPの学びを現在のキャリアに生かした経験についての日中CAP修了生による講演、現役生による学生団体の活動報告があり、横のつながりに加え、学年を越えた縦のつながりを創出した。また、関西滞在中の広外大教員の出席を得たことに加え、韓国で開催された東西大同窓会とオンラインで繋ぎ、対面・オンラインによる日中韓を架橋した場を創出できたことは特筆に値する。

（3）オンラインを活用した工夫・改善点

実渡航留学の完全再開を背景に、コロナ禍で導入したオンライン留学は停止したが、各種のオンラインツールの活用を継続している。具体的には⑴日中韓どのキャンパスに滞在していてもアクセス可能とするため、本学LMS「manaba+R」のプログラム独自コースを開設し、本学プログラム生、中韓プログラム生の全在籍生を登録している。語学検定模擬試験の常時オンライン受験、各種学術行事情報、キャリア情報(大学院進学・就職活動)を定期的に提供している。⑵受験生対象の募集説明会に移動キャンパス参加中のプログラム生がオンライン参加し、現地での学びの状況を発信した。⑶初年次教育に協定校以外の大学との合同授業も積極的に導入し、国際的学びのモチベーションと語学力の向上を図った。

２．交流学生数の実績等 【（１）で６ページ以内、（２）（３）で１ページ】

（１）交流する学生数について

①プログラム全体の派遣・受入交流学生数(計画)

●申請時の計画調書記載人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	61	69	114	105	116	113	112	120	112	120	515	527
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	32	36	76	65	78	73	74	80	74	80	334	334
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	29	33	38	40	38	40	38	40	38	40	181	193
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

●海外相手大学追加調書分

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

●合計人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	61	69	114	105	116	113	112	120	112	120	515	527
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	32	36	76	65	78	73	74	80	74	80	334	334
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	29	33	38	40	38	40	38	40	38	40	181	193
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

②プログラム全体の派遣・受入交流学生数（実績）

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	72	93	102	105	89	106	0	0	0	0
実際に渡航した学生（以下「実渡航」）	14	0	35	71	39	65				
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講した学生（以下「オンライン」）	A 20	A 62	A 40	A 2	A 0	A 4	A	A	A	A
	B 38	B 31	B 27	B 32	B 36	B 37	B	B	B	B
実渡航とオンライン受講を行った学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	0	0	14	0				
達成目標に対する実績の割合	118%	135%	89%	100%	77%	94%	0%	0%	0%	0%

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

③：【三カ国共通の財政支援の有無及び交流相手国・地域別　内訳】（計画）

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
三カ国共通の財政支援対象となる交流学生数		61	69	114	105	116	113	112	120	112	120	515	527
交流相手国 中国	実渡航	16	20	38	40	39	40	37	40	37	40	167	180
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
交流相手国 韓国	実渡航	16	16	38	25	39	33	37	40	37	40	167	154
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
交流相手国 ASEAN	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
交流相手国 中国及び韓国	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	29	33	38	40	38	40	38	40	38	40	181	193
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
交流相手国 中国及びASEAN	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
交流相手国 韓国及びASEAN	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
交流相手国 中国、韓国及びASEAN	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自己負担又は大学負担等による交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

④：【三カ国共通の財政支援の有無及び交流相手国・地域別　内訳】（実績）

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
三カ国共通の財政支援対象となる交流学生数		72	93	102	105	89	106	0	0	0	0	263	304
交流相手国 中国	実渡航	0	0	0	38	12	40					12	78
	オンライン	A 13	A 41	A 35	A 2	A 0	A 4	A	A	A	A	48	47
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	14	0					14	0
交流相手国 韓国	実渡航	14	0	35	33	27	25					76	58
	オンライン	A 1	A 21	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A	1	21
		B 0	B 0	B 3	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B	3	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0					0	0
交流相手国 ASEAN	実渡航	0	0	0	0	0	0					0	0
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A	0	0
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0					0	0
交流相手国 中国及び韓国	実渡航	0	0	0	0	0	0					0	0
	オンライン	A 6	A 0	A 5	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A	11	0
		B 38	B 31	B 24	B 32	B 36	B 37	B	B	B	B	98	100
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0					0	0
交流相手国 中国及びASEAN	実渡航	0	0	0	0	0	0					0	0
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A	0	0
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0					0	0
交流相手国 韓国及びASEAN	実渡航	0	0	0	0	0	0					0	0
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A	0	0
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0					0	0
交流相手国 中国、韓国及びASEAN	実渡航	0	0	0	0	0	0					0	0
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A	0	0
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0					0	0
自己負担又は大学負担等による交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0					0	0
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A	0	0
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0					0	0

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑤：【交流形態別　内訳】（計画）

●申請時の計画調書記載人数

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数		32	36	76	65	78	73	74	80	74	80
	実渡航	32	36	76	65	78	73	74	80	74	80
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数		29	33	38	40	38	40	38	40	38	40
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	29	33	38	40	38	40	38	40	38	40
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

●海外相手大学追加調書分

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

●合計

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数		32	36	76	65	78	73	74	80	74	80
	実渡航	32	36	76	65	78	73	74	80	74	80
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数		29	33	38	40	38	40	38	40	38	40
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	29	33	38	40	38	40	38	40	38	40
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

⑥：【交流形態別　内訳】（実績）

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数		0	15	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0				
	オンライン	A 0	A 15	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0				
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0				
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0				
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数		34	31	75	67	53	65	0	0	0	0
	実渡航	14	0	35	65	39	65				
	オンライン	A 20	A 31	A 40	A 2	A 0	A 0	A	A	A	A
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0	0	0	14	0				
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数		38	47	27	38	36	41	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	6	0	0				
	オンライン	A 0	A 16	A 0	A 0	A 0	A 4	A	A	A	A
		B 38	B 31	B 27	B 32	B 36	B 37	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0				
⑤単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0				
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0				
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0				
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0				

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑦：宿舎の提供について（実績）

宿舎（大学所有の宿舎、大学借り上げによる宿舎等）を提供した学生数	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	14	0	35	65	53	65					102	130

⑧ 同窓会ネットワークへの参加者数について(実績)　※タイプA①・タイプA②のみ

第２モードまでの間に準備を進めてきた同窓会ネットワークへの参加者数について	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	合計
	151	192	255			598

⑨：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

2022年度新規プログラム生(7期生)の減少により計画数の半数の実渡航となったが(交流形態:③実渡航)、コロナ禍以降中断されていた中国への実渡航留学をビザ取得前のオンライン留学と組み合わせることで(交流形態③:ハイブリッド)、計画の7割弱の交流学生を確保した。なお、中国短期留学ビザ解禁後、安心・安全な留学に向けた、速やかな全学的取り組みのもと早期の現地派遣を実現させ、学期の過半を超える実渡航期間を確保できた。また、本学文学部生からCAPスキームを利用した留学を特別募集をし、実渡航での派遣を行った。さらにIAコース生(APU生)の増員を図り、7期生の欠員を補充する方策を講じた。なお、春学期開講から中国派遣までのオンライン留学から実渡航留学への移行は、協定校との緊密な連携のもと、学びを中断することなくスムーズに行われた。メンタル面に不安を抱える学生など、途中辞退者が3名あったが、本学で開講される中韓受入生との日中韓共修科目を受講するなど、辞退後も国際的学びを継続するサポートを行っている。
派遣前教育で行っている3ヵ国4大学CAP生によるオンライン結団式のほか、コンソーシアム参加校以外とも積極的にオンライン交流を実施し(中国、韓国の大学と各1回計2回:交流形態:④オンラインB)、ほぼ計画通りの交流学生数を確保した。今後も、各種説明会や広報・成果公開に努め、1年次生確保に尽力するとともに、プログラム外も含めた交流を拡充する計画である。派遣手続きは、マニュアルが整備されており、安定的に進行している。

【特に優れた取組】
外務省渡航レベル２での韓国派遣時以来、渡航先政府の感染症予防政策や感染時の対応、最新の現地情報、協定校の対応、渡航時の留意点などを盛り込んだ渡航ガイドブックを作成・配布した経験は、中国派遣時にも生かされた。上記情報を中国派遣にあわせて再編し、渡航前ガイダンスで実渡航学生に周知徹底することで、海外でのコロナ感染への不安軽減、安心・安全な留学プログラムの提供に努めた。その結果、派遣学生からコロナ感染者が発生した際にも、協定校と緊密な連携のもと、診療・治療、待機・完治にいたる過程に支障なく対応することができた。

⑩：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

受入手続きはマニュアルが整備されており、大学全体でスムーズな処理がされ、受け入れ人数も安定的に推移している(交流形態:③実渡航)。韓国では兵役かつコロナ禍での休学が発生しており、休復学の際にイレギュラーな対応や人数のアンバランスが生じているが、年度をまたいでの受入を行っている。派遣学生同様、オンライン結団式を実施したほか、定期的な附属校生との交流は、オンラインで滞りなく実施した(交流形態：④オンラインＢ)。従来通り、国際寮、図書館、国際コモンズ等の大学施設の利用、LMSシステムや履修にかかわる各種ガイダンスを実施し、受講に支障をきたさないようサポート体制を整えている。

【特に優れた取組】
CAP生による学生自主団体「Campus Asia Homies」の運営に、本学CAP１・4年次生以外に中韓受入生も携わることで、受入学生のニーズにあわせた企画、ピア・ラーニング、ピア・サポートが行われた。この活動に主体的に参加することで、自主・自律性が養われるとともに、本学への留学意欲を高める一助ともなっている。

（２）　その他（上記（１）に該当するもの以外）

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
該当なし		人
		人
		人
		人

（３）　任意指標　※タイプA②・タイプB②のみ

①　本事業で設定している任意指標

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
アジアグローバルコース				3	3
インテンシブアジアコース			2	2	2
（指標3）					
（指標4）					
（指標5）					

②　2023年度末における目標の達成状況

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
アジアグローバルコース					
インテンシブアジアコース			2		
（指標3）					
（指標4）					
（指標5）					

③　進捗状況のコメント

アジアグローバルコースでは、23年度に移動キャンパス1周目に参加する学生(22年度入学生)から募集・選抜が始まるため、派遣は24年度からの派遣となる(3年次派遣)。対象となるプログラム生に対して、募集要項の配布や留意点などのコース内容を周知し、募集を行っている。
インテンシブアジアコースでは、22年度に募集・選抜を実施し、計画通りの実渡航派遣を行った。派遣にあたっては、キャンパスアジアコース生に実施している渡航前ガイダンスにオンラインで参加し、渡航や移動キャンパス時の手続き、諸注意を周知徹底した。次年度以降も募集説明会や広報を実施し、これまで同様、定員を上回る応募者確保を目標としている。

【特に優れた取組】オンラインを利用したインテンシブアジアコース募集説明会には、実渡航中のプログラム生も参加し、派遣先大学での学習・生活・学生交流の３つを軸にした実体験について参加希望者に案内することで、プログラムの学びの理解度を高めた。

（4）本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

（ｉ）単位互換を実施する海外相手大学数【計画】　（単位：校）

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
単位互換を実施する海外相手大学数	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2

（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【計画】　（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学　【大学名：立命館大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
広東外語外貿大学	認定者数	16	38	37	35	35
	認定単位数	240	570	555	525	525
東西大学校	認定者数	16	38	37	35	35
	認定単位数	240	570	555	525	525
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		32	76	74	70	70
年度別認定単位合計		480	1140	1110	1050	1050

2. 国内連携大学　【大学名：立命館アジア太平洋大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
広東外語外貿大学	認定者数	0	0	2	2	2
	認定単位数	0	0	28	28	28
東西大学校	認定者数	0	0	2	2	2
	認定単位数	0	0	28	28	28
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	4	4	4
年度別認定単位合計		0	0	56	56	56

【2023年度末における目標の達成状況】

（ｉ）単位互換を実施した海外相手大学数【実績】　（単位：校）

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
単位互換を実施した海外相手大学数	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	2	2	2	2	2	2				

（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【実績】　（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

（ｉ）代表申請大学　【大学名：立命館大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
広東外語外貿大学	認定者数	14	35	24		
	認定単位数	163	436	312		
東西大学校	認定者数	14	35	25		
	認定単位数	168	331	330		
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		28	70	49	0	0
年度別認定単位合計		331	767	642	0	0

2. 国内連携大学　【大学名：立命館アジア太平洋大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
広東外語外貿大学	認定者数	0	0	2		
	認定単位数	0	0	26		
東西大学校	認定者数	0	0	2		
	認定単位数	0	0	40		
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	4	0	0
年度別認定単位合計		0	0	66	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和３年度採択）
令和６年度フォローアップ調査票

大学名 （〇が代表大学）	東北大学			
タイプ	タイプB①	※プルダウンから、タイプを選択してください。		
事業名	【和文】	アジア型デンティストリーコンソーシアムによるマルチモーダルなグローバルリーダー育成		
	【英文】	Multimodal Global Leaders Development through Asian-Model Dentistry Consortium		
事業責任者 ※交替年月日は変更があった場合のみ記入	（氏　名）	小坂　健	（所属・職名）	歯学研究科・研究科長
	（交替年月日）			

海外相手大学追加調書分
相手大学名

※追加調書を提出した大学のみ記入

	大学名		国名
	（日本語表記）	（英語表記）	
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL ※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用
https://www.dent.tohoku.ac.jp/english/caind/

１．取組内容の進捗状況 【（1）と（2）で１ページ以内、（3）～（5）で２ページ以内】

本事業における2023年度の取組内容について記入してください。

（1）取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望

①交流プログラムの内容

1) 学生交流に関しては、対面で、計58名の学生を受け入れ、計20名の本学学生を派遣し、学生レベルでの国際ネットワークの構築に寄与した。2) 4月より、チュラロンコン大学とインドネシア大学からダブルディグリープログラムの大学院生1名ずつ、合計2名を受け入れ、連携校との共同研究をベースとした学生交流を促進した。3)サバティカル教員派遣受入プログラムを開始し、5名の教員を受け入れ、国際共同教育が一層強化された。今後の展望としては、日本人学生の長期派遣を目指し、学内でのシステム構築に努める。また、インターンシッププログラムの開発を進めている。

【特に優れた取組】

4月からはサバティカル教員受入プログラムを実施し、5名の教員を受け入れた。また、10月にはサバティカル教員派遣プログラムを設置し、次年度から教員を派遣することが可能となった。これにより、国際共同研究のみならず、国際共同教育の強化に繋がった。

②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成

1) 事業終了後の自走化およびプログラムの質向上を目指し、受入プログラムのプログラム費徴収システムを構築した。これにより、充実した研修旅行や文化体験、そして本学学生サポーター謝金等、プログラムの質の向上に努めている。2) 研修旅行では、語り部バスへの参加など、東北地方独自の研修内容・学びを提供するよう努めている。3) 受入プログラムのガイドラインを2つを作成し（プログラム概要と募集要項と、受入手続き要項）、学生への情報提供、受入手続き手順やプログラム内容の理解促進に努めている。今後の展望としては、病院見学のガイドラインを作成し、より質の高い臨床実習プログラムの開発に努める。

【特に優れた取組】

事業終了後の自走化へ向けた制度として、プログラム費の徴収制度を整備した。クレジットカード支払いシステムへの素早い導入により、事務の効率化も促進された。これにより、充実した研修旅行や文化体験、そして本学学生サポーター謝金等、質の高いプログラムの提供に寄与している。

③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

1) 外国人学生受入のためには、本学学生によるサポーター制度を整備し、本学学生との交流機会の提供に務めている。また、防災情報をまとめて学生に周知し、危機管理体制を強化している。2) 日本人学生の派遣については、Google Classroomを活用して、派遣手続き・奨学金に必要な提出物や課題を一括で管理している。今後は、サポーター制度のガイドラインを作成し、サポーターの教育的効果の明確化を行う。

【特に優れた取組】

本学学生が受入留学生サポーター制度に参加することで、本学学生の英語力の向上や、連携校との学生の交流の深まりが見られ、本学学生のグローバルコンピテンシーの向上に寄与している。サポーター制度の充実により、日本人学生の海外留学への関心の向上が期待できると考えている。

④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

1) 10月26日、27日、キャンパスアジアインデンティストリー（CA+inD）国際シンポジウムを福建医科大学で対面により開催した。 11月23日、24日には、シンガポールで行われたIADR-SEA年次総会で、CA+inDの一環として国際シンポジウムを共同で開催し、本プログラムのグローバル展開、世界から優秀な学生の確保に寄与した。2) 受入・派遣プログラムの実施終了直後に、実施報告書を作成し、日本語と英語で発信している。

【特に優れた取組】

11月23日、24日に、シンガポールで行われたIADR-SEA年次総会で、CA+inDの一環として、国際シンポジウムを共同で開催した。ここで、本事業に関する情報発信を行い、国際共同研究をベースとした交流プログラムの促進と、世界から優秀な学生の確保に寄与した。

（2）特記すべき成果

文理異分野連携型の歯学教育を達成するため、大学院コースにサイコソーシャル口腔健康科学のカリキュラムを新設し、文学研究科による歴史学、文化人類学、倫理学等の視点から英語による歯学関連の授業7回分（1回につき2講義、計14講義）を開発・実施した。さらに、2023年3月からは延世大学との共同授業において本学の授業教材を提供し、マルチモーダルなグローバルリーダー育成の一助となっている。

（3）オンラインを活用した工夫・改善点

・事前オリエンテーションや交流会のオンライン実施により、渡航前から受入予定学生と派遣予定学生を交流させ、渡航後の相互交流を促進させた。
・派遣および受入プログラムの事前・事後研修をオンラインで実施し、参加率が向上しており、相互の交流が深まった。
・CA+inD協定校の教員によるオンライン授業実施により、グローバルな視点で幅広い歯科分野の知見を提供できた。

２．交流学生数の実績等 【（１）で６ページ以内、（２）（３）で１ページ】

（１）交流する学生数について

①プログラム全体の派遣・受入交流学生数(計画)

●申請時の計画調書記載人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	10	10	20	20	20	20	20	20	20	20	90	90
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	0	0	5	8	10	10	15	15	15	15	45	48
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	7	7	10	8	5	5	0	0	0	0	22	20
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	3	3	5	4	5	5	5	5	5	5	23	22

●海外相手大学追加調書分

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

●合計人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	10	10	20	20	20	20	20	20	20	20	90	90
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	0	0	5	8	10	10	15	15	15	15	45	48
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	7	7	10	8	5	5	0	0	0	0	22	20
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	3	3	5	4	5	5	5	5	5	5	23	22

②プログラム全体の派遣・受入交流学生数（実績）

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	24	15	13	37	20	68	0	0	0	0
実際に渡航した学生（以下「実渡航」）	0	0	8	29	20	62				
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講した学生（以下「オンライン」）	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
	B 24	B 13	B 5	B 6	B 0	B 0	B	B	B	B
実渡航とオンライン受講を行った学生（以下「ハイブリッド」）	0	2	0	2	0	6				
達成目標に対する実績の割合	240%	150%	65%	185%	100%	340%	0%	0%	0%	0%

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

③：【三カ国共通の財政支援の有無及び交流相手国・地域別　内訳】（計画）

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
三カ国共通の財政支援対象となる交流学生数		8	8	17	16	12	12	12	12	12	12	61	60
交流相手国 中国	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
交流相手国 韓国	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
交流相手国 ASEAN	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1
交流相手国 中国及び韓国	実渡航	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	1	2
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	1	1	2	1	0	0	0	0	0	0	3	2
交流相手国 中国及びASEAN	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
交流相手国 韓国及びASEAN	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
交流相手国 中国、韓国及びASEAN	実渡航	0	0	3	4	7	7	12	12	12	12	34	35
	オンライン	7	7	10	8	5	5	0	0	0	0	22	20
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自己負担又は大学負担等による交流学生数		2	2	3	4	8	8	8	8	8	8	29	30
	実渡航	0	0	1	2	3	3	3	3	3	3	10	11
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	2	2	2	2	5	5	5	5	5	5	19	19

④：【三カ国共通の財政支援の有無及び交流相手国・地域別　内訳】（実績）

			2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
三カ国共通の財政支援対象となる交流学生数			24	13	13	35	20	58	0	0	0	0	57	106
交流相手国 中国	実渡航		0	0	0	0	0	0					0	0
	オンライン	A	0	0	0	0	0	0					0	0
		B	0	0	0	0	0	0					0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0					0	0
交流相手国 韓国	実渡航		0	0	0	0	0	0					0	0
	オンライン	A	0	0	0	0	0	0					0	0
		B	0	0	0	0	0	0					0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0					0	0
交流相手国 ASEAN	実渡航		0	0	0	0	0	0					0	0
	オンライン	A	0	0	0	0	0	0					0	0
		B	0	0	0	0	0	0					0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0					0	0
交流相手国 中国及び韓国	実渡航		0	0	0	0	0	0					0	0
	オンライン	A	0	0	0	0	0	0					0	0
		B	0	0	0	0	0	0					0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0					0	0
交流相手国 中国及びASEAN	実渡航		0	0	0	0	0	0					0	0
	オンライン	A	0	0	0	0	0	0					0	0
		B	0	0	0	0	0	0					0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0					0	0
交流相手国 韓国及びASEAN	実渡航		0	0	0	0	0	0					0	0
	オンライン	A	0	0	0	0	0	0					0	0
		B	0	0	0	0	0	0					0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0					0	0
交流相手国 中国、韓国及びASEAN	実渡航		0	0	8	29	20	58					28	87
	オンライン	A	0	0	0	0	0	0					0	0
		B	24	13	5	6	0	0					29	19
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0					0	0
自己負担又は大学負担等による交流学生数			0	2	0	2	0	10	0	0	0	0	0	14
	実渡航		0	0	0	0	0	4					0	4
	オンライン	A	0	0	0	0	0	0					0	0
		B	0	0	0	0	0	0					0	0
	ハイブリッド		0	2	0	2	0	6					0	10

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑤：【交流形態別　内訳】（計画）

●申請時の計画調書記載人数

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		2	3	2	4	3	5	5	5	5	5
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	2	3	2	4	3	5	5	5	5	5
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		5	5	10	8	12	12	12	12	12	12
⑤単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	7	7	12	12	12	12
	オンライン	5	5	10	8	5	5	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		3	2	8	8	5	3	3	3	3	3
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	5	8	3	3	3	3	3	3
	オンライン	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	1	0	3	0	2	0	0	0	0	0

●海外相手大学追加調書分

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

●合計

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数		2	3	2	4	3	5	5	5	5	5
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	2	3	2	4	3	5	5	5	5	5
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		5	5	10	8	12	12	12	12	12	12
	実渡航	0	0	0	0	7	7	12	12	12	12
	オンライン	5	5	10	8	5	5	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数		3	2	8	8	5	3	3	3	3	3
	実渡航	0	0	5	8	3	3	3	3	3	3
	オンライン	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	1	0	3	0	2	0	0	0	0	0

⑥：【交流形態別　内訳】（実績）

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数		24	13	5	0	13	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	13	0				
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
		B 24	B 13	B 5	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0				
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	8	0	7	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	8	0	7	0				
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0				
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	2	0	2	0	10	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	4				
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	2	0	2	0	6				
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	35	0	58	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	29	0	58				
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
		B 0	B 0	B 0	B 6	B 0	B 0	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0				
⑤単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0				
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0				
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0				
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0				

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑦：宿舎の提供について（実績）

宿舎（大学所有の宿舎、大学借り上げによる宿舎等）を提供した学生数	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	2	7	15	8	22					15	39

⑧ 同窓会ネットワークへの参加者数について(実績)　※タイプA①・タイプA②のみ

第２モードまでの間に準備を進めてきた同窓会ネットワークへの参加者数について	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	合計
	0	0	0			0

⑨：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

2023年度は、短期派遣プログラムに20名の本学学生を派遣し、KPI（20名）を達成することができた。
1. 夏季短期派遣プログラムの実施
・8月31日～10月1日の間の31日間、韓国のソウル大学と延世大学（2名を各大学2週間ずつ）、タイのチュラロンコーン大学とチェンマイ大学（4名を各大学2週間ずつ）、インドネシア大学（1名を31日間）に、計7名の本学学生を派遣した。
2. 春季短期派遣プログラムの実施
・3月11日～3月29日の間の2週間、韓国のソウル大学と延世大学（5名を各大学1週間ずつ）、タイのチュラロンコーン大学とチェンマイ大学（5名を各大学1週間ずつ）、インドネシア大学（3名を2週間）に、計13名の本学学生を派遣した。
3. 派遣学生数増加のための工夫
・歯学部学生に留学への興味を持ってもらうために、派遣学生が提出した終了後レポートをはじめ、過去のプログラムスケジュールや宿舎情報等を整理して歯学部学生に公開している。留学に行きたい学生が多いという話を学生から聞いたため、今後は留学意向アンケート調査を実施し、歯学部の現状を把握することを計画している。

【特に優れた取組】
(1) 派遣学生数のKPIの達成
・歯学部生は、臨床実習や国家試験等により、カリキュラム上海外派遣プログラムへの参加が困難な状況にあるが、2023年度には、20名の本学学生を短期派遣プログラムに派遣することができ、KPIを達成することができた。
(2) 学生が参加しやすい派遣プログラム作り
・4週間の派遣だけでなく、2週間のプログラムも設定し、歯学部学生が参加しやすい派遣留学プログラムを提供する工夫をしている。
・事前研修をオンラインで実施したり、Google Classroomを活用することで、渡航手続きに関わる提出物等の確認がスピーディーにできる工夫をしている。
・歯学部学生に短期派遣プログラムの情報提供を徹底するため、派遣学生が提出した終了後レポートをはじめ、過去のプログラムスケジュールや宿舎情報等を整理して歯学部学生に公開している。留学のイメージを持ってもらい、本学学生の留学意欲の向上を目指している。

⑩：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

2023年度は、本事業連携校（北京大学、四川大学、ソウル大学、延世大学、チュラロンコーン大学、インドネシア大学）の学生58名を受け入れ、KPI（20名）を大幅に達成することができた。
1. 夏季短期受入プログラムの実施
・8月17日～8月28日、ソウル大学（5名）、延世大学（5名）、チュラロンコーン大学（2名）、インドネシア大学（6名）を含む計32名の歯学生を対面で受け入れた。
・8月22日～8月28日、四川大学（3名）と北京大学（3名）を含む計11名の中国の学生を対面で受け入れた。
・9月4日～9月15日、ソウル大学（2名）の歯学生を対面で受け入れ、Externshipプログラム（病院見学中心のプログラム）を実施した。
2. 冬季短期受入プログラムの実施
・1月23日～1月26日、延世大学の学生1名を短期研修生として受け入れた。
・2月5日～2月16日、北京大学（5名）、四川大学（9名）、ソウル大学（2名）、延世大学（5名）、チュラロンコーン大学（1名）、インドネシア大学（9名）を含む計43名の歯学生を対面で受け入れ、日本人学生との交流を含む留学プログラムを実施した。

【特に優れた取組】
(1)ガイドラインの作成
・学生への情報提供を目的として、受入プログラムのガイドラインを2つを作成し（①プログラム概要と募集要項、②受入手続き要項）、学生への情報提供、受入手続き手順やプログラム内容の理解促進に努め、プログラム参加者の増加に寄与している。
(2)プログラム費徴収システムの構築
・事業終了後の自走化へ向けた取り組みとして、プログラム費の徴収制度を整備した。すでにあった仕組みを工夫して、クレジットカード支払いシステムへの素早い導入が可能となった。徴収したプログラム費は、充実した研修旅行や文化体験の提供、本学学生へのプログラムサポーター謝礼など、学生に還元することができている。
(3)ホームステイオプションの提供
・株式会社ホームステイインジャパンと連携し、希望学生にホームステイオプションの提供を開始した。これまでに、15名の学生がホームステイに参加し、地域住民との深い交流が可能となり、満足度の高い取り組みとなった。

（2）　その他（上記（1）に該当するもの以外）

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
		人
		人
		人
		人

（3）　任意指標　※タイプA②・タイプB②のみ

①　本事業で設定している任意指標

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
（指標1）					
（指標2）					
（指標3）					
（指標4）					
（指標5）					

②　2023年度末における目標の達成状況

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
（指標1）					
（指標2）					
（指標3）					
（指標4）					
（指標5）					

③　進捗状況のコメント

【特に優れた取組】

（4）本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

（ｉ）単位互換を実施する海外相手大学数【計画】　（単位：校）

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
単位互換を実施する海外相手大学数	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	5	5	6	6	6	6	6	6	6	6

（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【計画】　（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学　【大学名：東北大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
北京大学 四川大学	認定者数	1	1	1	2	2
	認定単位数	10	10	10	20	20
ソウル大学校 延世大学校	認定者数	1	1	1	2	2
	認定単位数	18	18	18	36	36
チュラロンコーン大学 インドネシア大学	認定者数	0	0	1	1	1
	認定単位数	0	0	10	10	10
年度別認定者数合計		2	2	3	5	5
年度別認定単位合計		28	28	38	66	66

2. 国内連携大学　【大学名：　　大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位合計		0	0	0	0	0

【2023年度末における目標の達成状況】

（ｉ）単位互換を実施した海外相手大学数【実績】　（単位：校）

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
単位互換を実施した海外相手大学数	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	1	0	1	0	3				

（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【実績】　（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

（ｉ）代表申請大学　【大学名：東北大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
北京大学 四川大学	認定者数	0	0	0		
	認定単位数	0	0	0		
ソウル大学校 延世大学校	認定者数	0	0	0		
	認定単位数	0	0	0		
チュラロンコーン大学 インドネシア大学	認定者数	0	0	0		
	認定単位数	0	0	0		
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位合計		0	0	0	0	0

2. 国内連携大学　【大学名：　　大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位合計		0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和３年度採択）
令和６年度フォローアップ調査票

大学名 （○が代表大学）	筑波大学			
タイプ	タイプB①			
事業名	【和文】	地球規模課題解決に資する教育政策マネジメント専門人材育成プログラム		
	【英文】	Development Program for Professionals in Educational Policy Management Contributing to Solving Global Issues		
事業責任者 ※交替年月日は変更があった場合のみ記入	（氏　名）	加藤光保	（所属・職名）	副学長・理事（教育担当）
	（交替年月日）			

海外相手大学追加調書分
相手大学名

※追加調書を提出した大学のみ記入

	大学名		国名
	（日本語表記）	（英語表記）	
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL
※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用

https://campusasia6.education.tsukuba.ac.jp/

１．取組内容の進捗状況 【（1）と（2）で１ページ以内、（3）～（5）で２ページ以内】

本事業における2023年度の取組内容について記入してください。

（1）取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望

①交流プログラムの内容

2023年度は3つの交流プログラム（A教育学コア、B環境科学コア、C物質材料科学コア）が実施された。派遣先やプログラムが異なる学生同士の交流機会が限定される傾向にあることが継続的課題であったが、第２ステージでこれを解決するためのStudent Exchange Meeting (SEM)がオンライン開催され、多様なメンバーで構成された小グループでの異なる国・専門分野における地球規模課題の解決についての会議運営と発表を通じて、学生の交流を培う場としてのフレームワークが形成された。第３ステージでは国際学生カンファレンスが開催されオンライン国際会議の協働運営へと繋ぐことが出来た。今後の展望として、これらの協働経験の蓄積が今後の国際ネットワーク形成の基礎作りの一因となることを想定している。

【特に優れた取組】

Student Exchange Meeting (SEM)ではオンラインならではの利点を活かし、国籍・派遣先・専門分野の異なる学生同士が様々な垣根を越えてチームワーク力を駆使して互いの派遣先でのフィールドワーク経験を共有し、アジア各国で生起する地球規模課題に関する幅広い知見を得ることが出来た。この取組は本プログラムのパートナー校からも高評価を得ている。

②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成

本学では、５段階評価のルーブリックに基づく評価体制（モニタリング、プログラム・レビュー）がすでに構築され、質保証サイクルを展開している。本学の各教育組織は学位プログラム単位で毎年のモニタリング、数年単位でのプログラム・レビューを受けており、これらの学位プログラムは、本事業で得られた成果や課題をグッドプラクティスとして挙げ、教学マネジメント室による評価を受けている。

【特に優れた取組】

令和5年度の学位プログラムのモニタリングにおいて「人材養成目的、教育課程の体系性の確保、外国語能力の向上に向けた取組」の3評価項目において本事業がグッドプラクティスとして取り上げられた。

③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

【受入】①学内宿舎の手配 ②チューターの配置 ③オリエンテーションやフィールドワークを通じた日本人学生との交流機会の拡大 ④留学生の個別相談を可能とする環境の整備

【派遣】①募集説明会では生活面・学習面など昨年度の派遣学生の体験談等具体的な情報を提供 ②派遣前オリエンテーションの実施 ③安全管理の推進 ④派遣先大学での宿舎及び手厚いサポートの提供 ⑤本学教育組織の財源による渡航費支援

【特に優れた取組】

受入学生の来日直後に受入・派遣学生・チューター・プログラム担当教職員合同参加のバスオリエンテーションを開催し、安全安心で効果的な留学生活をスタートさせるための情報交換の場として非常に有効な対面交流の機会となっ

④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

専用のウェブサイト（多言語翻訳付）により本事業の具体的なプログラム内容や事業の活動状況の掲載を学内外へ発信し、事業の成果を周知し、学際的・国際的な協働を普及させた。第３ステージでは国際学生カンファレンスを開催し参加学生に加え、各大学の学生、教職員も参加し２日間で228件ものアクセスがあった。

【特に優れた取組】

国際学生カンファレンスでは、個々の学生が会議運営に積極的に取り組み、自国においてもカンファレンスの普及・広報に努めた。学生同士のネットワークも駆使し能動的に一般参加者への広報も行った。

（2）特記すべき成果

交流ネットワーク形成を通じ、地球規模課題の多面的理解を促す目的として、実渡航先での経験に加えてSEMと国際学生カンファレンスを統合した体系的・学際的な学習機会の提供を行った。SEMで構築した国際協働性、学際性、フィールドワークの３つの要素を含む学生同士の相互交流をもとに実施されるプログラムの集大成である国際学生カンファレンスは、それぞれの専門分野の垣根を越えて多角的な視点から地球規模課題に取り組むアプローチや成果を学び合う機会であり、複雑性・多様性を理解するとともに、学生主体で企画・運営を行うことでマネジメント能力やリーダーシップの育成につながった。日本のみならず、韓国、タイにおいて第1期生の中から本プログラムの発展のために運営に自発的に関わってサポートをしたり、進学・研究・出張で派遣先を再訪する学生もおり当事業の裾野の広がりが見られた。

（3）オンラインを活用した工夫・改善点

1）本事業のパートナー校とのオンライン会議を適宜行い、情報交換、意見交換に努めた。

2）必修の共通科目２科目をオンデマンド配信の形態とすることで、派遣前に自国での履修を可能にしている。また実渡航前に第１ステージで地球規模課題に即したテーマを学ぶことで、学生自身の研究テーマを選択する動議付けにも寄与している。

3)　本プログラム第２ステージの一環としてオンラインで行ったSEMでは、ブレイクアウトルームを利用し、滞在先・分野の異なる3～４名の小グループにおけるそれぞれの滞在先での地球規模課題に関するディスカッションを行い、その後全体で発表を行うなど、オンラインの強みを活かした運営を行った。各グループでは担当者（司会者、発表者、記録係、メイン会場におけるサマリー発表者）を決め、計４回のSEMで毎回役割を変えたことでオンライン会議の運営スキルおよび英語コミュニケーション力の向上にもつながった。また、当初の計画であった3ヶ国渡航から基本1ヶ国3ヶ月滞在をベースにしたプログラムへと運用を変更し、フィールドワークの機会の縮小が懸念事項であったが、SEMによるフィールドワークの共有により想定していた３ヶ国以上の情報を得るなど補完となっている点で効果的である。

4）2024年度は第１ステージの共通科目２科目について、オンライン受講者を増やす準備を進めている(2024年５月開催の６大学Joint Steering Committeeにおいて、具体的な方策が決定された）。

２．交流学生数の実績等 【（１）で６ページ以内、（２）（３）で１ページ】

（１）交流する学生数について

①プログラム全体の派遣・受入交流学生数(計画)

●申請時の計画調書記載人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	20	20	45	45	50	50	50	50	50	50	215	215
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	20	20	25	25	30	30	30	30	30	30	135	135
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	20	20	20	20	20	20	20	20	80	80

●海外相手大学追加調書分

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

●合計人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	20	20	45	45	50	50	50	50	50	50	215	215
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	20	20	25	25	30	30	30	30	30	30	135	135
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	20	20	20	20	20	20	20	20	80	80

②プログラム全体の派遣・受入交流学生数（実績）

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	6	21	13	36	0	0	0	0
実際に渡航した学生（以下「実渡航」）	0	0	0	0	0	0				
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講した学生（以下「オンライン」）	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
	B 0	B 0	B 1	B 5	B 6	B 13	B	B	B	B
実渡航とオンライン受講を行った学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	5	16	7	23				
達成目標に対する実績の割合	0%	0%	13%	47%	26%	72%	0%	0%	0%	0%

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

③：【三カ国共通の財政支援の有無及び交流相手国・地域別　内訳】（計画）

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
三カ国共通の財政支援対象となる交流学生数		0	0	10	20	10	20	10	20	10	20	40	80
交流相手国 中国	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
交流相手国 韓国	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
交流相手国 ASEAN	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
交流相手国 中国及び韓国	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
交流相手国 中国及びASEAN	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
交流相手国 韓国及びASEAN	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
交流相手国 中国、韓国及びASEAN	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	10	20	10	20	10	20	10	20	40	80
自己負担又は大学負担等による交流学生数		20	20	35	25	40	30	40	30	40	30	175	135
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	100	100
	ハイブリッド	0	0	15	5	20	10	20	10	20	10	75	35

④：【三カ国共通の財政支援の有無及び交流相手国・地域別　内訳】（実績）

			2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
三カ国共通の財政支援対象となる交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
交流相手国 中国	実渡航		0	0	0	0	0	0					0	0
	オンライン	A	0	0	0	0	0	0					0	0
		B	0	0	0	0	0	0					0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0					0	0
交流相手国 韓国	実渡航		0	0	0	0	0	0					0	0
	オンライン	A	0	0	0	0	0	0					0	0
		B	0	0	0	0	0	0					0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0					0	0
交流相手国 ASEAN	実渡航		0	0	0	0	0	0					0	0
	オンライン	A	0	0	0	0	0	0					0	0
		B	0	0	0	0	0	0					0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0					0	0
交流相手国 中国及び韓国	実渡航		0	0	0	0	0	0					0	0
	オンライン	A	0	0	0	0	0	0					0	0
		B	0	0	0	0	0	0					0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0					0	0
交流相手国 中国及びASEAN	実渡航		0	0	0	0	0	0					0	0
	オンライン	A	0	0	0	0	0	0					0	0
		B	0	0	0	0	0	0					0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0					0	0
交流相手国 韓国及びASEAN	実渡航		0	0	0	0	0	0					0	0
	オンライン	A	0	0	0	0	0	0					0	0
		B	0	0	0	0	0	0					0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0					0	0
交流相手国 中国、韓国及び ASEAN	実渡航		0	0	0	0	0	0					0	0
	オンライン	A	0	0	0	0	0	0					0	0
		B	0	0	0	0	0	0					0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0					0	0
自己負担又は大学負担等による交流学生数			0	0	6	21	13	36	0	0	0	0	19	57
	実渡航		0	0	0	0	0	0					0	0
	オンライン	A	0	0	0	0	0	0					0	0
		B	0	0	1	5	6	13					7	18
	ハイブリッド		0	0	5	16	7	23					12	39

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑤：【交流形態別　内訳】（計画）

●申請時の計画調書記載人数

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	20	20	20	20	20	20	20	20
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	20	20	20	20	20	20	20	20
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数		20	20	25	25	30	30	30	30	30	30
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	20	20	25	25	30	30	30	30	30	30
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

●海外相手大学追加調書分

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0		0	0	0	0	0	0	0
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

●合計

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	20	20	20	20	20	20	20	20
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	20	20	20	20	20	20	20	20
		20	20	25	25	30	30	30	30	30	30
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	20	20	25	25	30	30	30	30	30	30
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

⑥：【交流形態別　内訳】（実績）

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0				
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A	A
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0				
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0				
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0				
		0	0	5	16	7	23	0	0	0	0
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0				
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0	5	16	7	23				
		0	0	1	5	6	13	0	0	0	0
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0				
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
		B 0	B 0	B 1	B 5	B 6	B 13	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0				
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0				
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0				
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0				
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0				

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑦：宿舎の提供について（実績）

宿舎（大学所有の宿舎、大学借り上げによる宿舎等）を提供した学生数	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	5	16	7	23					12	39

⑧ 同窓会ネットワークへの参加者数について(実績)　※タイプA①・タイプA②のみ

第２モードまでの間に準備を進めてきた同窓会ネットワークへの参加者数について	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	合計
						0

⑨：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

第２期生として2023年度は７名を海外に派遣した。内訳は、プログラムA（教育学コア）で４名、プログラムB（環境科学コア）で２名、プログラムC（物資・材料学コア）で１名である。第１ステージでは日本にてオンデマンドでオンライン２科目を学修し、第２ステージではそれぞれの派遣先（中国、韓国、タイ、マレーシア）で国際的視野を広げ、またその間 オンラインで開催した４回のStudent Exchange Meeting (SEM)において研究分野、派遣元、派遣先が異なる学生たちがグループを形成し、交流を深めた。帰国後の第３ステージでは、国際学生カンファレンスをオンラインで開催し、学生主体で運営を行い、プログラムの集大成として地球規模課題の解決に資する発表を行った。

【特に優れた取組】
2023年度は筑波大学としてはじめてプログラムBに参加があり、ABCすべてのプログラムが稼働したことで、全体を通じて国際協働性、学際性の深まりが可能となった。今年度より実渡航先は原則１ヶ国3ヶ月滞在に変更したが、SEMの実施によりオンライン上で他国のフィールドワークの内容が共有されたことで、学修の経験値をあげることができた。その後の第３ステージでの国際学生カンファレンスにおいて、SEMからの流れを活かし、対面交流の機会が得られない学生同士も交流を深めつつ、自らの専門分野を超えた多角的な視点から学生自身が設定した地球規模課題の要因をとらえ、その多様性・複雑性に対する理解を深めることができた。

⑩：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

協定校から、プログラムAで16名、プログラムBで２名、プログラムＣで５名、計23名が参加した。受入でもプログラムＢの参加は初めてである。
プログラムAではつくば市教育委員会、国立教育政策研究所、小学校訪問等、様々な社会環境でのフィールドワークを行った。プログラムBでは環境学に関する専門的教養を深めるとともに、特別演習ではシナリオデザインを通じて特定にモデリング演習を行った。プログラムCでは学生を数理物質系の５研究室に配属し、分子の自己組織化や発行、スピントロニクス、バイオ燃料電池、触媒、太陽電池に関する研究を行った。派遣学生同様、SEM及び国際学生カンファレンスを通じ、各自のフィールドワーク経験を共有し、グローバルな課題に取り組むアプローチや成果を学際的に学び合うことでアジア地域における地球規模課題の要因を多面的に理解することができた。

【特に優れた取組】
受入においてもABCすべてのプログラムが稼働したことで、全体を通じて国際協働性、学際性の深まりが可能となった。オリエンテーションやバスツアーなどのフィールドワークで、派遣前の日本人学生との交流の機会を設けたり、音楽イベントを開催し、留学生同士や教職員との交流を行った。

（２）　その他（上記（１）に該当するもの以外）

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
2022年11月	**The 8th Southeast Asia Collaborative Symposium**	**80** 人
		人
		人
		人

（３）　任意指標　※タイプA②・タイプB②のみ

①　本事業で設定している任意指標

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
（指標1）					
（指標2）					
（指標3）					
（指標4）					
（指標5）					

②　2023年度末における目標の達成状況

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
（指標1）					
（指標2）					
（指標3）					
（指標4）					
（指標5）					

③　進捗状況のコメント

【特に優れた取組】

（４）本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

（ｉ）単位互換を実施する海外相手大学数【計画】　（単位：校）

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
単位互換を実施する海外相手大学数	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	5	5	5	5	5	5	5	5

（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【計画】　（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学　【大学名：筑波大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
華東師範大学	認定者数	0	20	20	20	20
	認定単位数	0	20	20	20	20
韓国教員大学校	認定者数	0	20	20	20	20
	認定単位数	0	20	20	20	20
コンケン大学	認定者数	0	6	6	6	6
	認定単位数	0	6	6	6	6
マレーシア工科大学	認定者数	0	7	7	7	7
	認定単位数	0	7	7	7	7
バンドン工科大学	認定者数	0	7	7	7	7
	認定単位数	0	7	7	7	7
年度別認定者数合計		0	60	60	60	60
年度別認定単位合計		0	60	60	60	60

2. 国内連携大学　【大学名：　　大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位合計		0	0	0	0	0

【2023年度末における目標の達成状況】

（ｉ）単位互換を実施した海外相手大学数【実績】　（単位：校）

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
単位互換を実施した海外相手大学数	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	4	4	4	5				

（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【実績】　（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

（ｉ）代表申請大学　【大学名：筑波大学】

		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
華東師範大学	認定者数	0	0	2		
	認定単位数	0	0	7		
韓国教員大学校	認定者数	0	4	1		
	認定単位数	0	7	2		
コンケン大学	認定者数	0	3	2		
	認定単位数	0	6	8		
マレーシア工科大学	認定者数	0	0	2		
	認定単位数	0	0	0		
バンドン工科大学	認定者数	0	1	0		
	認定単位数	0	2	0		
年度別認定者数合計		0	8	7	0	0
年度別認定単位合計		0	15	17	0	0

2. 国内連携大学　【大学名：　　大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位合計		0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和３年度採択）
令和６年度フォローアップ調査票

大学名 （〇が代表大学）	山梨大学			
タイプ	タイプB①	※プルダウンから、タイプを選択してください。		
事業名	【和文】	A^{3}I：アジア実問題解決駆動AI教育プログラム		
	【英文】	A^{3}I： Real Problem Solving Driven Artificial Intelligence Education Program (A^{3}I is the abbreviation of Asia Applied Artificial Intelligence)		
事業責任者 ※交替年月日は変更があった場合のみ記入	（氏　名）	茅　暁陽	（所属・職名）	理事・副学長
	（交替年月日）			

海外相手大学追加調書分 相手大学名 ※追加調書を提出した大学のみ記入		大学名		国名
		（日本語表記）	（英語表記）	
	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL ※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用
https://a3i.yamanashi.ac.jp/

１．取組内容の進捗状況 【（1）と（2）で1ページ以内、（3）～（5）で2ページ以内】

本事業における2023年度の取組内容について記入してください。

（1）取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望

①交流プログラムの内容

ショートプログラムでは8月17日―31日の日程で山梨大学の短期プログラム受入れを行い、各国の各大学から学生を受入18名の学生が参加し、日本文化体験と本学のAI研究についての講義を行った。8月に中国・杭州電子科技大学（8月6 - 16日）、韓国・釜慶大学校（8月7 - 17日）にて、2月にマレーシア・ペルリス大学(2月17 - 29日)にて短期プログラムが開催され、それぞれ4名、9名、13名の計26名の山梨大学学生を派遣した。サマースクールは8月６日-１８日の日程で中国・杭州電子科技大学にて開催され、本学から５名の参加者を派遣し、プログラミング・AIの基礎知識を修得する講義等のプログラムに参加した。中長期留学では山梨大学から韓国へ２名、中国へ2名、マレーシア1名の計5名の派遣を行った。受入として韓国1名、マレーシア3名、中国5名の受入を行った。各大学の研究者間の交流を活発に行い、デュアルディグリープログラム学生の共同指導を通して新たな研究の知見を得て、共同研究のためのディスカッションを行った。また本学から中国へ教員を派遣し、研究のディスカッションを行った。オンラインコースとして２月にflipped classroomの授業を開講した。このコースの履修により修得した単位を各大学において認定する制度を整え、参加学生は本学の特別聴講学生として単位の付与を行った。昨年度の評価委員会の評価に基づき、Alumni Association構築を行った。また、インターンシップについても検討を行い、デュアルディグリープログラム受入時に企業訪問等の機会を提供した。その他、本プログラムについて外部評価員評価を行い、本プログラムの実施状況と今後の方向性について意見を頂いた。今後、Alumni associationの拡大、日本以外の各国同士の交流の活発化、オンラインコースの各国各大学への拡大と受講者数の拡大、学生のコンピテンシーの指標の作成等、また今後の自走に向けての実施体制についてなど検討を行っていく。

【特に優れた取組】

各プログラムでは学生プログラムが各国で活発に行われたこと、中長期留学の学生にホスト大学にてインターンシップの機会を提供できた。派遣受入学生においてデュアルディグリー取得者を5名輩出することができた。

②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成

学生は短期プログラムやサマースクール、オンラインコースなどの学生交流プログラムを通して、AI技術の習得や異文化体験、国際コミュニケーション能力の向上を図っている。各プログラムの質の保証のため、各プログラム終了後に参加学生へのアンケート調査を実施し、プログラムの評価や学生の能力向上について把握している。また、外部評価委員会を開催し、プログラム全体の評価を受けることで、PDCAサイクルを実践し、質の高い大学間学生交流プログラムを提供できるようなシステムを構築した。教員間の交流や共同研究の推進により、各大学の学生の国際交流および研究環境がさらに充実することとなった。

【特に優れた取組】

参加学生のアンケート調査、外部評価委員会での評価を受け、運営委員会内にて検証を行いプログラムに活かすPDCAサイクルを行っている。flipped classroomの授業を開講し、山梨大学での受入について規程を整備し、他大学学生を特別聴講学生として受入れ本学での単位付与と証明書の発行を可能にした。

③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

本事業専任のスタッフが、外国人留学生の受入れ支援として、ビザ申請等を行い、本学留学のためのサポートを行っている。また日本人学生の海外派遣支援として、留学先でのビザ申請や危機管理等のサポートを行っている。またグローバル共創学習室（G-フィロス）にて、留学生と日本人学生が交流できる場を提供することで、派遣、受入学生の多文化共生の環境づくりを推進している。英語学習アドバイザーをグローバル共創学習室に配置し、本学学生の英語力向上をサポートしている。

【特に優れた取組】

グローバル共創学習室（G-フィロス）を整備し、留学生と日本人学生が交流できる場を提供することで、多文化共生の環境づくりを推進している。また、英語学習アドバイザーをグローバル共創学習室に配置し、本学学生の英語力向上のため、英会話や英語学習方法をサポートする体制を整えている。

④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

大学の国際化の取組として、英語にて授業を行う全学共通教育科目2科目を開講し、大学の国際化を促進している。A3Iウェブサイトを通じて、日本語と英語の2言語で事業に関する情報を頻繁に更新し、広く一般に情報を発信している。また、2023年中に4大学全てがそれぞれA3Iウェブサイトを開設し、定期的に更新を行っている。これらのウェブサイトでは、日本語、英語、中国語、韓国語の多言語で情報発信することで、事業の成果を広く世界に発信し、関連大学の国際的な注目度向上にもつなげている。さらに、共同研究のパブリケーション等を通じて事業の成果を世界へ発信している。

【特に優れた取組】

2022年に英語による2つの共通科目の開講、また英語の堪能な職員を学内各所に配置している。またプログラムのホームページ、パンフレットを作成し、広く学内外へ広報、発信すると共に学生への広報活動を行った。

（2）特記すべき成果

2023年3月、山梨大学から釜慶大学校へ派遣された3名の修士課程の学生が、デュアルディグリープログラムを通して、釜慶大学校の修士号を取得した。これは、山梨大学の学生が本プログラムを通してデュアルディグリーを取得した初めての事例である。また、受入学生も山梨大学とホーム大学の学位を取得しており、2023年度は合計の学生がデュアルディグリープログラムにて学位を取得することができた。

（3）オンラインを活用した工夫・改善点

各国との運営委員会、打ち合わせ、また各国の委員が参加する外部評価委員会など積極的にオンラインで開催した。セッティングが簡単にできるため、ディスカッションが必要な案件などにおいて各国との連絡をオンラインを通して密に行うことが出来た。またオンラインの授業についても各国学生が受講しやすい環境を整えることが出来た。今後さらにオンライン授業については山梨大学だけでなく他大学の授業を本学学生が受講できるよう、科目数等を増やしていく。また時差等も考慮し、オンデマンドの授業も設定していく。

２．交流学生数の実績等 【（１）で６ページ以内、（２）（３）で１ページ】

（１）交流する学生数について

①プログラム全体の派遣・受入交流学生数(計画)

●申請時の計画調書記載人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	15	45	30	69	35	52	40	55	45	57	165	278
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	0	0	20	24	20	22	25	25	25	27	90	98
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	15	45	10	30	10	30	10	30	10	30	55	165
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	0	15	5	0	5	0	10	0	20	15

●海外相手大学追加調書分

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）											0	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）											0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）											0	0

●合計人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	15	45	30	69	35	52	40	55	45	57	165	278
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	0	0	20	24	20	22	25	25	25	27	90	98
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	15	45	10	30	10	30	10	30	10	30	55	165
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	0	15	5	0	5	0	10	0	20	15

②プログラム全体の派遣・受入交流学生数（実績）

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	41	112	15	98	46	36	0	0	0	0
実際に渡航した学生（以下「実渡航」）	0	0	0	60	31	27				
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講した学生（以下「オンライン」）	A 0	A 0	A 9	A 28	A 0	A 0	A	A	A	A
	B 41	B 112	B 2	B 8	B 7	B 9	B	B	B	B
実渡航とオンライン受講を行った学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	4	2	8	0				
達成目標に対する実績の割合	273%	249%	50%	142%	131%	69%	0%	0%	0%	0%

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

③：【三カ国共通の財政支援の有無及び交流相手国・地域別　内訳】（計画）

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
三カ国共通の財政支援対象となる交流学生数		15	45	18	64	27	47	24	50	20	52	104	258
交流相手国 中国	実渡航	0	0	2	4	2	2	2	4	1	6	7	16
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	5	4	0	0	0	0	0	4	5
交流相手国 韓国	実渡航	0	0	1	3	2	3	2	4	1	4	6	14
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	5	0	0	3	0	0	0	3	5
交流相手国 ASEAN	実渡航	0	0	0	2	0	2	0	2	1	2	1	8
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	5	0	0	0	0	2	0	2	5
交流相手国 中国及び韓国	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
交流相手国 中国及びASEAN	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
交流相手国 韓国及びASEAN	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
交流相手国 中国、韓国及びASEAN	実渡航	0	0	5	10	9	10	7	10	5	10	26	40
	オンライン	15	45	10	30	10	30	10	30	10	30	55	165
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自己負担又は大学負担等による交流学生数		0	0	12	5	8	5	16	5	25	5	61	20
	実渡航	0	0	12	5	8	5	16	5	25	5	61	20
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

④：【三カ国共通の財政支援の有無及び交流相手国・地域別　内訳】（実績）

			2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
三カ国共通の財政支援対象となる交流学生数			41	112	15	98	46	36	0	0	0	0	102	246
交流相手国 中国	実渡航		0	0	0	10	9	10					9	20
	オンライン	A	0	0	0	0	0	0					0	0
		B	0	0	0	0	0	0					0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	2	0					2	0
交流相手国 韓国	実渡航		0	0	0	7	9	6					9	13
	オンライン	A	0	0	0	0	0	0					0	0
		B	0	0	0	0	0	0					0	0
	ハイブリッド		0	0	3	2	5	0					8	2
交流相手国 ASEAN	実渡航		0	0	0	43	13	11					13	54
	オンライン	A	0	0	0	0	0	0					0	0
		B	0	0	0	0	0	0					0	0
	ハイブリッド		0	0	1	0	1	0					2	0
交流相手国 中国及び韓国	実渡航		0	0	0	0	0	0					0	0
	オンライン	A	0	0	0	0	0	0					0	0
		B	0	0	0	0	0	0					0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0					0	0
交流相手国 中国及びASEAN	実渡航		0	0	0	0	0	0					0	0
	オンライン	A	0	0	0	0	0	0					0	0
		B	0	0	0	0	0	0					0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0					0	0
交流相手国 韓国及びASEAN	実渡航		0	0	0	0	0	0					0	0
	オンライン	A	0	0	0	0	0	0					0	0
		B	0	0	0	0	0	0					0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0					0	0
交流相手国 中国、韓国及びASEAN	実渡航		0	0	0	0	0	0					0	0
	オンライン	A	0	0	9	28	0	0					9	28
		B	41	112	2	8	7	9					50	129
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0					0	0
自己負担又は大学負担等による交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航		0	0	0	0	0	0					0	0
	オンライン	A	0	0	0	0	0	0					0	0
		B	0	0	0	0	0	0					0	0
	ハイブリッド		0	0	0	0	0	0					0	0

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑤：【交流形態別　内訳】（計画）

●申請時の計画調書記載人数

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数		0	0	15	30	20	15	20	15	25	15
	実渡航	0	0	15	15	15	15	15	15	15	15
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	15	5	0	5	0	10	0
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数		15	45	15	39	15	37	20	40	20	42
	実渡航	0	0	5	9	5	7	10	10	10	12
	オンライン	15	45	10	30	10	30	10	30	10	30
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

●海外相手大学追加調書分

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										
⑤単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										

●合計

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数		0	0	15	30	20	15	20	15	25	15
	実渡航	0	0	15	15	15	15	15	15	15	15
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	15	5	0	5	0	10	0
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数		15	45	15	39	15	37	20	40	20	42
	実渡航	0	0	5	9	5	7	10	10	10	12
	オンライン	15	45	10	30	10	30	10	30	10	30
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

⑥：【交流形態別　内訳】（実績）

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
		0	0	2	25	38	9	0	0	0	0
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	17	31	0				
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
		B 0	B 0	B 2	B 8	B 7	B 9	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0				
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0				
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0				
		0	0	4	9	7	9	0	0	0	0
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	7		9				
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0	4	2	7	0				
		41	112	9	64	0	18	0	0	0	0
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	36	0	18				
	オンライン	A 0	A 0	A 9	A 28	A 0	A 0	A	A	A	A
		B 41	B 112	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0				
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0				
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0				
		0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0				
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0	0	0	1	0				

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑦：宿舎の提供について（実績）

宿舎（大学所有の宿舎、大学借り上げによる宿舎等）を提供した学生数	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	4	62	5	27					9	89

⑧ 同窓会ネットワークへの参加者数について(実績)　※タイプA①・タイプA②のみ

第２モードまでの間に準備を進めてきた同窓会ネットワークへの参加者数について	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	合計
						0

⑨：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

今年度は全面的に新型コロナウィルス感染症の影響が無くなり、各国へ派遣が可能となったことでプログラムに全面的に学生を派遣することが出来ている。短期プログラムでは、8月に中国・杭州電子科技大学へ４名（8月6 - 16日）、サマースクール5名（8月6 - 16日）、韓国・釜慶大学校へ9名（8月7 - 17日）、2月にマレーシア・ペルリス大学へ13名(2月17 - 29日)の計３１名の山梨大学学生が参加した。また2023年は中長期留学としては、韓国へ2名（8月-12月）、中国へ2名（9月-1月）、マレーシアへ1名(12月―3月）、の計5名を派遣した。またオンラインコースにて10名の学生が参加しこのように、山梨大学は中国、韓国、マレーシアの3か国の協定校へ多くの日本人学生を派遣し、AI分野の知識習得や異文化体験の機会を提供することが出来た。また023年3月には2022年度に韓国・釜慶大学校へ派遣を行った学生3名がデュアルディグリープログラムを終了し、山梨大学から初の学位取得者を輩出することが出来た。各国との交流は滞りなく行われており、2024年度マレーシア・ペルリス大学との修士デュアルディグリープログラム協定締結が済んだため、さらに学生間交流を活発に行う事が出来る。

【特に優れた取組】
2023年は中長期留学としては、韓国へ2名（8月-12月）、中国へ2名（9月-1月）、マレーシアへ1名(12月―3月）、の計5名を派遣した。また023年3月には2022年度に韓国・釜慶大学校へ派遣を行った学生3名がデュアルディグリープログラムを終了し、山梨大学から初の学位取得者を輩出することが出来た。

⑩：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

今年度ショートプログラムでは8月17日―31日の日程で山梨大学の短期プログラム受入れを行い、各国の各大学から学生を受入18名の学生が参加し、日本文化体験と本学のAI研究についての講義を行った。また中長期留学では山梨大学から受入として韓国1名、マレーシア3名、中国5名の受入を行った。山梨大学がオンラインコースとして２月にflipped classroomの授業を開講した。このコースの履修により修得した単位を各大学において認定する制度を整え、参加学生は本学の特別聴講学生として単位の付与を行った。

【特に優れた取組】
山梨大学がオンラインコースとして２月にflipped classroomの授業を開講した。このコースの履修により修得した単位を各大学において認定する制度を整え、参加学生は本学の特別聴講学生として単位の付与を行った。
受入学生についても、韓国・釜慶大学校から2022年度に受入を行っていた2名の学生が山梨大学、釜慶大学校の２つの学位を取得することが出来た。

（２）　その他（上記（１）に該当するもの以外）

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
		人
		人
		人
		人

（３）　任意指標　※タイプA②・タイプB②のみ

①　本事業で設定している任意指標

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
（指標1）					
（指標2）					
（指標3）					
（指標4）					
（指標5）					

②　2023年度末における目標の達成状況

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
（指標1）					
（指標2）					
（指標3）					
（指標4）					
（指標5）					

③　進捗状況のコメント

【特に優れた取組】

（4）本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

（ｉ）単位互換を実施する海外相手大学数【計画】　（単位：校）

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
単位互換を実施する海外相手大学数	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3

（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【計画】　（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学　【大学名：　山梨大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
杭州電子技術大学	認定者数	0	2	2	4	4
	認定単位数	0	32	32	64	64
釜慶大学校	認定者数	0		2	4	4
	認定単位数	0	32	32	64	64
ペルリス大学	認定者数	0	1	1	2	2
	認定単位数	0	16	16	32	32
年度別認定者数合計		0	3	5	10	10
年度別認定単位合計		0	80	80	160	160

2. 国内連携大学　【大学名：　　大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位合計		0	0	0	0	0

【2023年度末における目標の達成状況】

（ｉ）単位互換を実施した海外相手大学数【実績】　（単位：校）

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
単位互換を実施した海外相手大学数	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	1	3	2	3				

（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【実績】　（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

（ｉ）代表申請大学　【大学名：　山梨大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
杭州電子科技大学	認定者数	0	0	2		
	認定単位数	0	0	32		
釜慶大学校	認定者数	0	3	2		
	認定単位数	0	18	12		
ペルリス大学	認定者数	0	0	0		
	認定単位数	0	0	0		
年度別認定者数合計		0	3	4	0	0
年度別認定単位合計		0	18	44	0	0

2. 国内連携大学　【大学名：　　大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位合計		0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和３年度採択）
令和６年度フォローアップ調査票

大学名 （○が代表大学）	名古屋大学			
タイプ	タイプB①	※プルダウンから、タイプを選択してください。		
事業名	【和文】	アジア諸国における炭素ゼロナイゼーションのための人材育成		
	【英文】	Fostering Humans Resources for C-Zeroization in Asia Countries		
事業責任者 ※交替年月日は変更があった場合のみ記入	（氏　名）	小橋　眞	（所属・職名）	工学研究科・研究科長
	（交替年月日）	令和6年4月1日		

海外相手大学追加調書分 相手大学名 ※追加調書を提出した大学のみ記入		大学名		国名
		（日本語表記）	（英語表記）	
	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL ※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用
https://www.sustainable.material.nagoya-u.ac.jp/casia.html

１．取組内容の進捗状況【（1）と（2）で1ページ以内、（3）～（5）で2ページ以内】

本事業における2023年度の取組内容について記入してください。

（1）取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望

①交流プログラムの内容

2023年度は，毎年度開催されているシンポジウムに加えて本学を中心とした連携校がオンラインで参画する授業の開講ならびにタイのチュラロンコン大学，韓国海洋科学大学校からの学生の派遣・受入に加え，中国の上海交通大学について現地への学生派遣を実施した。その中で，学生への周知の深度に伴う希望者の増加が見えた年度でもあり，学生の派遣については年度の早い段階での学生周知の機会を設けると共に，提携校からの受け入れについては，今後受け入れに必要な学内の手続きを本プログラムに沿って効率的に行う必要があると思われる。

【特に優れた取組】

2023年度に開講したオンラインの講義では，さまざまな分野の専門家に講義を担当していただいたこともあり，特に海外の提携校での学生には評価の高い授業になったことが分かった。さらに，学生の派遣・受入についても提携校全体で実渡航の派遣・受入が達成され，学生への認知度も高まってきた。

②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成

特に今年度に開講した講義については，質の保証を維持するために，学生にとっては授業を受けるだけの機会が与えられたのではなく，その場での議論の時間を確保するようにした。具体的には，講義そのものは60分程度に留め，残りをオンラインで参加した海外からの学生も交えて英語での議論の時間に充てた。また，それを受けての課題に取り組むルールを作り，授業内容に対するフィードバックをかけるようにした。

【特に優れた取組】

連携校の学生もオンラインで参加した講義について，関連する分野の専門家による講義を60分を目安に留め，残りの時間を学生のディスカッションの時間に充てた。その中で，各国のルールの違いから，必ずしも一つの方法では取り組みができないことを実感できたと同時に，授業後の課題でフィードバックを実施した。

③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

外国人学生の受入については，チューター制度を活用して学生をサポーターとして採用することで支援体制を敷いた。また，派遣・受入については相談窓口を設けることで学生が気軽に相談できる環境を作り，またその窓口の担当教員から直接学内での派遣・受入に関する海外への附議・審議が行える体制作りを整えた。これにより，これまで以上に円滑に手続きが進められるようになり，さらには効率化が図られたことで，より多くの学生に参画してもらえる状態にできた。

【特に優れた取組】

外国人学生の受入には本学学生のチューター制度を導入して，日々の生活や大学の授業・研究活動に関するサポート体制を整備した。また，本学での受入・提携校の派遣については相談窓口と学内手続きを一本化することで手続きの効率化を図ることができた。それにより，より多くの学生への支援ができるようになった。

④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

毎年度開催のシンポジウムに加えて，提携校でも本プロジェクトの紹介や活用に基づいた広報・宣伝を展開していただいている。また，本事業に関連して本学で設置したチュラロンコン大学とのジョイントディグリープログラムへの入学者数も順調に増えてきているなど，学生への本プロジェクトの内容の理解だけでなく積極的に参加したいという意思をもってもらえるような情報公開の成果があった。また，連携校が参加することから全て英語の授業を設置し，さらに学生のディスカッションも英語で行う機会を設けたことで，より具体的なプログラム内容を学生に知ってもらう機会が増えた。

【特に優れた取組】

本学だけでなく提携校でも本プログラムを広く知ってもらうきっかけが増え，その成果として海外からの受入も増えた。さらに，本学内で開講した講義においても，授業と議論を英語に特化したことから学生に広く本プログラムの主旨をより具体的に知ってもらう機会が増えた。それにより，参加希望者も増えた。

（2）特記すべき成果

2023年度には，特に例年開催されていたシンポジウムに加えて，連携校が同時にオンラインで参加することで受講可能な講義を開講できた。さらに，その授業担当には各関連分野の専門の先生が60分の講義をし，その残りは参加した学生が一同にオンラインで議論をする機会を持てたことが大きな成果だった。それにより，各国でのカーボンゼロ社会実現に向けた取り組みが生の声として共有でき，さらに各国のルールに基づいた独自の対策を参加した学生が同時に知って議論の対象にできたことが，将来のボーダーレスなカーボンゼロ社会実現に向けた取り組みの先駆けとなる成果になったと思われる。

（3）オンラインを活用した工夫・改善点

オンラインでは，各国の学生が一同に集まって授業を受けることができる利点があり，さらに学生にとっては今後本格的に各国への派遣もしくは提携校からの受入に対して，その手前段階での様子見をすることができる機会となった。さらに，実渡航を伴う派遣・受入プログラムにおいてはその延長上のアクションとなることから，これまで以上に高い目的意識を持った学生が多く参画してくれるようになった。その狙いもあり，開講のタイミングなどを各大学のカリキュラムに合わせるよう時期を選んだ。今後は，学生が授業中に気軽に意見を述べると同時に，後半の議論の場で反映されるような質問・回答のシステム化を図りたい。

２．交流学生数の実績等 【（１）で６ページ以内、（２）（３）で１ページ】

（１）交流する学生数について

①プログラム全体の派遣・受入交流学生数(計画)

●申請時の計画調書記載人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	22	66	32	126	42	156	52	156	52	156	200	660
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	2	6	2	6	2	6	2	6	2	6	10	30
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	20	60	25	105	35	135	45	135	45	135	170	570
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	5	15	5	15	5	15	5	15	20	60

●海外相手大学追加調書分

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）											0	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）											0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）											0	0

●合計人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	22	66	32	126	42	156	52	156	52	156	200	660
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	2	6	2	6	2	6	2	6	2	6	10	30
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	20	60	25	105	35	135	45	135	45	135	170	570
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	5	15	5	15	5	15	5	15	20	60

②プログラム全体の派遣・受入交流学生数（実績）

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	25	45	116	60	85	270	0	0	0	0
実際に渡航した学生（以下「実渡航」）	0	0	19	0	5	30				
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講した学生（以下「オンライン」）	A 25	A 45	A 0	A 60	A 0	A 0	A	A	A	A
	B 0	B 0	B 97	B 0	B 80	B 240	B	B	B	B
実渡航とオンライン受講を行った学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	0	0	0	0				
達成目標に対する実績の割合	114%	68%	363%	48%	202%	173%	0%	0%	0%	0%

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

③：【三カ国共通の財政支援の有無及び交流相手国・地域別　内訳】（計画）

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
三カ国共通の財政支援対象となる交流学生数		22	66	32	126	42	156	52	156	52	156	200	660
交流相手国 中国	実渡航	1	2	1	2	1	2	1	2	0	2	4	10
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
交流相手国 韓国	実渡航	0	2	1	2	0	2	1	2	1	2	3	10
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
交流相手国 ASEAN	実渡航	1	2	0	2	1	2	0	2	1	2	3	10
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
交流相手国 中国及び韓国	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
交流相手国 中国及びASEAN	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
交流相手国 韓国及びASEAN	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
交流相手国 中国、韓国及びASEAN	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	20	60	25	105	35	135	45	135	45	135	170	570
	ハイブリッド	0	0	5	15	5	15	5	15	5	15	20	60
自己負担又は大学負担等による交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

④：【三カ国共通の財政支援の有無及び交流相手国・地域別　内訳】（実績）

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
三カ国共通の財政支援対象となる交流学生数		25	45	116	60	85	270	0	0	0	0	226	375
交流相手国 中国	実渡航	0	0	0	0	0	0					0	0
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A	0	0
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0					0	0
交流相手国 韓国	実渡航	0	0	0	0	0	0					0	0
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A	0	0
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0					0	0
交流相手国 ASEAN	実渡航	0	0	0	0	0	0					0	0
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A	0	0
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0					0	0
交流相手国 中国及び韓国	実渡航	0	0	0	0	0	0					0	0
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A	0	0
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0					0	0
交流相手国 中国及びASEAN	実渡航	0	0	0	0	0	0					0	0
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A	0	0
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0					0	0
交流相手国 韓国及びASEAN	実渡航	0	0	0	0	0	0					0	0
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A	0	0
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0					0	0
交流相手国 中国、韓国及びASEAN	実渡航	0	0	19	0	5	30					24	30
	オンライン	A 25	A 45	A 0	A 60	A 0	A 0	A	A	A	A	25	105
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 80	B 240	B	B	B	B	80	240
	ハイブリッド	0	0	97	0	0	0					97	0
自己負担又は大学負担等による交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0					0	0
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A	0	0
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0					0	0

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑤：【交流形態別　内訳】（計画）

●申請時の計画調書記載人数

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		20	60	30	120	40	150	50	150	50	150
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	20	60	25	105	35	135	45	135	45	135
	ハイブリッド	0	0	5	15	5	15	5	15	5	15
		2	6	2	6	2	6	2	6	2	6
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	2	6	2	6	2	6	2	6	2	6
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

●海外相手大学追加調書分

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										

●合計

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		20	60	30	120	40	150	50	150	50	150
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	20	60	25	105	35	135	45	135	45	135
	ハイブリッド	0	0	5	15	5	15	5	15	5	15
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数		2	6	2	6	2	6	2	6	2	6
	実渡航	2	6	2	6	2	6	2	6	2	6
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

⑥：【交流形態別　内訳】（実績）

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	3	27	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	3	27				
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0				
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	1	0	1	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	1	0	1	0				
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0				
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	81	243	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	1	3				
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 80	B 240	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0				
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数		25	45	111	43	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	18	0	0	0				
	オンライン	A 25	A 45	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0	93	43	0	0				
⑤単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0				
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0				
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0				
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0				

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑦：宿舎の提供について（実績）

宿舎（大学所有の宿舎、大学借り上げによる宿舎等）を提供した学生数	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	1	0	5	7					6	7

⑧ 同窓会ネットワークへの参加者数について(実績)　※タイプA①・タイプA②のみ

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	合計
第２モードまでの間に準備を進めてきた同窓会ネットワークへの参加者数について						0

⑨：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

2022年度までは，政府のコロナ対策の影響を受けていたこともあり，当初予定していた目標に必ずしも到達できていなかったが，2023年度についてはその制限をほぼ受けることなく，提携校へ派遣をすることができるようになった。特に，現在短期訪問でもビザ取得を必要とする中国においても，提携校のサポートもあり，かなり円滑に渡航までの準備を進めることができるような体制作りができた。また，タイのチュラロンコン大学へは，ジョイントディグリープログラムの学生を中心として，2－3か月期間の派遣ならびに1年にわたる長期派遣が実現している。今年度については，前年度の成果に基づいてそのプログラムに興味を持った学生が積極的に参加したことに起因する。

派遣については，今後は中国の上海交通大学とも積極的に実施ができるような取り組みを定め，ビザ取得のプロセスについてもより効率化して渡航する学生の負担を少しでも減らした上での派遣ができるように学内の手続きなどを合理化する予定であり，当初目標を２００％で上回る派遣が達成されるようにする。

【特に優れた取組】

2023年度については，これまで派遣にあたっての準備が難しかった中国への派遣が実現したことが大きな取り組みである。また，ビザ取得についても，提携校による関連書類の発行プロセスを簡素化していただいたこともあり，提携校の多大な協力が得られたのも，本成果が得られた要因の一つである。また，チュラロンコン大学における30日以上の期間にわたる派遣や，ジョイントディグリープログラムに伴う1年間の派遣が実施できている点については，前年度から安定して派遣を行うことができている点からも，本学内で安定した派遣希望者が出てきており，学生間での周知や本プログラムの内容についての理解が深まっていることを反映していると考えられる。

⑩：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

2023年度については，提携校間で参加するオンライン型の授業を定期開講したこともあり，オンラインを中心とした受入学生数が飛躍的に上昇した。特に，これまで日本の大学の講義を受けたことの無い学生がオンラインでの受講を通じて各国の受講学生と議論の場を持てた点については，安定した参加者数を維持できた要因の一つと考えている。学生からも，時開講した講義について，通常の講義と異なり双方でインタラクティブなやり取りができていたなど，講義受講に対する満足度も高い結果となっていた。

また，今年度については，昨年度にも受入をしていたチュラロンコン大学に加えて，韓国海洋科学大学校や上海交通大学からも多くの実渡航による学生を受け入れることができた。特に，担当教員も含めて日本へ来日し，本プログラムの取り組みについて学生だけでなく教員も積極的に仕組みを取り入れて，将来的に自国でのプログラムとしての活用を想定している状況がうかがえた。上海交通大学については，学生が多くの専攻・分野から受け入れることができ，大学内での積極的な周知がされていることを強く感じた。

【特に優れた取組】

2023年度から開講した，提携校の学生も参加できるオンラインの講義が学生間でも評価が高く，さらに日本側だけでなく各国で多くの受講者数がいたのが印象的だった。そのことから，本事業の受入の部分についても，学生間での周知や各大学における学生の積極参加を促す対応をしていただけていると考えられ，提携校からの多大な支援を受けている状況にある。また，実渡航の学生を例年以上に多く受け入れた。韓国海洋科学大学校においては，2週間の日本滞在中の研究活動に加えて最後に成果発表の場を設けるなど，質の保証ができる活動を進めることができた。また，上海交通大学についても，多くの分野の学生の受入が実現し，本プログラムが分野特化型のプログラムではなく，グローバルに幅広い分野の人材育成をめざす体制ができていることを示すことができた。

（2）　その他（上記（1）に該当するもの以外）

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
		人
		人
		人
		人

（3）　任意指標　※タイプA②・タイプB②のみ

①　本事業で設定している任意指標

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
（指標1）					
（指標2）					
（指標3）					
（指標4）					
（指標5）					

②　2023年度末における目標の達成状況

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
（指標1）					
（指標2）					
（指標3）					
（指標4）					
（指標5）					

③　進捗状況のコメント

【特に優れた取組】

（4）本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

（ｉ）単位互換を実施する海外相手大学数【計画】　（単位：校）

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
単位互換を実施する海外相手大学数	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3

（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【計画】　（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学　【大学名：名古屋大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
上海交通大学	認定者数	21	25	36	46	46
	認定単位数	0	0	0	0	0
韓国海洋大学校	認定者数	20	26	35	46	46
	認定単位数	0	0	0	0	0
チュラロンコン大学	認定者数	21	26	36	45	45
	認定単位数	0	0	0	0	0
年度別認定者数合計		62	77	107	137	137
年度別認定単位合計		0	0	0	0	0

2. 国内連携大学　【大学名：　　大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位合計		0	0	0	0	0

【2023年度末における目標の達成状況】

（ｉ）単位互換を実施した海外相手大学数【実績】　（単位：校）

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
単位互換を実施した海外相手大学数	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	3	3				

（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【実績】　（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

（ｉ）代表申請大学　【大学名：　名古屋大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
上海交通大学	認定者数	0	0	80		
	認定単位数	0	0	0		
韓国海洋大学校	認定者数	0	0	80		
	認定単位数	0	0	0		
チュラロンコン大学	認定者数	0	0	80		
	認定単位数	0	0	0		
年度別認定者数合計		0	0	240	0	0
年度別認定単位合計		0	0	0	0	0

2. 国内連携大学　【大学名：　　大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位合計		0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和３年度採択）
令和６年度フォローアップ調査票

大学名 （○が代表大学）	広島大学				
タイプ	タイプB①				
事業名	【和文】	インクルーシブ・マインドを醸成するアジア地域国際協働人材育成			
	【英文】	International Collaborative Human Resources Development Program in Asia to Foster Inclusive Minds			
事業責任者 ※交替年月日は変更があった場合のみ記入	（氏　名）	金子　慎治	（所属・職名）	理事・副学長（グローバル化担当）	
	（交替年月日）				

海外相手大学追加調書分
相手大学名

※追加調書を提出した大学のみ記入

	大学名		国名
	（日本語表記）	（英語表記）	
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL
※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用

日本語版：https://inclusive-asia.hiroshima-u.ac.jp/
英語版：https://inclusive-asia.hiroshima-u.ac.jp/en/

１．取組内容の進捗状況 【（1）と（2）で１ページ以内、（3）～（5）で２ページ以内】

本事業における2023年度の取組内容について記入してください。

（1）取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望

①交流プログラムの内容

障害の有無，平和観，宗教観，ジェンダー/マイノリティ観の違いから生じるバリアに関わらず，コミュニケーションによる協調によって問題解決にあたる人材育成を目的として，COIL型教育，短期派遣，サマースクールおよびセメスター留学の４つのプログラムを実施した。

これまで本学からの参加者数の少なさが課題だったCOIL型教育は，短期派遣参加者の必須プログラムとすることで，参加が増え，連携大学の学生との交流が増えた。

短期派遣は，２か国連続渡航を実現した。ソウル，長春，北京の３都市それぞれの特色を体感し刺激を受ける部分があった反面，準備や現地での予定が慌ただしくなったため，次年度からは余裕を持った旅程とする。インドネシア・タイへの連続渡航のうち，学生の多くはタイは日本と変わらない印象を感じたようだが，インドネシアでは生活面や宗教の多様性について，日本との違いを目の当たりにし，様々な観点から考察する機会となった。

サマースクールでは，ハイブリッドでなく，全員が対面参加となり，よりスムーズなコミュニケーションができた。全盲の学生が参加したり，障害のある方を積極的に雇用している企業を訪問するなど，インクルージョンについて身近なものとして考える機会を得た。また，８月６日に広島平和祈念公園を訪問し，資料館を見学したり被爆体験講話を拝聴するなど，平和について考えるきっかけとなった。

中期留学では，4名を受入れ，3名を派遣した。留学生それぞれがD&Iや各国で現地語を学ぶ機会となった。短期派遣やサマースクールでは時間的に実施が困難なインターンシップや交流事業を，各連携大学で提供できるよう，協議を進める予定である。

本学の学生は，自己評価として，総じて自国の文化や歴史に対する知識が不十分であることや，コミュニケーション力やプレゼンテーション力の不足を感じているが，本事業をきっかけに，語学学習や留学生との交流に関心を持ち，学生サポーターになる学生も多い。

【特に優れた取組】

サマースクールでの５か国６大学の多国間交流が，D&Iを学ぶ上で効果的であるとの考えにより，短期派遣においても，本学の学生と受入大学の学生だけでなく，連携大学の学生が参加できる体制を整えた。

具体例として，韓国で短期派遣を実施した際，連携６大学の学生が集まり，中国や東南アジアの学生とも交流が持つことができた。中国では日中韓３か国の学生での密な交流ができ，インドネシアでは４か国，タイでも３か国の学生が交流，アジア圏の多様な文化・宗教・考え方に触れることができた。

②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成

質の保証を伴った大学間交流を行うべく，学生交流協定のもと，特に中期留学についての単位互換プログラムを進めている。2023年度は，6月，8月，11月にオンラインや対面で会議を行い，プログラム目的の共有や，事業実施に係る協議を行い，共通理解に基づく推進体制と信頼関係を引き続き構築した。また，いかに質の保証を保っていくかの議論を深めていくため，各大学での単位認定状況を，連携６大学が共有している。

【特に優れた取組】

COIL型教育，短期派遣，サマースクール，中期留学のすべてのプログラムにおいて，修了証の発行や単位認定を行った。特にCOIL型教育では，全連携大学から学生が参加するとともに，各大学の教員による講義も提供しており，修了証を６大学の署名入りのものを作成し，授与している。

③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

外国人学生受入の際は，本事業のコーディネーターや専任職員が対応するだけでなく，全学の様々な分野の教員からなる実施部会の委員も大きく関わっている。サマースクールの際は講義を行ったり，グループワークをリードし，中期留学の学生受入の際の指導教員となる。さらに，習熟度別の日本語プログラム，学生サポーターやアシスタントを配置し，スムーズに日本での生活に入れるように工夫している。

派遣の際も，事前のオリエンテーションは全学プログラムのプラットフォームを利用しながら，追加の説明などのサポートを行い、毎月一度は学生との直接のやりとり、体調不良などの際には現地コーディネーターも連携するなどのサポートを行っている。

【特に優れた取組】

受入の際の指導教員２名体制（D＆I担当と留学生の専門分野担当）を整えるとともに、全学留学プログラムのウェルカムイベント、エクスカーションなど各種イベントにも参加できるようにした。また、毎月専任職員と顔合わせし、近況を確認するとともに、緊急連絡用に専任職員の連絡体制も確立した。

④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

専用ウェブサイトで、日々新着情報で取組の周知をするとともに、各短期派遣やサマースクール終了後には、報告書も掲載した。また、本学で実施する他の展開力事業や過去の展開力事業とともに発信できる合同ウェブサイトを作成し、本学の公式ホームページにもリンクを張るなど、広く周知できる体制を整えている。また、連携大学との合同プログラム委員会、外部委員会や事後講義など、学内外、教員だけでなく学生とも、BEVIテストや６つのコンピテンシーの自己評価結果なども共有している。

【特に優れた取組】

東広島市民も参加する、ASIAN SATURADAYなど東広島市との共同イベントで、ブースを設置し、事業についての概要や成果を発表している。

（２）特記すべき成果

本学でのサマースクールでの多国間交流を参考に、短期派遣を連携大学の学生も参加できる形で実施した。これにより、派遣国以外の学生との交流も可能となり、学びの幅が広がり、バリアを認識しマネジメントできる人材育成を進めることができた。

（３）オンラインを活用した工夫・改善点

COIL型教育で5か国６大学の学生が集まり，各大学の教員が講義をオンラインで提供した。連携大学との合同プログラム（年４回のうちの３回はオンラインでミーティング）などでもオンラインを活用した。また、本学での短期派遣の事前講義として，派遣先国及び本学の教員が講義をオンラインで実施することで，各国の参加者間で知識の共有を行うことができた。

２．交流学生数の実績等 【（１）で６ページ以内、（２）（３）で１ページ】

（１）交流する学生数について

①プログラム全体の派遣・受入交流学生数(計画)

●申請時の計画調書記載人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	10	40	46	64	46	64	46	64	46	64	194	296
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）			36	24	36	24	36	24	36	24	144	96
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	10	40	10	40	10	40	10	40	10	40	50	200
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）											0	0

●海外相手大学追加調書分

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）											0	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）											0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）											0	0

●合計人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	10	40	46	64	46	64	46	64	46	64	194	296
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	0	0	36	24	36	24	36	24	36	24	144	96
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	10	40	10	40	10	40	10	40	10	40	50	200
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

②プログラム全体の派遣・受入交流学生数（実績）

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	7	34	39	94	34	72	0	0	0	0
実際に渡航した学生（以下「実渡航」）	0	0	30	18	17	22				
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講した学生（以下「オンライン」）	A		A		A		A	6	A		A		A		A		A	
	B	7	B	34	B	9	B	70	B	17	B	50	B		B		B		B	
実渡航とオンライン受講を行った学生（以下「ハイブリッド」）										
達成目標に対する実績の割合	70%	85%	85%	147%	74%	113%	0%	0%	0%	0%

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

③：【三カ国共通の財政支援の有無及び交流相手国・地域別　内訳】（計画）

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
三カ国共通の財政支援対象となる交流学生数		0	0	36	24	36	24	36	24	36	24	144	96
交流相手国 中国	実渡航	0	0	2	2	2	2	2	2	2	2	8	8
	オンライン											0	0
	ハイブリッド											0	0
交流相手国 韓国	実渡航	0	0	2	2	2	2	2	2	2	2	8	8
	オンライン											0	0
	ハイブリッド											0	0
交流相手国 ASEAN	実渡航	0	0	17	2	17	2	17	2	17	2	68	8
	オンライン											0	0
	ハイブリッド											0	0
交流相手国 中国及び韓国	実渡航	0	0	15	0	15	0	15	0	15	0	60	0
	オンライン											0	0
	ハイブリッド											0	0
交流相手国 中国及びASEAN	実渡航											0	0
	オンライン											0	0
	ハイブリッド											0	0
交流相手国 韓国及びASEAN	実渡航											0	0
	オンライン											0	0
	ハイブリッド											0	0
交流相手国 中国、韓国及び ASEAN	実渡航	0	0	0	18	0	18	0	18	0	18	0	72
	オンライン											0	0
	ハイブリッド											0	0
自己負担又は大学負担等による交流学生数		10	40	10	40	10	40	10	40	10	40	50	200
	実渡航											0	0
	オンライン	10	40	10	40	10	40	10	40	10	40	50	200
	ハイブリッド											0	0

④：【三カ国共通の財政支援の有無及び交流相手国・地域別　内訳】（実績）

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
三カ国共通の財政支援対象となる交流学生数		0	0	30	24	17	22	0	0	0	0	47	46
交流相手国 中国	実渡航											0	0
	オンライン	A	A	A	A 1	A	A	A	A	A	A	0	1
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	0	0
	ハイブリッド											0	0
交流相手国 韓国	実渡航			8	2	2	2					10	4
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	0	0
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	0	0
	ハイブリッド											0	0
交流相手国 ASEAN	実渡航			22	2	1	2					23	4
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	0	0
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	0	0
	ハイブリッド											0	0
交流相手国 中国及び韓国	実渡航											0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	0	0
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	0	0
	ハイブリッド											0	0
交流相手国 中国及びASEAN	実渡航											0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	0	0
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	0	0
	ハイブリッド											0	0
交流相手国 韓国及びASEAN	実渡航											0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	0	0
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	0	0
	ハイブリッド											0	0
交流相手国 中国、韓国及び ASEAN	実渡航				14		18					0	32
	オンライン	A	A	A	A 5	A	A	A	A	A	A	0	5
		B	B	B	B	B 14	B	B	B	B	B	14	0
	ハイブリッド											0	0
自己負担又は大学負担等による交流学生数		7	34	9	70	17	50	0	0	0	0	33	154
	実渡航											0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	0	0
		B 7	B 34	B 9	B 70	B 17	B 50	B	B	B	B	33	154
	ハイブリッド											0	0

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑤：【交流形態別　内訳】（計画）

●申請時の計画調書記載人数

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数		0	0	30	18	30	18	30	18	30	18
	実渡航	0	0	30	18	30	18	30	18	30	18
	オンライン										
	ハイブリッド										
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		10	40	10	40	10	40	10	40	10	40
	実渡航										
	オンライン	10	40	10	40	10	40	10	40	10	40
	ハイブリッド										
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	6	6	6	6	6	6	6	6
	実渡航	0	0	6	6	6	6	6	6	6	6
	オンライン										
	ハイブリッド										
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										
⑤単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										

●海外相手大学追加調書分

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										
⑤単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										

●合計

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数		0	0	30	18	30	18	30	18	30	18
	実渡航	0	0	30	18	30	18	30	18	30	18
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		10	40	10	40	10	40	10	40	10	40
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	10	40	10	40	10	40	10	40	10	40
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	6	6	6	6	6	6	6	6
	実渡航	0	0	6	6	6	6	6	6	6	6
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

⑥：【交流形態別　内訳】（実績）

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数		0	0	28	19	14	18	0	0	0	0
	実渡航			28	14	14	18				
	オンライン	A	A	A	A 5	A	A	A	A	A	A
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド										
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		7	34	9	70	17	50	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		B 7	B 34	B 9	B 70	B 17	B 50	B	B	B	B
	ハイブリッド										
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	2	5	3	4	0	0	0	0
	実渡航			2	4	3	4				
	オンライン	A	A	A	A 1	A	A	A	A	A	A
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド										
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド										
⑤単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド										
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド										

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑦：宿舎の提供について（実績）

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
宿舎（大学所有の宿舎、大学借り上げによる宿舎等）を提供した学生数	0	0	30	18	17	22					47	40

⑧ 同窓会ネットワークへの参加者数について（実績）　※タイプA①・タイプA②のみ

⑨：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

短期派遣で夏に中韓への２か国３大学への連続渡航、インドネシア、タイへの２か国連続渡航を実現した。加えて、本学から派遣された学生と受入大学の学生のみの二国間交流から、連携大学の学生も参加できる多国間交流に進化させ，本学学生が合計14名及びほぼ同数の連携大学の学生が参加する形で実施した。また、2月に実施したインドネシア・タイへの短期派遣以降，事前のCOIL型教育のコースへの参加を必須要件としたことから，COIL型教育に前年の２倍となる17名が参加した。中派遣は、６名枠に対して３名の派遣と、伸び悩んだ。

【特に優れた取組】
　短期派遣を本学でのサマースクールのように、連携大学の学生も参加できるように設計し直したことにより，短期派遣であっても多国間交流が可能となった。2023年度は８月に韓国（本学6名、その他10名）、長春（本学2名、その他9名）、北京（本学6名、その他9名）、2024年2月にインドネシア（本学8名、その他4）、タイ（本学8名、その他3名）で実施し、派遣国以外の学生との交流も可能となり、学びの幅が広がった。

⑩：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

コロナ禍の影響が落ち着いた2023年度のサマースクールより、初めて全員が対面で参加した。全盲の学生１名を含む合計18名が参加した。中期留学には、COIL型教育、サマースクール、短期派遣の受入を経験した学生が参加し、ステップアップ型の４つのプログラムに参加する形となった。また、中期留学で受入れた学生が、本学からの短期派遣の際に学生サポーターとして参加するなど、幅広い学生交流へとつながっている。2023年度のCOIL型教育には、計画を大幅に超える50名が参加し、その中から2024年度のサマースクールや中期留学プログラムに参加する学生が想定される。
派遣先でのホスピタリティや学生のリーダーシップも参考とし、2024年度に本学で実施するサマースクールにおいては、さらに学生主導型の色を濃くし，運営スタッフにはホストとしての責任と役割を与え、学生自らがD&Iマネジメントを実践できる場を提供する予定としている。

【特に優れた取組】
　受入学生に対しては、全学の留学受入プラットフォームを利用するとともに、独自の支援体制を整えた。サマースクールでは、全学様々な学部・研究科の教員が関わる事業実施部会の委員が講義を行い、中期留学受入時には指導教員を２名として盤石な体制を敷いている。

（２）　その他（上記（１）に該当するもの以外）

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
		人
		人
		人
		人

（３）　任意指標　※タイプA②・タイプB②のみ

①　本事業で設定している任意指標

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
（指標1）					
（指標2）					
（指標3）					
（指標4）					
（指標5）					

②　2023年度末における目標の達成状況

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
（指標1）					
（指標2）					
（指標3）					
（指標4）					
（指標5）					

③　進捗状況のコメント

【特に優れた取組】

（4）本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

（ｉ）単位互換を実施する海外相手大学数【計画】　（単位：校）

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
単位互換を実施する海外相手大学数	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	4	4	4	4	4	4	4	

（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【計画】　（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学　【大学名：　広島大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
北京師範大学	認定者数	0	1	1	1	1
	認定単位数	0	8	8	8	8
長春大学	認定者数	0	1	1	1	1
	認定単位数	0	8	8	8	8
韓国外国語大学	認定者数	0	2	2	2	2
	認定単位数	0	16	16	16	16
インドネシア教育大学	認定者数	0	1	1	1	1
	認定単位数	0	8	8	8	8
カセサート大学	認定者数	0	1	1	1	1
	認定単位数	0	8	8	8	8
年度別認定者数合計		0	6	6	6	6
年度別認定単位合計		0	48	48	48	48

2. 国内連携大学　【大学名：　　大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位合計		0	0	0	0	0

【2023年度末における目標の達成状況】

（ｉ）単位互換を実施した海外相手大学数【実績】　（単位：校）

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
単位互換を実施した海外相手大学数	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	1	2	0	2				

（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【実績】　（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

（ｉ）代表申請大学　【大学名：　広島大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
北京師範大学	認定者数	0	0	0		
	認定単位数	0	0	0		
長春大学	認定者数	0	0	0		
	認定単位数	0	0	0		
韓国外国語大学	認定者数	0	1	0		
	認定単位数	0	3	0		
インドネシア教育大学	認定者数	0	0	0		
	認定単位数	0	0	0		
カセサート大学	認定者数	0	0	0		
	認定単位数	0	0	0		
年度別認定者数合計		0	1	0	0	0
年度別認定単位合計		0	3	0	0	0

2. 国内連携大学　【大学名：　　大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位合計		0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和３年度採択）
令和６年度フォローアップ調査票

大学名 （〇が代表大学）	〇長崎大学・中国海洋大学・釜慶大学校・マレーシアトレンガヌ大学			
タイプ	タイプB①	※プルダウンから、タイプを選択してください。		
事業名	【和文】	持続可能なアジアの水産と海洋環境を実現する国際協働人材養成プログラム		
	【英文】	Asia Fisheries and Marine Environment Leaders Program		
事業責任者 ※交替年月日は変更があった場合のみ記入	（氏　名）	河本 和明	（所属・職名）	水産・環境科学総合研究科長
	（交替年月日）	令和6年4月1日		

海外相手大学追加調書分 相手大学名 ※追加調書を提出した大学のみ記入		大学名		国名
		（日本語表記）	（英語表記）	
	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL ※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用
https://www.campus-asia.com/

１．取組内容の進捗状況【（1）と（2）で1ページ以内、（3）～（5）で2ページ以内】

本事業における2023年度の取組内容について記入してください。

（1）取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望

①交流プログラムの内容

短期派遣と受け入れを実施し，韓国釜慶大学校(PKNU)に3名，マレーシアトレンガヌ大学(UMT)に2名の学部生と大学院生を約3か月間派遣した。また，PKNUから2名，中国海洋大学(OUC)から1名，UMTから2名の学部生と大学院生を約3か月間受け入れた。さらに釜慶大学校，中国海洋大学とダブルディグリー（DD）プログラム制度に関する覚書ならびに実施要項を締結した。また，シンポジウムやワークショップを企画，開催して，交流を活性化するとともに，運営委員会と外部評価会議を開催して事業の円滑で

【特に優れた取組】

釜慶大学校，中国海洋大学とDDプログラム制度に関する覚書ならびに実施要項を締結した。令和6年度からこの制度に基づく大学院生の派遣と受け入れが始まり，さらなる交流の活性化が期待できる。

②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成

運営委員会を3回（令和5年5,6,12月）開催してプログラムの運営状況を確認し，参加4大学とオンライン会議などで情報を共有した。そして外部の評価委員による事業の学部評価会議をオンラインで開催した（令和6年2月）。また，DDプログラム制度の開発のために，PKNU，OUCと教務事項や提供科目等の情報をオンライン会議等で相談，検討して，覚書の締結につなげた。

【特に優れた取組】

令和6年度以降の短期派遣プログラムのワーキンググループの設置が運営委員会で検討され，承認された。ワーキンググループで検討，実行することで，短期派遣（受け入れ）を迅速かつ円滑に行うことが期待できる。

③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

受入学生に対しては、令和5年3月にオンラインで事前説明会を実施し、オリエンテーションを行った。学生には一人あたり一人以上のチューターを配置し、日本での生活や講義での懸念に即対応できるようにした。派遣学生については，派遣先での学修内容や経済支援について説明会を開催した。また、英語力を底上げするため、オンライン英語学習プログラムを派遣学生に受講させた。

【特に優れた取組】

受入学生のチューターには，当プログラムに昨年度参加した学生や受入学生の出身国や近隣国からの留学生を含めた。チューターと受入学生でメッセージアプリのトークルームを開設し、迅速なコミュニケーションがとれるようにした。

④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

令和5年8月に，マレーシアトレンガヌ大学でUMT-AFIMAシンポジウムと本事業の略称（AFIMA）が冠されたシンポジウムが開催され，長崎大学からも話題提供を行った。また，令和5年10月に米国で開催されたNorth Pacific Marine Science Organization（PICES）年次会議において、本事業とのジョイントワークショップ「Collaboration with PICES 2023 and Asia Fisheries and Marine Environment Leaders Program」を開催した。そのほか，長崎大学では令和6年2月に留学成果報告会を開催した。

【特に優れた取組】

PICES年次会議における本プログラムのジョイントワークショップは2022年、2023年と2年連続で開かれており、4カ国の参加大学の教員及び大学院生の研究交流の場となっている。

（2）特記すべき成果

開始時期，学務カレンダー，必要習得単位数や学修内容など，調整すべき事項を運営委員会などで討議して，釜慶大学校，中国海洋大学とDDプログラムを開始する準備が整った。また，UMT-AFIMAシンポジウムやPICES年次総会など，研究交流の場も設けることができた。

（3）オンラインを活用した工夫・改善点

長崎大学で受け入れた学生は，主体的学習促進支援システム(LACS: Learning Assessment & Communication System)に登録させ，教員，学生ともに対面だけでなくウエブ上でも双方向の教育・生活情報の共有，一斉連絡を可能とした。

２．交流学生数の実績等 【（１）で６ページ以内、（２）（３）で１ページ】

（１）交流する学生数について

①プログラム全体の派遣・受入交流学生数(計画)

●申請時の計画調書記載人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	6	6	8	12	10	18	10	20	34	56
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）											0	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）											0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	6	6	8	12	10	18	10	20	34	56

●海外相手大学追加調書分

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）											0	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）											0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）											0	0

●合計人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	6	6	8	12	10	18	10	20	34	56
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	6	6	8	12	10	18	10	20	34	56

②プログラム全体の派遣・受入交流学生数（実績）

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	3	5	5	5	0	0	0	0
実際に渡航した学生（以下「実渡航」）			3	5	5	5				
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講した学生（以下「オンライン」）	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
実渡航とオンライン受講を行った学生（以下「ハイブリッド」）										
達成目標に対する実績の割合	#DIV/0!	#DIV/0!	50%	83%	63%	42%	0%	0%	0%	0%

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

③：【三カ国共通の財政支援の有無及び交流相手国・地域別　内訳】（計画）

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
三カ国共通の財政支援対象となる交流学生数		0	0	6	6	8	12	10	18	10	20	34	56
交流相手国 中国	実渡航											0	0
	オンライン											0	0
	ハイブリッド											0	0
交流相手国 韓国	実渡航											0	0
	オンライン											0	0
	ハイブリッド											0	0
交流相手国 ASEAN	実渡航											0	0
	オンライン											0	0
	ハイブリッド											0	0
交流相手国 中国及び韓国	実渡航											0	0
	オンライン											0	0
	ハイブリッド											0	0
交流相手国 中国及びASEAN	実渡航											0	0
	オンライン											0	0
	ハイブリッド											0	0
交流相手国 韓国及びASEAN	実渡航											0	0
	オンライン											0	0
	ハイブリッド											0	0
交流相手国 中国、韓国及びASEAN	実渡航											0	0
	オンライン											0	0
	ハイブリッド	0	0	6	6	8	12	10	18	10	20	34	56
自己負担又は大学負担等による交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											0	0
	オンライン											0	0
	ハイブリッド											0	0

④：【三カ国共通の財政支援の有無及び交流相手国・地域別　内訳】（実績）

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
三カ国共通の財政支援対象となる交流学生数		0	0	3	5	5	5	0	0	0	0	8	10
交流相手国 中国	実渡航											0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	0	0
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	0	0
	ハイブリッド											0	0
交流相手国 韓国	実渡航											0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	0	0
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	0	0
	ハイブリッド											0	0
交流相手国 ASEAN	実渡航											0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	0	0
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	0	0
	ハイブリッド											0	0
交流相手国 中国及び韓国	実渡航											0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	0	0
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	0	0
	ハイブリッド											0	0
交流相手国 中国及びASEAN	実渡航											0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	0	0
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	0	0
	ハイブリッド											0	0
交流相手国 韓国及びASEAN	実渡航											0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	0	0
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	0	0
	ハイブリッド											0	0
交流相手国 中国、韓国及び ASEAN	実渡航			3	5	5	5					8	10
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	0	0
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	0	0
	ハイブリッド											0	0
自己負担又は大学負担等による交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航											0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	0	0
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	0	0
	ハイブリッド											0	0

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑤：【交流形態別　内訳】（計画）

●申請時の計画調書記載人数

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	6	6	8	12	10	18	10	20
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド			6	6	8	12	10	18	10	20
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										
⑤単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										

●海外相手大学追加調書分

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										
⑤単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン										
	ハイブリッド										

●合計

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	6	6	8	12	10	18	10	20
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	6	6	8	12	10	18	10	20
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

⑥：【交流形態別　内訳】（実績）

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド										
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	3	5	2	5	0	0	0	0
	実渡航			3	5	2	5				
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド										
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	3	0	0	0	0	0
	実渡航					3					
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド										
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド										
⑤単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド										
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド										

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑦：宿舎の提供について（実績）

宿舎（大学所有の宿舎、大学借り上げによる宿舎等）を提供した学生数	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
			3	5	3	5					6	10

⑧ 同窓会ネットワークへの参加者数について(実績)　※タイプA①・タイプA②のみ

第２モードまでの間に準備を進めてきた同窓会ネットワークへの参加者数について	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	合計
						0

⑨：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

2022年度には6名の派遣予定に対して，3名の学生（UMT1名、PKNU2名）を派遣した。2023年度には8名の派遣予定に対して，5名の学生（UMT2名、PKNU3名）を派遣した。中国OUCへの派遣に関しては、コロナ感染症に関連して派遣が困難な状況が続いたが、2024年度からは改善が期待できると考えている。

【特に優れた取組】
対面およびオンラインにて留学成果報告会を実施した。2023年度に派遣された5名のうち、4名が自身の留学成果について発表を行った（1名は研究活動のため欠席）。聴講には関連教員のほか、来年度以降のプログラム参加を考える学生も訪れた。

⑩：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

2022年度には6名の受入予定に対して，5名の学生（UMT2名、PKNU2名、OUC1名）を受け入れた。2023年度には12名の受入予定に対して，5名の学生（UMT2名、PKNU2名、OUC1名）を受け入れた。受入でもOUCからの学生が少なく、オンラインでの交流会などを通して学生に参加を促すなど、改善が望まれる。

【特に優れた取組】
マレーシアトレンガヌ大学で開催したUMT-AFIMAシンポジウムや米国で開催されたNorth Pacific Marine Science Organization（PICES）年次会議におけるジョイントワークショップ「Collaboration with PICES 2023 and Asia Fisheries and Marine Environment Leaders Program」など、相手先大学や関連機関が集まる場で本プログラムを広報することで、受入学生の増加を狙った。

（2）　その他（上記（1）に該当するもの以外）

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
		人
		人
		人
		人

（3）　任意指標　※タイプA②・タイプB②のみ

①　本事業で設定している任意指標

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
（指標1）					
（指標2）					
（指標3）					
（指標4）					
（指標5）					

②　2023年度末における目標の達成状況

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
（指標1）					
（指標2）					
（指標3）					
（指標4）					
（指標5）					

③　進捗状況のコメント

【特に優れた取組】

（4）本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

（ｉ）単位互換を実施する海外相手大学数【計画】　（単位：校）

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
単位互換を実施する海外相手大学数	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
			3	3	3	3	3	3	3	3

（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【計画】　（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学　【大学名：長崎大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
中国海洋大学	認定者数	0	2	3	3	3
	認定単位数	0	8	8	18	18
釜慶大学校	認定者数	0	2	3	3	3
	認定単位数	0	8	8	18	18
マレーシアトレンガヌ大学	認定者数	0	2	2	4	4
	認定単位数	0	8	8	16	16
年度別認定者数合計		0	6	8	10	10
年度別認定単位合計		0	24	24	52	52

【2023年度末における目標の達成状況】

（ｉ）単位互換を実施した海外相手大学数【実績】　（単位：校）

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
単位互換を実施した海外相手大学数	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
			2	3	2	3				

（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【実績】　（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

（ｉ）代表申請大学　【大学名：長崎大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
中国海洋大学	認定者数					
	認定単位数					
釜慶大学校	認定者数		2	3		
	認定単位数		8	12		
マレーシアトレンガヌ大学	認定者数		1	2		
	認定単位数		2	8		
年度別認定者数合計		0	3	5	0	0
年度別認定単位合計		0	10	20	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和３年度採択）
令和６年度フォローアップ調査票

大学名 （〇が代表大学）	立教大学			
タイプ	タイプB①	※プルダウンから、タイプを選択してください。		
事業名	【和文】	リベラルアーツの高度化に向けたアジア４大学共同体―国際共同副専攻によるグローバルリーダー育成		
	【英文】	The Asian Consortium for Excellence in Liberal Arts and Interdisciplinary Education (The ACE)		
事業責任者 ※交替年月日は変更があった場合のみ記入	（氏　名）	松井秀征	（所属・職名）	国際化推進機構長
	（交替年月日）			

海外相手大学追加調書分 相手大学名 ※追加調書を提出した大学のみ記入	大学名		国名
	（日本語表記）	（英語表記）	
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL ※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用
https://ace.rikkyo.ac.jp/

１．取組内容の進捗状況【（１）と（２）で１ページ以内、（３）～（５）で２ページ以内】

本事業における2023年度の取組内容について記入してください。

（１）取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望

①交流プログラムの内容

2023年度は、交換留学生として新規で3名を派遣し、7名を受け入れた。インテンシブプログラムは、夏季に北京大学へ8名、春季にソウル大学校へ8名を派遣した。オンラインプログラムでは本学が開講し、ソウル大学校より6名、本学より11名の受講者を集めた。それぞれのプログラムでは、東南アジアの学年暦による参加困難が目立ち、学年暦の影響を受けないプログラム構成または、オンラインの活用が必要であるため、コンソーシアムとしてではなく、個々の調整を行い合意をすることを目指す。

【特に優れた取組】

本学からの派遣留学では、ソウル大学校・シンガポール国立大学への2大学留学、シンガポール国立大学・北京大学への2大学留学を実現した。2024年度秋学期に各大学の提供する共同オンライン科目群を履修することで、3大学で提供されている授業の履修が実現することとなる。

②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成

4大学共通成績証明書の発行、共通ツールーブリックの策定、各大学のC6カリキュラムリストの提供など、学びを可視化し、学生に理解しやすい情報提供を実施した。また、国際共同副専攻の修了証を授与した。引き続き、本取り組みを継続すると共に、活用実績のフィードバックし、本事業以外への波及を目指す。

【特に優れた取組】

2024年2月に第1期生6名の成果報告会を実施した。成果報告会では、体験談以外に、共通ルーブリックを使用した。ルーブリックでは主に、4大学共通成績証明書記載の6つのスキル伸長について自己分析を行い、それぞれの所属学部の教員より、フィードバックを実施した。自身の経験や見解の言語化を行い、他者である教員がどのように理解したのか、その印象や客観的な視点をフィードバックすることは、学生にとって、盲点であった点を可視化する機会となった。

③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

受入面では、レジデントサポーター等を活用し、生活支援を実施した。また、パートナー大学からの本事業参加者に対しては、本学内で事業責任者による個別にオリエンテーションを実施し、C6カリキュラムの理解を促進した。派遣では、募集の段階で説明会を実施し、学部選考面接、本事業責任者面接を設け、それぞれにおいて、本事業への理解度をはかり合否を決定した。引き続きこの取り組みを継続していく。

【特に優れた取組】

受入れにおいては、本事業の中心となる6つのスキル獲得のための展開科目のオリエンテーションを行い、各学生に対して、明確な目的意識を醸成した。派遣では、2大学連続留学の1学期終了時にオンラインによる中間報告会を実施し、早期の留学経験の言語化を進め、次学期の目的設定を行った。

④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

本事業専用のウェブサイトにて、さまざまなプログラム参加者の声を発信した。また、本学の広報誌において取り組みの説明並びに、参加者の声を掲載した。本事業の情報発信については、今後、マスコミ等の媒体を通して、発信を強化していく。

【特に優れた取組】

本事業専用のウェブサイトには、参加者の声が多く取り上げられている。また、参加者に編集をしてもらった動画を掲載している。テキストベースの報告だけではない、様々なスキルを活用した体験談を掲載しており、報告者のネットリテラシーを向上させる取り組みも合わせて実施されている。

（2）特記すべき成果

2024年2月に第1期生6名が修了し、6名に対して国際共同副専攻（ALIS）を授与した。1名は本学大学院の海外大学院とのダブルディグリーコースへ進学、2名は国際系の企業へ就職、1名は本プログラムで学んだ語学の向上のため休学し再度海外渡航、1名は海外大学院進学準備、1名は日本国外で就職準備を行っており、いずれの学生の進路も、グローバルな志向を示している。

（3）オンラインを活用した工夫・改善点

本年度オンラインを使用した主な場面としては、①パートナー大学との会議の開催、②渡航前のオリエンテーション、③共同オンライン科目の開講、④渡航中の学生の中間報告会、⑤渡航中（1期生）と渡航予定学生（2期生）の質問会の場面で活用した。活用事例の中で、特に効果的であったのは、「②渡航前のオリエンテーション」及び「④渡航中の学生の中間報告会」であった。

②のオリエンテーションは動画を録画し、いつでも動画を視聴できるようにクラウド上に動画を格納したことによって、学生がいつでも再視聴可能とすることで、複雑な動きをするプログラムにおいても、後日動画を再視聴することで、学生が自分のすべきことについて理解度が増したことがある。

④については、現地での学習の状況や経験、感想をできる限り早いタイミングで振り返り、言語化する機会を設けたことにある。最初の渡航先を終了間際に振り返ることで、「自分に欠けていた部分」「ほかの人にできていて自分にできていないこと」を認識し、言語化させるプロセスを通して、2つ目の渡航先では、「足りなかった部分を補うための機会」となっている。そのため、2大学渡航については、二つの環境の異なる大学で学ぶという複眼的な視点の獲得だけではなく、一つ目の留学で学んだ「できなかったこと」を、「できる」ように実践する場ともなりうることを意味する。また、履修や単位認定に関する相談、現地での悩みなどを聞く場ともなり、参加学生に対する心身のケアの場しても有効な機会となっている。

２．交流学生数の実績等 【（１）で６ページ以内、（２）（３）で１ページ】

（１）交流する学生数について

①プログラム全体の派遣・受入交流学生数(計画)

●申請時の計画調書記載人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	54	22	73	50	61	86	61	86	249	244
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	0	0	18	7	25	14	19	26	19	28	81	75
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	0	0	36	15	48	36	42	60	42	58	168	169
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

●海外相手大学追加調書分

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

●合計人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	54	22	73	50	61	86	61	86	249	244
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	0	0	18	7	25	14	19	26	19	28	81	75
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	0	0	36	15	48	36	42	60	42	58	168	169
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

②プログラム全体の派遣・受入交流学生数（実績）

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（ⅲ）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	6	0	18	21	19	12	0	0	0	0
実際に渡航した学生（以下「実渡航」）	0	0	16	15	19	6				
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講した学生（以下「オンライン」）	A 0 / B 6	A 0 / B 0	A 2 / B 0	A 6 / B 0	A 0 / B 0	A 0 / B 6	A / B	A / B	A / B	A / B
実渡航とオンライン受講を行った学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	0	0	0	0				
達成目標に対する実績の割合	#DIV/0!	#DIV/0!	33%	95%	26%	24%	0%	0%	0%	0%

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

③：【三カ国共通の財政支援の有無及び交流相手国・地域別　内訳】（計画）

			2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
三カ国共通の財政支援対象となる交流学生数			0	0	54	22	73	50	61	86	61	86	249	244
	交流相手国 中国	実渡航	0	0	4	0	4	4	4	4	4	4	16	12
		オンライン	0	0	10	5	12	12	12	12	12	12	46	41
		ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	交流相手国 韓国	実渡航	0	0	4	2	5	5	5	5	5	5	19	17
		オンライン	0	0	10	5	12	12	12	12	12	12	46	41
		ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	交流相手国 ASEAN	実渡航	0	0	4	5	4	5	4	5	4	5	16	20
		オンライン	0	0	10	5	12	12	12	12	12	12	46	41
		ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	交流相手国 中国及び韓国	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	交流相手国 中国及びASEAN	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	交流相手国 韓国及びASEAN	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	交流相手国 中国、韓国及びASEAN	実渡航	0	0	6	0	12	0	6	12	6	14	30	26
		オンライン	0	0	6	0	12	0	6	24	6	22	30	46
		ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自己負担又は大学負担等による交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

④：【三カ国共通の財政支援の有無及び交流相手国・地域別　内訳】（実績）

			2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
			派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
三カ国共通の財政支援対象となる交流学生数			6	0	18	21	19	12	0	0	0	0	43	33
	交流相手国 中国	実渡航	0	0	0	0	0	1					0	1
		オンライン	A 0	A 0	A 2	A 6	A 0	A 0	A	A	A	A	2	6
			B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B	0	0
		ハイブリッド	0	0	0	0	0	0					0	0
	交流相手国 韓国	実渡航	0	0	6	9	0	5					6	14
		オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A	0	0
			B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 6	B	B	B	B	0	6
		ハイブリッド	0	0	0	0	0	0					0	0
	交流相手国 ASEAN	実渡航	0	0	2	6	0	0					2	6
		オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A	0	0
			B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B	0	0
		ハイブリッド	0	0	0	0	0	0					0	0
	交流相手国 中国及び韓国	実渡航	0	0	0	0	16	0					16	0
		オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A	0	0
			B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B	0	0
		ハイブリッド	0	0	0	0	0	0					0	0
	交流相手国 中国及びASEAN	実渡航	0	0	0	0	1	0					1	0
		オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A	0	0
			B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B	0	0
		ハイブリッド	0	0	0	0	0	0					0	0
	交流相手国 韓国及びASEAN	実渡航	0	0	0	0	2	0					2	0
		オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A	0	0
			B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B	0	0
		ハイブリッド	0	0	0	0	0	0					0	0
	交流相手国 中国、韓国及びASEAN	実渡航	0	0	8	0	0	0					8	0
		オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A	0	0
			B 6	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B	6	0
		ハイブリッド	0	0	0	0	0	0					0	0
自己負担又は大学負担等による交流学生数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		実渡航	0	0	0	0	0	0					0	0
		オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A	0	0
			B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B	0	0
		ハイブリッド	0	0	0	0	0	0					0	0

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑤：【交流形態別　内訳】（計画）

●申請時の計画調書記載人数

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数		0	0	12	0	24	0	12	36	12	36
	実渡航	0	0	6	0	12	0	6	12	6	14
	オンライン	0	0	6	0	12	0	6	24	6	22
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	42	21	48	48	48	48	48	48
	実渡航	0	0	12	6	12	12	12	12	12	12
	オンライン	0	0	30	15	36	36	36	36	36	36
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	1	1	2	1	2	1	2
	実渡航	0	0	0	1	1	2	1	2	1	2
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

●海外相手大学追加調書分

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

●合計

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
		0	0	12	0	24	0	12	36	12	36
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	0	0	6	0	12	0	6	12	6	14
	オンライン	0	0	6	0	12	0	6	24	6	22
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	42	21	48	48	48	48	48	48
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	12	6	12	12	12	12	12	12
	オンライン	0	0	30	15	36	36	36	36	36	36
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	1	1	2	1	2	1	2
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	1	1	2	1	2	1	2
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

⑥：【交流形態別　内訳】（実績）

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別　内訳】											
①単位取得を伴う交流期間30日未満の交流学生数		0	0	4	0	4	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	4	0	4	0				
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0				
②単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0				
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0				
③単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	10	3	3	12	0	0	0	0
	実渡航	0	0	8	3	3	6				
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 6	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0	2	0	0	0				
④上記以外の交流期間30日未満の交流学生数		6	0	4	18	12	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	4	12	12	0				
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 6	A 0	A 0	A	A	A	A
		B 6	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0				
⑤単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0				
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0	0	0		0				
⑥上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0				
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0				

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑦：宿舎の提供について（実績）

宿舎（大学所有の宿舎、大学借り上げによる宿舎等）を提供した学生数	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	18	15	19	6					37	21

⑧ 同窓会ネットワークへの参加者数について(実績)　※タイプA①・タイプA②のみ

第２モードまでの間に準備を進めてきた同窓会ネットワークへの参加者数について	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	合計
						0

⑨：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

派遣学生数は当初の目標値に到達しないものの、当初の交流プログラムであった「①交換留学」「②インテンシブプログラム」は新型コロナウイルスによる渡航制限解除後は全ての機会で順調に実行している。また、「③共同オンライン科目群」の開講は当初の予定から遅れたものの2023年度に単位付与を行うパイロットプログラムとして立教大学が開講し、2024年度には、ソウル大学校、北京大学、立教大学の3大学での開講が決定したことで、プログラムの骨子はほぼ確立された。また、現在は構想調書に記載していない交流プログラムとして「④eTandem」の構想に取り掛かっており、2024年度中のパイロットプログラムを目指し、パートナー大学との調整を開始したところである。

派遣数については、今後の「③共同オンライン科目群」の開講状況次第で大きく目標に戻すことが期待されており、引き続き、事業の骨子となっている「①交換留学」「②インテンシブプログラム」を実施すると共に、「④eTandemプログラム」を実用化に向けて進めることで、目標達成を目指したい。

【特に優れた取組】

本事業において特に優れている点は、2大学のブリッジング留学であり、そのいずれもアジアトップレベルの大学において教えられているリベラルアーツを学ぶ点にある。リベラルアーツと言えば欧米各国を発祥としており、東アジア、東南アジアで学ぶことについては、一般的な視点から見た場合、効果について疑念を持たれるかもしれない。しかし、リベラルアーツとは世界の理解という根源的な問題にアプローチするための学問であり、「それぞれの国がリベラルアーツをどのように理解しているのか」を学ぶ場合、学ぶ場所が欧米であることは必ずしも必要ではない。必要なことは、複眼的な視点であり、日本で学ぶリベラルアーツ、韓国、中国、シンガポールで学ぶリベラルアーツの共通点と相違点を経験することこそ重要な点である。本事業では、日本を含めて少なくとも3つ、最大4つの国のリベラルアーツ教育に触れることとなる。海外の２つの大学で学ぶのではなく、同じテーマを複数の大学で学ぶことで比較し、更なる理解を深める機会となる。このプログラムでは中間報告会、成果報告会という形でプログラムの節目で、経験の言語化と、同じ経験をした学生同士の振り返りを行っている。この振り返りをもって、他者の視点も含めた複眼的な視点を取り入れていることは、参加者の意識づけに大きな効果を与えている。

⑩：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

受入学生数は当初の目標値に到達していないものの、当初の交流プログラムであった「①交換留学」「②インテンシブプログラム」は新型コロナウイルスによる渡航制限解除後は全ての機会で順調に実行している。また、「③共同オンライン科目群」の開講は当初の予定から遅れたものの2023年度に単位付与を行うパイロットプログラムとして立教大学が開講し、2024年度には、ソウル大学校、北京大学、立教大学の3大学での開講が決定したことで、プログラムの骨子はほぼ確立された。また、現在は構想調書に記載していない交流プログラムとして「④eTandem」の構想に取り掛かっており、2024年度中のパイロットプログラムを目指し、パートナー大学との調整を開始したところである。

受入数については、今後の「③共同オンライン科目群」の開講状況次第で大きく目標に戻すことが期待されており、引き続き、事業の骨子となっている「①交換留学」「②インテンシブプログラム」を実施すると共に、「④eTandemプログラム」を実用化に向けて進めることで、目標達成を目指したい。

【特に優れた取組】

2023年度に開講した共同オンライン科目群では、本学の教育の特色である、リーダーシップに関する科目開講を行った。このプログラムは2022年度に本学で開催したサマーインテンシブプログラムのテーマに対して、参加者から非常に大きな関心を受けたこと受けて、本テーマで開催することとした。立教大学におけるリーダーシッププログラムの在り方は、東アジア、ASEANにおける旧来型のリーダーシップの在り方と大きく異なっており、日本発の新型のリーダーシップ教育を発信する好機となった。

日本で行われているリーダーシップ教育が、アジア諸国の価値観に大きな影響を与えることは、今後の日本における特色ある教育の一つとして取り上げられる可能性を示したものと考えられる。

（2） その他（上記（1）に該当するもの以外）

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
2022年2月	CE2022ウインターインテンシブプログラム （開催校：ソウル大学校）	6 人
2022年２月～2023年１月	2022年秋学期 北京大学オンライン科目	2 人
		人
		人

（3） 任意指標 ※タイプA②・タイプB②のみ

① 本事業で設定している任意指標

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
（指標1）					
（指標2）					
（指標3）					
（指標4）					
（指標5）					

② 2023年度末における目標の達成状況

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
（指標1）					
（指標2）					
（指標3）					
（指標4）					
（指標5）					

③ 進捗状況のコメント

【特に優れた取組】

（4）本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

（ｉ）単位互換を実施する海外相手大学数【計画】　（単位：校）

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
単位互換を実施する海外相手大学数	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	2	2	2	2	2	2	2	2

（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【計画】　（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学　【大学名：　立教大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
ソウル大学校	認定者数	0	26	29	17	29
	認定単位数	0	92	96	72	96
北京大学	認定者数	0	14	28	28	16
	認定単位数	0	68	96	96	72
シンガポール国立大学	認定者数	0	14	16	16	16
	認定単位数	0	68	72	72	72
年度別認定者数合計		0	54	73	61	61
年度別認定単位合計		0	228	264	240	240

2. 国内連携大学　【大学名：　　大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位合計		0	0	0	0	0

【2023年度末における目標の達成状況】

（ｉ）単位互換を実施した海外相手大学数【実績】　（単位：校）

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
単位互換を実施した海外相手大学数	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	1	1	3	3				

（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【実績】　（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

（ｉ）代表申請大学　【大学名：　立教大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
ソウル大学校	認定者数	0	2	6		
	認定単位数	0	24	70		
北京大学	認定者数	0	0	6		
	認定単位数	0	0	34		
シンガポール国立大学	認定者数	0	0	3		
	認定単位数	0	0	25		
年度別認定者数合計		0	2	15	0	0
年度別認定単位合計		0	24	129	0	0

2. 国内連携大学　【大学名：　　大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位合計		0	0	0	0	0